

# S600-OP

**S600-OP** マニュアル

## 目次

## 本マニュアルの説明

<b>1. はじめに</b>	<b>4</b>
<b>1-1. 機材の確認</b>	<b>5</b>
メインユニットの同梱品	5
<b>1-2. 設置条件</b>	<b>5</b>
<b>1-3. 主な仕様</b>	<b>6</b>
メインユニット	6
デコーダーユニット	6
エンコーダーユニット（オプション）	6
ハードウェア制御パネル（オプション）	6
<b>1-4. 本製品を正しくお使いいただくために</b>	<b>7</b>
警告！	7
注意！	8
<b>2. 各部の名称と機能</b>	<b>9</b>
<b>2-1. S600-OP システムについて</b>	<b>10</b>
<b>2-2. S600-OP 詳細説明</b>	<b>12</b>
ハードウェア制御パネル(オプション)	15
<b>2-3. S600-OP システム構成</b>	<b>16</b>
中間モニタ(単独)構成-独立した教室(メインユニット 1 台)の場合	16
中間モニタ(単独)構成-分離統合教室(メインユニット 2 台)の場合	17
アクティブラーニング教室構成を構築する場合	18
中間モニタ(連携)構成を構築する場合	19
<b>3. システム導入</b>	<b>20</b>
<b>3-1. S600-OP の設置手順について</b>	<b>21</b>
設置手順の概要	21
中間モニタ(単独)構成の設置手順	23
中間モニタ(単独)構成-分離統合教室時の設置手順	24
アクティブラーニング構成の設置手順	25
中間モニタ(連携)構成の設置手順	26
<b>3-2. S600-OP の接続手順</b>	<b>27</b>
接続手順の概要	27
接続の準備／機器の配置	28
メインユニットと教員 PC の接続	29
プレビューモニタの接続	30
プロジェクターの接続	31
中間モニタの接続	31
固定金具(オプション)の設置方法	32
<b>3-3. 制御アプリケーションのインストール</b>	<b>34</b>
プログラムのインストール	34
<b>3-4. 制御アプリケーションのアンインストール</b>	<b>37</b>

プログラムのアンインストール	37
<b>3-5. 制御アプリケーションの設定</b>	<b>38</b>
制御アプリケーションの設定	38
入力デバイス設定	39
出力デバイス設定	43
詳細設定	49
初期値の入出力機器の自動選択設定：アクティブラーニングモードのみ	54
初期値のパネル選択状態に戻す：アクティブラーニングモードのみ	55
入力デバイス設定：中間モニタ連携モードの場合	56
<b>3-6. スイッチングハブの設定</b>	<b>57</b>
パナソニック LS ネットワークス社製	58
アライドテレシス社製	65
<b>3-7. ハードウェア制御パネルの設定(オプション)</b>	<b>67</b>
<b>3-8. 機器を交換時の手順</b>	<b>69</b>
<b>3-9. FAQ(よくあるお問い合わせ)</b>	<b>70</b>
<b>4. システム操作</b>	<b>73</b>
<b>4-1. 制御アプリケーションの各ボタン概要</b>	<b>74</b>
各ボタンの概要-中間モニタ(単独)構成の場合	74
各ボタンの概要-アクティブラーニング構成の場合	75
<b>4-2. 制御アプリケーションの操作方法</b>	<b>76</b>
S600-OP 制御アプリケーションの起動	76
基本操作：映像および音声の送出	77
選択したソースを全ての機器に投影する	83
映像・音声の送出を停止する	84
<b>4-3. ハードウェア制御パネル(オプション)の操作方法</b>	<b>85</b>
各ボタンの概要	85
基本操作：映像および音声の送出	87
選択したソースを全ての機器に投影する	90
映像・音声の送出を停止する	91
分離・統合モードの切替方法	92
<b>CHIERU サポートについて</b>	<b>93</b>



# 本マニュアルの説明

本マニュアルは、S600-OP の設置・操作方法について記載しています。

## ■ マニュアルの構成について

章.タイトル	説 明
1. はじめに	ここでは、S600-OP の仕様概要などについて説明します。
2. 各部の名称と機能	ここでは、S600-OP システムを構成する各機器の詳細と接続方法について説明します。
3. システム導入	ここでは、S600-OP 制御アプリケーションやスイッチングハブの設定方法について説明します。
4. システム操作	ここでは、操作パネルを使った S600-OP システムの操作方法について説明します。

## ■ マニュアル内のマークについて

マーク	説 明
 注意	操作を行う際の注意する点について記述しています。
 ポイント	操作を行う際のポイントを記述しています。

# 1

## 1.はじめに

---

ここでは、S600-OP の仕様概要などについて説明します。  
S600-OP は、パソコン教室や CALL 教室において、AV 機器  
や教員 PC の映像・音声を転送するシステムです。

HDMI 信号規格に対応し、高精細な画像を圧縮(\*)してネッ  
トワーク配信を行います。同時に AV 機器の音声や教員 PC  
の音声などのステレオ音声も配信することができます。

(\*)圧縮形式 JPEG2000

- 機材の確認
- 設置条件
- 主な仕様
- 本製品を正しくお使いいただくために

---

## 1-1.機材の確認

### メインユニットの同梱品

- ・メインユニット本体(エンコーダーユニット 4 個, ケース) × 1 台
- ・メインユニット用 AC アダプタ × 4 個
- ・マニュアル
- ・添付 CD

エンコーダーユニット、デコーダーユニットの映像信号の転送には、映像転送用 LAN ケーブルとして別途、ご用意して頂く必要があります。この映像転送用 LAN ケーブルは、以下の仕様が必要となりますので、十分、ご注意をお願いいたします。

[映像転送用 LAN ケーブル仕様]

仕様	内容
カテゴリ	CAT6 以上
ケーブル構造	ストレート結線、STP(シールド付き)

\* ケーブル長は、100m 以内で接続してください。

\* 自作により LAN ケーブルを作成する場合には、「単線」を利用してください。

### ㊟ポイント

- ・ S600-OP システムは、メインユニットとその付属品のほか、必要台数のデコーダーユニットと、必要な長さ・本数のケーブルで構成されます。
- ・ S600-OP で映像出力する際はネットワークに負荷がかかりますので、校内ネットワークに S600-OP を接続して使用しないでください。

---

## 1-2.設置条件

- ・ 温度：10℃～35℃
- ・ 湿度：20%～80%（ただし結露しないこと）

## 1-3.主な仕様

### メインユニット

デコーダー接続台数	: メインユニット 1 台につき最大 100 台
映像・音声入力	: HDMI 機材 4 系統
映像・音声出力	: HDMI 機材 4 系統(入力ソースの HDMI 信号分配)
ネットワーク制御	: RJ45
結線方式	: ネットワークスイッチングへの接続
接続方式	: スター型結線方式
消費電力	: 24W 以下(エンコーダーユニット 6W 以下)
外形寸法	: W482×H44×D116 (mm / マウント金具および突起部を除く)
重量	: 約 3.8kg

### デコーダーユニット

接続台数	: デコーダーユニット 1 台につきモニタ 2 台
映像・音声出力	: HDMI 機材 1 系統、3.5mm アナログ出力 1 系統
ネットワーク制御	: RJ45
消費電力	: 5W 以下
出力信号	: HDMI
外形寸法	: W104×H28×D112 (mm / 突起部を除く)
重量	: 約 321g

### エンコーダーユニット (オプション)

映像・音声入力	: HDMI 機材 1 系統
映像・音声出力	: HDMI 機材 1 系統(入力ソースの HDMI 信号分配)
ネットワーク制御	: RJ45
消費電力	: 6W 以下
外形寸法	: W104×H28×D112 (mm / 突起部を除く)
重量	: 約 321g

### ハードウェア制御パネル (オプション)

ネットワーク制御	: RJ45
設定用制御ポート	: USB ポート
消費電力	: 6W 以下
外形寸法	: W170×H24×D130 (mm / 突起部を除く)
重量	: 約 500g

## 1-4.本製品を正しくお使いいただくために

### 警告！

- ・本体から何かこげるような匂いがしたり、煙が出たり、異様な音がした場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。そのままご使用になると、火災や感電の原因となります。
- ・万一内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。そのままご使用になると、火災や感電の原因となります。
- ・本体を落したり破損したりした場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。そのままご使用になると、火災や感電の原因となります。
- ・分解や修理改造は、絶対にしないでください。火災や感電の原因となります。また、無償保証の対象外となります。修理は販売店にご相談ください。
- ・ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがや破損の原因となります。
- ・付属の電源コード以外は使用しないでください。火災や感電の原因となります。
- ・電源電圧が 100V±10%の範囲内であることを確認してください。範囲外の電源を使用すると、火災や感電の原因となります。
- ・本体の通風口などから内部に、金属類や燃えやすいものなどの異物を、差し込んだり、押し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災や感電の原因となります。
- ・電源コードの上に重いものを載せたり、電源コードがモニタなどの下敷きにならないように気をつけてください。電源コードが傷むと、火災や感電の原因となります。
- ・電源コードが傷んだときは販売店にご相談ください。そのままご使用になると、火災や感電の原因となります。
- ・電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたりねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災や感電の原因となります。
- ・水場では使用しないでください。火災や感電の原因となります。
- ・雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



## 注意！

- ・ 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。
- ・ 加湿器のそばなど、湯煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。
- ・ 本体の通風口をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ・ 本体の上に重いものを置かないでください。倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。
- ・ 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶け、火災や感電の原因となることがあります。
- ・ 電源プラグを抜くときはコードを引っ張って抜かないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグ部分を持って抜くようにしてください。
- ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- ・ 移動させる場合は、まず電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続ケーブルなどを取り外してから行ってください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- ・ お手入れの際は、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。
- ・ 長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

# 2

## 2.各部の名称と機能

---

ここでは、S600-OP システムを構成する各機器の詳細と接続方法について説明します。

- **S600-OP システムについて**
- **S600-OP 詳細説明**
- **S600-OP システム構成**

## 2-1.S600-OP システムについて

S600-OP は、メインユニットに接続した教員 PC の映像や AV 機器の映像を、教室内のプロジェクター、プレビューモニターや学習者ブースにある中間モニター、電子黒板などに転送するシステムです。

先生は、本システムと接続する操作アプリケーション(Windows アプリケーション)を操作して、どの再生機器の映像を転送するかを選び、中間モニター、電子黒板への転送を行います。

操作アプリケーションは、教室の構成に合わせて「中間モニター(単独構成)」構成やグループ学習向けの「アクティブラーニング」構成のモードを選択することができます。

また、HDMI マトリクススイッチャーと連携して学生側への映像転送を行う、「中間モニター(連携構成)」の構成を行うことができます。

図 2-1-1 システム構成例（メインユニット）

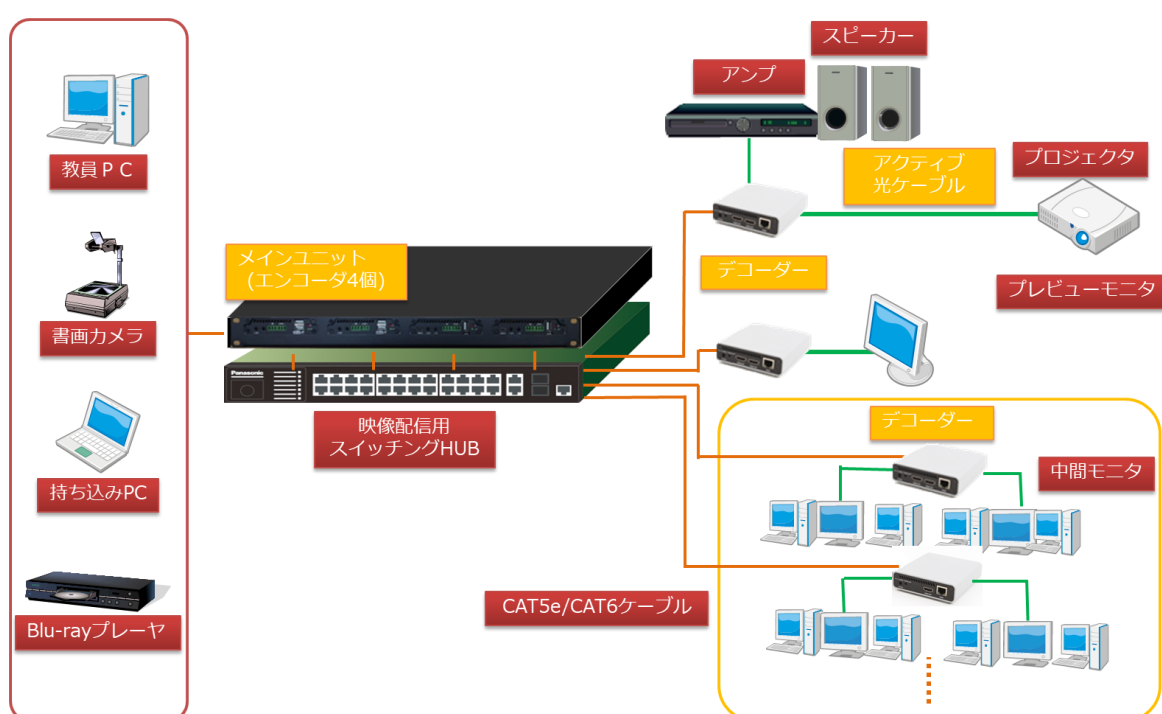
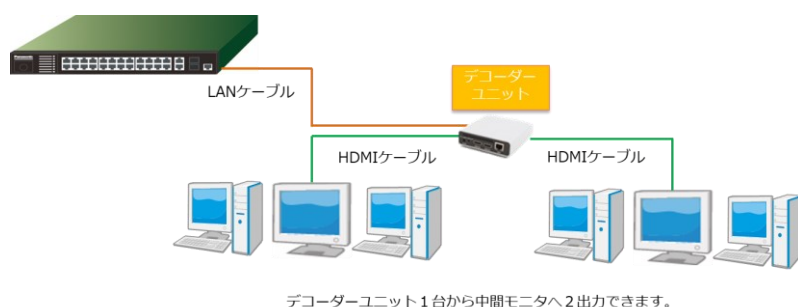


図 2-1-2 システム構成例（デコーダーユニット）



デコーダーユニット 1 台から中間モニターへ 2 出力できます。

### ⚠注意

- 先生 PC、学習者 PC、各モニター、AV 機器、プロジェクター、書画カメラ等の入出力機器、およびスイッチングハブは、本システムには付属していません。スイッチングハブは、対応製品がありますので、導入時注意事項に記載している機器を選定してください。

## ④ポイント

- 転送可能な映像は、メインユニットに接続されている HDMI 機器および教員 PC の映像です。ビデオ機器、教員 PC などの HDMI は 4 台まで接続できるので、転送する映像をこれらから選ぶことができます。
- プレビューモニターには、選択したビデオ機器や教員 PC の映像が表示され、中間モニターに転送する前に、転送する映像を確認することができます。

## 2-2.S600-OP 詳細説明

### ■ メインユニット

図 2-2-1 前面

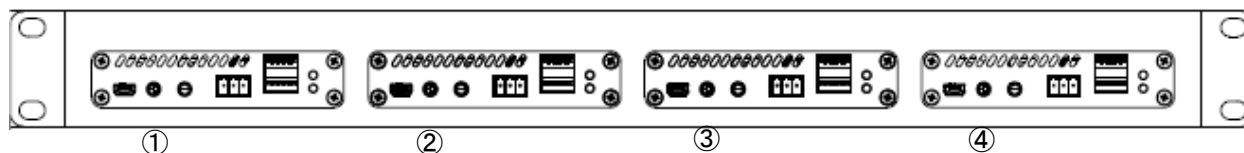


表 2-2-1

No.	説 明
①	エンコーダーユニット 1 L-IN 音声入力端子
②	エンコーダーユニット 2 L-IN 音声入力端子
③	エンコーダーユニット 3 L-IN 音声入力端子
④	エンコーダーユニット 4 L-IN 音声入力端子

図 2-2-2 背面

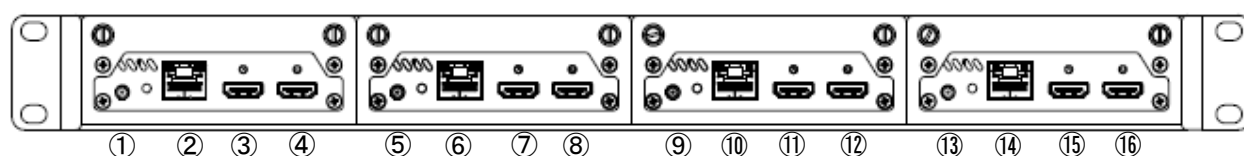


表 2-2-2

No.	説 明
①	エンコーダーユニット 1 +5V DC 電源アダプタ接続コネクタ
②	エンコーダーユニット 1 RJ45 映像信号・制御用 LAN ポート
③	エンコーダーユニット 1 HDMI-IN 入力端子
④	エンコーダーユニット 1 Local Display 分配出力端子
⑤	エンコーダーユニット 2 +5V DC 電源アダプタ接続コネクタ
⑥	エンコーダーユニット 2 RJ45 映像信号・制御用 LAN ポート
⑦	エンコーダーユニット 2 HDMI-IN 入力端子
⑧	エンコーダーユニット 2 Local Display 分配出力端子
⑨	エンコーダーユニット 3 +5V DC 電源アダプタ接続コネクタ
⑩	エンコーダーユニット 3 RJ45 映像信号・制御用 LAN ポート
⑪	エンコーダーユニット 3 HDMI-IN 入力端子
⑫	エンコーダーユニット 3 Local Display 分配出力端子
⑬	エンコーダーユニット 4 +5V DC 電源アダプタ接続コネクタ
⑭	エンコーダーユニット 4 RJ45 映像信号・制御用 LAN ポート
⑮	エンコーダーユニット 4 HDMI-IN 入力端子
⑯	エンコーダーユニット 4 Local Display 分配出力端子

## ■ デコーダーユニット

図 2-2-3 前面

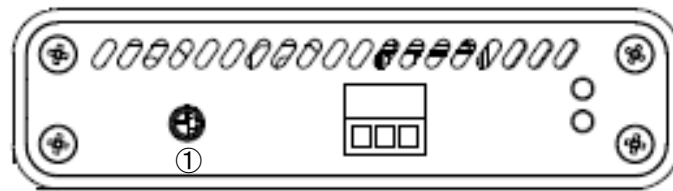


表 2-2-3

No.	説 明
①	L-OUT 音声出力端子

図 2-2-4 背面

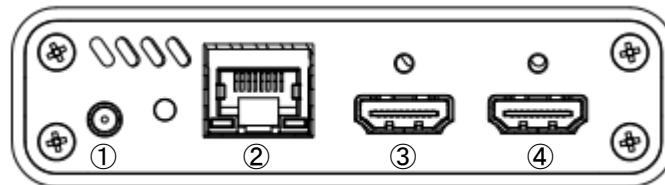


表 2-2-4

No.	説 明
①	+5V DC 電源アダプタ接続コネクタ
②	RJ45 映像信号・制御用 LAN ポート
③	HDMI OUT A HDMI 出力 A ポート
④	HDMI OUT B HDMI 出力 B ポート

## ■ エンコーダーユニット(オプション)

図 2-2-5 前面



表 2-2-5

No.	説 明
①	L-IN 音声入力端子

図 2-2-6 背面

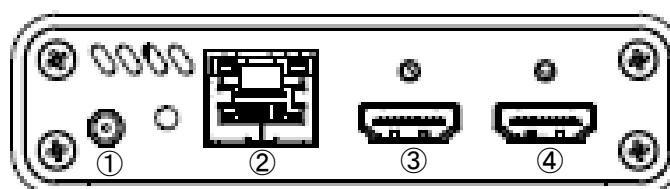
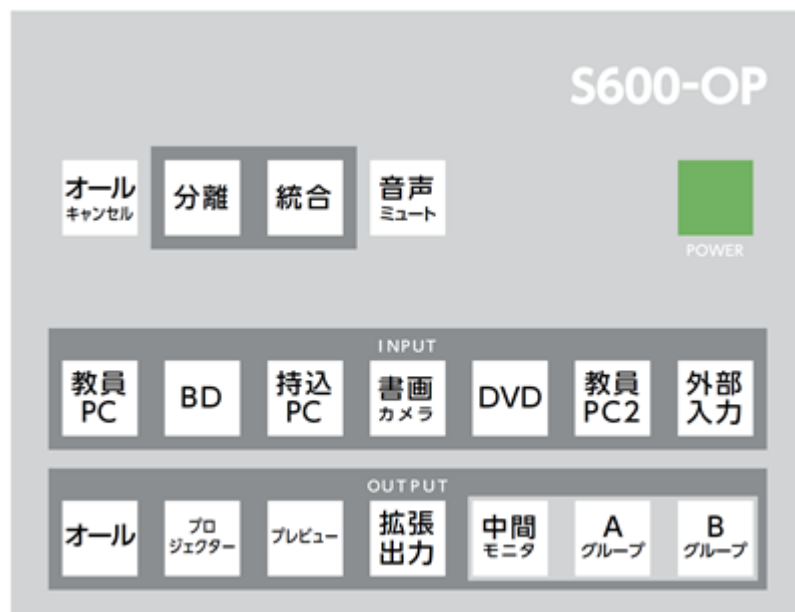


表 2-2-7

No.	説 明
①	+5V DC 電源アダプタ接続コネクタ
②	RJ45 映像信号・制御用 LAN ポート
③	HDMI-IN 入力端子
④	Local Display 分配出力端子

## ハードウェア制御パネル(オプション)

図 2-2-7 上面





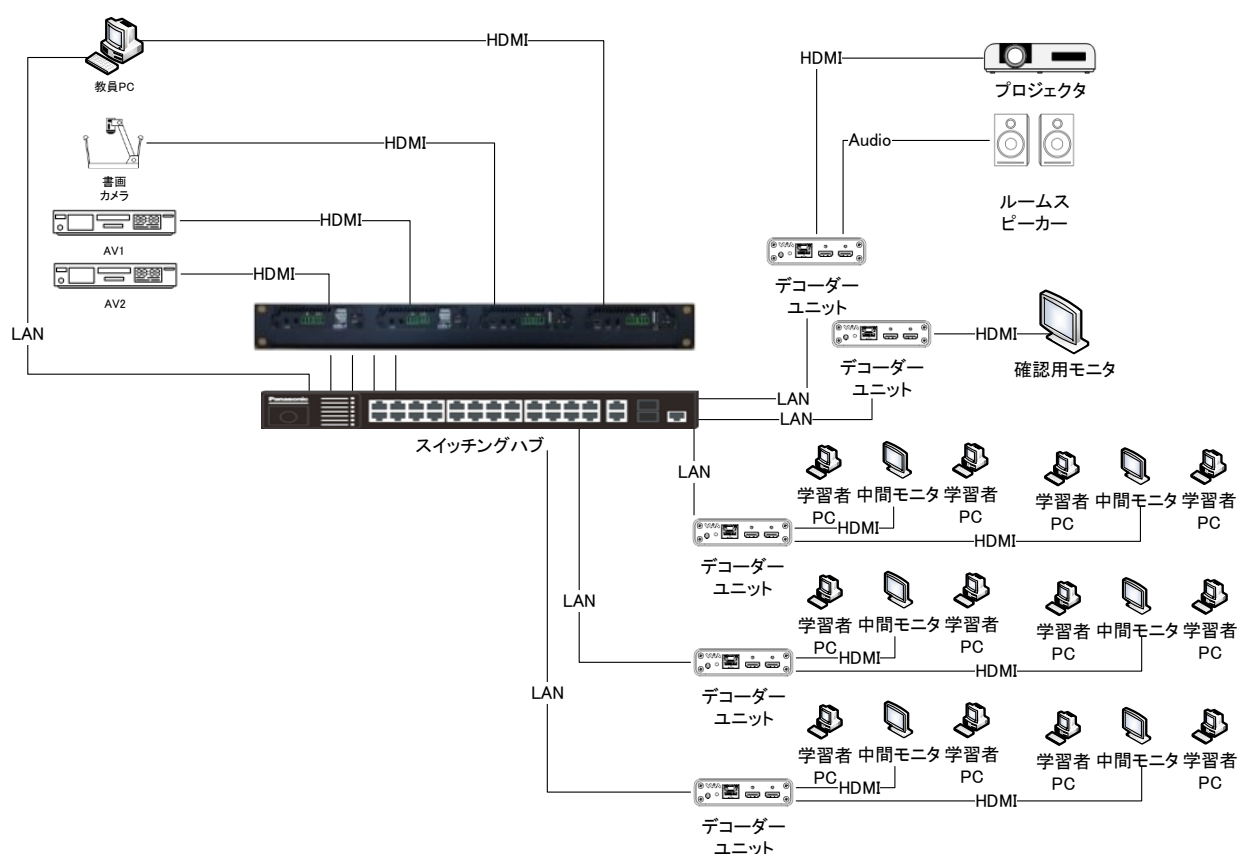
## 2-3.S600-OP システム構成

S600-OP システムでは、メインユニット 1 台とスイッチングハブを使用する構成を基本構成とします。

### 中間モニタ(単独)構成-独立した教室(メインユニット 1 台)の場合

最大 200 台まで中間モニタ(デコーダーユニット 最大 100 台)を設置できます。

図 2-3-1

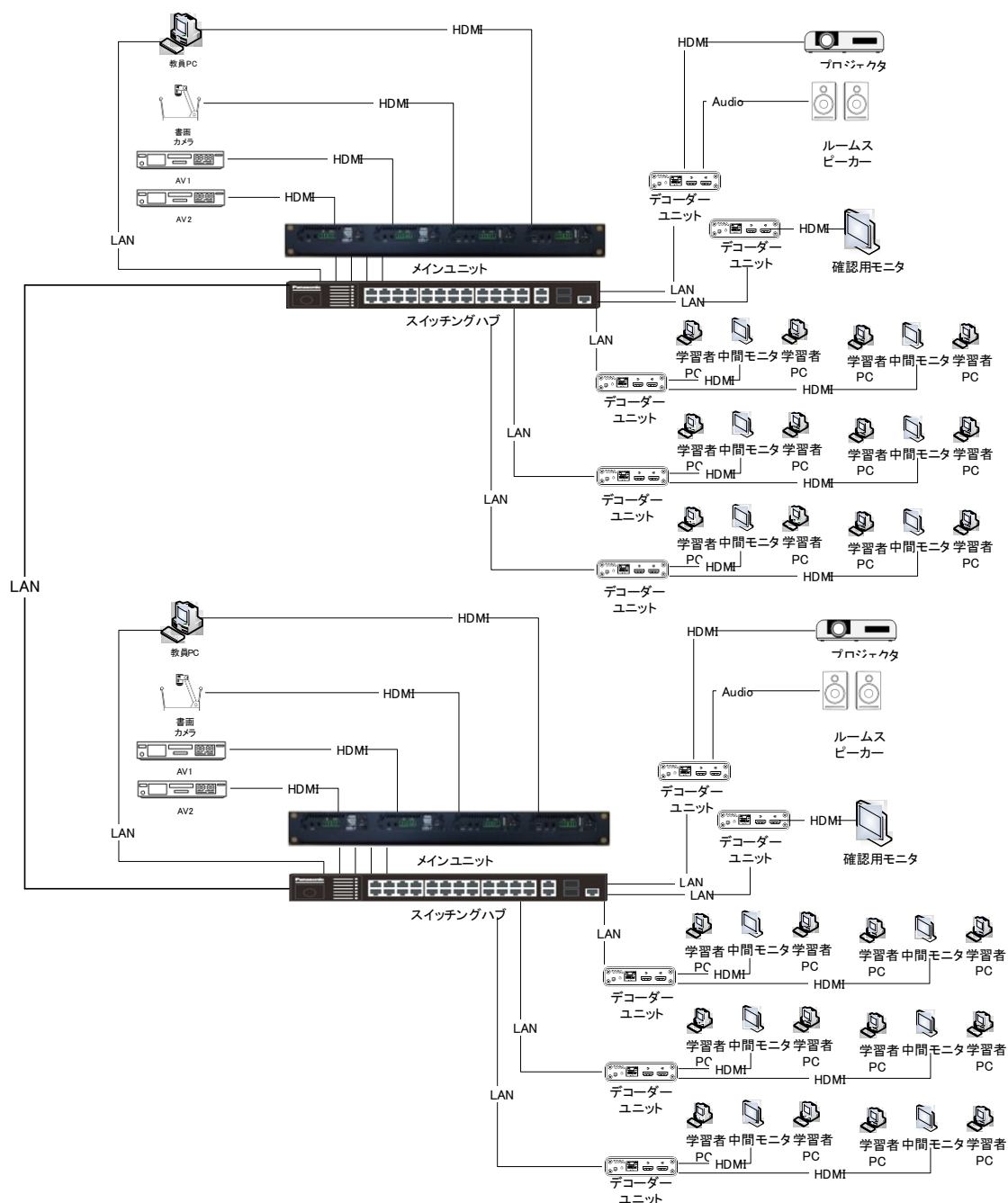


## 中間モニタ(単独)構成-分離統合教室(メインユニット 2 台)の場合

第一教室、第二教室の 2 つの教室を分離、統合して映像配信を行う際の構成です。中間モニタを最大 200 台（各教室デコーダーユニット 50 台×2 教室 デコーダーユニット 1 台に中間モニタ 2 台接続）まで接続できます。

教室に設置するスイッチングハブ同士は、カスケード接続を行ってください。(100m 以内)  
操作アプリケーション起動後は分離教室として使用する設定になっています。

図 2-3-2



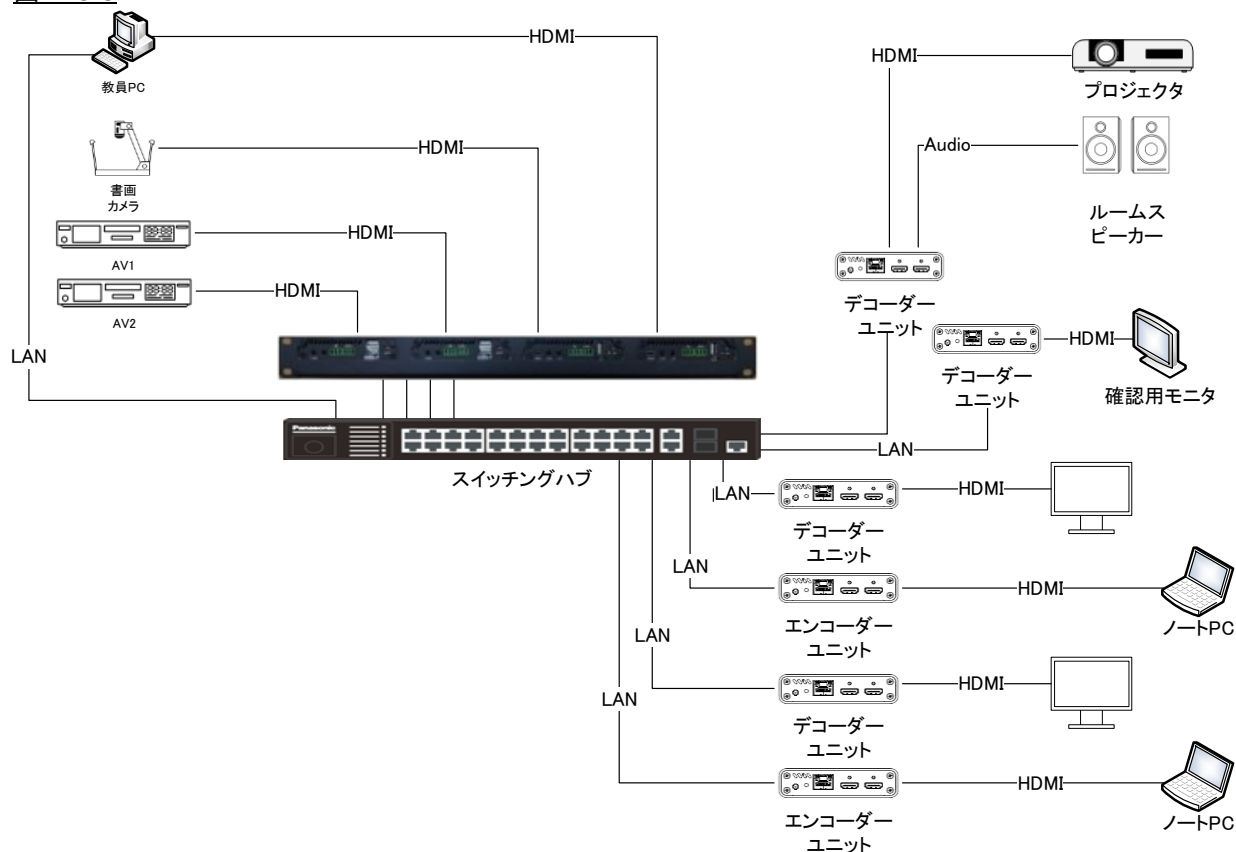
### ⚠️ 注意

- 統合教室として使用する場合、メインユニット、デコーダーユニット、エンコーダーユニットの IP アドレスは重複しないように設定してください。
- 統合教室として使用する場合、メイン教室で選択した中間モニタ出力がサブ教室側のデコーダーユニットに映像出力されます。

## アクティブラーニング教室構成を構築する場合

グループ学習をおこなうアクティブラーニング教室構成での映像配信を行う際の構成です。  
各グループに電子黒板、グループ学習用ノートパソコンが設置されるので、電子黒板にはデコーダーユニット、グループ学習用ノートパソコンにはエンコーダーユニットを接続してください。

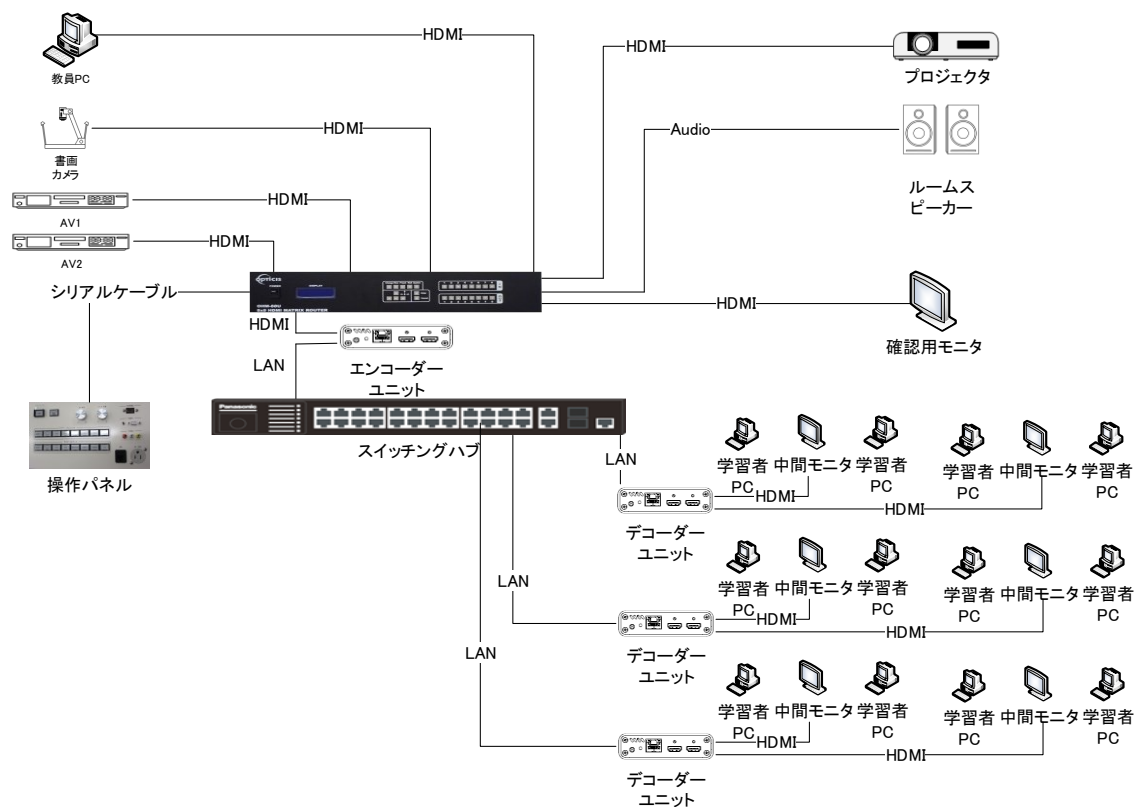
図 2-3-3



## 中間モニタ(連携)構成を構築する場合

S600-OP では学習者側への映像配信のみを行う構成で、マトリクススイッチャーやセクターにより映像切替えを行う構成です。特注パネルでマトリクススイッチャーを制御する構成する場合、学習者への映像配信処理を S600-OP で行います。

図 2-3-4



# 3

## 3.システム導入

---

ここでは、操作パネルを使った S600-OP システムの操作方法について説明します。

- S600-OP の設置手順について
- S600-OP の接続手順
- 制御アプリケーションのインストール
- 制御アプリケーションのアンインストール
- 制御アプリケーションの設定
- スイッチングハブの設定

## 3-1.S600-OP の設置手順について

### 設置手順の概要

S600-OP は、以下に示す 3 つの構成を構築することが可能で、それぞれの構成に合わせた設置手順があります。各エンコーダーユニット、デコーダーユニットには固有タグがあり、この固有タグは役割に合わせてアプリケーションに登録を行ってください。各構成に合わせた手順を以下に記載します。

#### 構成 1 :

中間モニタ (単独) モードでは、教卓側にメインユニットとスイッチングハブを設置して、学生側の中間モニタ側にデコーダーユニットを設置します。

オプション設定として、中間モニタ表示を 2 つのグループに分けることができます。設定されたそれぞれデコーダーユニットのタグを参照し、A 或いは B グループの中間モニタに設置します。

また、分離統合教室として利用したい場合は、アプリケーションの出力デバイス設定画面で他教室のデコーダーデバイスを登録することで対応できます。

#### 構成 2 :

アクティブラーニングモードでは、教卓にある AV 機器をメインユニットに接続します。

グループ毎に用意したエンコーダーユニットは各グループのノートパソコンに接続して、デコーダーユニットは電子黒板に接続します。

#### 構成 3 :

中間モニタ (連携) モードでは、自動 IP 設定ボタンを押すだけの設定になります。

#### 設置手順 :

	構成 1 : 中間モニタ (単独) モード	構成 2 : アクティブラーニングモード	構成 3 : 中間モニタ (連携) モード
準備	コントロール用 PC の IP を 192.168.201.250 に設定	コントロール用 PC の IP を 192.168.201.250 に設定	コントロール用 PC の IP を 192.168.201.250 に設定
設計 設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教卓にメインユニット、スイッチングハブを設置</li> <li>・中間モニタにデコーダーユニットを設置</li> </ul> [オプション] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A、B グループ設定</li> <li>・ 分離統合教室設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインユニットソースを接続する</li> <li>・各グループには、エンコーダーユニットとデコーダーユニットを 1 台ずつ設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンコーダーユニット 1 台</li> <li>・中間モニタにデコーダーユニットを設置</li> </ul>
ハブ 設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GA-MS16T(パナソニック製) IGMP、jumbo フレーム設定</li> <li>・AT-GS950/24(アライド製) IGMP 設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GA-MS16T(パナソニック製) IGMP、jumbo フレーム設定</li> <li>・AT-GS950/24(アライド製) IGMP 設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Switch-M16eG (パナソニック製) jumbo フレーム設定</li> <li>・AT-GS910/16(アライド製) 設定なし</li> </ul>
アプリ 登録	デバイスを登録	デバイスを登録	デバイスを登録

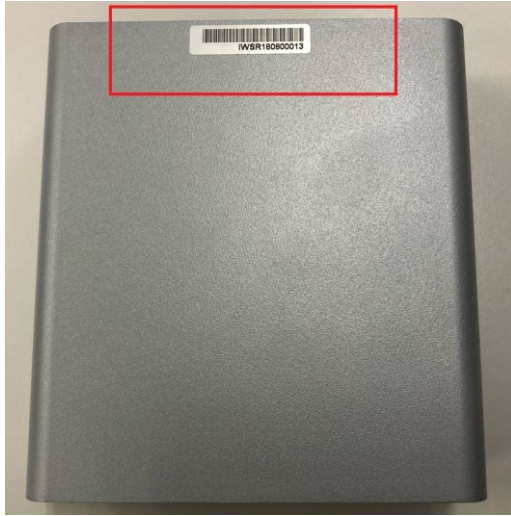
### ④ポイント

- ・制御アプリケーションを設定時にタグ番号が必要になりますので、本体のタグ番号がすぐ確認できない環境に設置する場合は、事前にタグ番号を抑えてください。

## ④ポイント

- デバイスとアイコンはタグ番号を基にしていますので、デコーダーユニットの本体に貼ってあるタグ番号を確認しながらデバイスを設置してください。

- ・ デコーダーユニットの場合、タグの貼付場所（エンコーダーユニットも同様）



- ・ メインユニットの場合、タグの貼付場所



## 中間モニタ(単独)構成の設置手順

中間モニタ(単独)構成で標準的な設置手順について説明します。

### 設計・設置

1. 教卓にメインユニットとスイッチングハブを設置します。
2. ソース（教員 PC、ブルーレイプレイヤー、書画カメラなど）をメインユニットに接続します。
3. プロジェクター用のデコーダーユニットを設置します。
4. プレビューモニタ用のデコーダーユニットを設置します。
5. 中間モニタ近くにデコーダーユニットを設置します。

### ハブ設定

6. スwitchングハブを設定します。（P.57 をご参照してください。）

### アプリ登録

7. S600-OP コントロール用 PC に制御アプリケーション(中間モニタ単独)をインストールします。  
アプリケーションの設定を行います。（P.37 をご参照してください。）
8. 動作確認を実施します。

### [オプション設定]

中間モニタ(単独)構成で AB グループを分け時の設置手順について説明します。

### 設計・設置

1. 教卓にメインユニットとスイッチングハブを設置します。
2. ソース（教員 PC、ブルーレイプレイヤー、書画カメラなど）をメインユニットに接続します。
3. プロジェクター近くにデコーダーユニットを設置します。
4. プレビューモニタ近くにデコーダーユニットを設置します。
5. A グループの中間モニタのデバイスタグを記録します。
6. B グループの中間モニタのデバイスタグを記録します。
7. A グループと B グループそれぞれ場所にデバイスを設置します。

### ハブ設定

8. スwitchングハブを設定します。（P.57 をご参照してください。）

### アプリ登録

9. S600-OP コントロール用 PC に制御アプリケーション(中間モニタ単独)をインストールします。
10. アプリケーションの設定を行います。（P.37 をご参照してください。）  
手順 7 番でメモしたタグのグループを[中間モニタ B グループ]に変更します。
11. 動作確認を実施します。

## ④ポイント

- 統合教室を利用する場合には、A、B グループに分けた映像配信を行うことはできません。



## 中間モニタ(単独)構成-分離統合教室時の設置手順

中間モニタ(単独)構成で分離統合教室時の設置手順について説明します。

### 設計・設置

1. 教卓にメインユニットとスイッチングハブを設置します。
2. ソース（教員 PC、ブルーレイプレイヤー、書画カメラなど）をメインユニットに接続します。
3. プロジェクター近くにデコーダーユニットを設置します。
4. プレビューモニタ近くにデコーダーユニットを設置します。
5. 中間モニタ近くにデコーダーユニットを設置します。
6. 他教室の中間モニタのデバイスタグをメモします。
7. 統合される教室に他教室のデバイスを設置します。

### ハブ設定

8. スwitchングハブを設定します。(P.57 をご参照してください。)

### アプリ登録

9. S600-OP コントロール用 PC に制御アプリケーション(中間モニタ単独)をインストールします。
10. アプリケーションの設定を行います。(P.37 をご参照してください。)  
他教室の中間モニタのデバイスを他教室欄に登録します。
11. 動作確認を実施します。

## ④ポイント

- 統合教室を利用するときには、S600-OP システムのデコーダーユニット経由でルームスピーカーに音声出力した場合、制御アプリケーションの詳細設定のサウンド設定で、[中間モニターの音声は常にミュート状態にする]のチェックを外してご利用ください。(P.53 をご参照してください。)

## アクティブラーニング構成の設置手順

アクティブラーニング構成の設置手順について説明します。

### 設計・設置

1. 教卓側にメインユニットとスイッチングハブを設置します。
2. ソース（教員 PC、ブルーレイプレイヤーなど）をメインユニットに接続します。
3. 各グループで使用する PC 近くにエンコーダーユニットを設置します。
4. 各グループの電子黒板或いはプロジェクター近くにデコーダーユニットを設置します。

### ハブ設定

5. スwitchングハブを設定します。（P.57 をご参照してください。）

### アプリ登録

6. コントロール用 PC に制御アプリケーション(アクティブラーニング)をインストールします。
7. アプリケーションの設定を行います。（P.37 をご参照してください。）
8. 動作確認を実施します。

## 中間モニタ(連携)構成の設置手順

中間モニタ(連携)構成の設置手順について説明します。

### 設計・設置

1. 教卓側にエンコーダーユニットとスイッチングハブを設置します。
2. 上位のソース切り替え用マトリックススイッチャーとエンコーダーユニットを接続します。
3. 中間モニタ近くにデコーダーユニットを設置します。

### ハブ設定

4. スwitchングハブを設定します。(P.57 をご参照してください。)

### アプリ登録

5. S600-OP コントロール用 PC に制御アプリケーション(中間モニタ単独)をインストールします。
6. アプリケーションの設定を行います。(P.37 をご参照してください。)
7. 動作確認を実施します。

---

## 3-2.S600-OP の接続手順

### 接続手順の概要

以下に示す順序で、配置・接続を行ってください。

- 1) 接続の準備／機器の配置
- 2) メインユニットと教員 PC の接続
- 3) メインユニットと AV 機器の接続
- 4) プレビューモニタの接続
- 5) プロジェクターの接続

## 接続の準備／機器の配置

### ■ 接続の準備

教員 PC、中間モニタ、プレビューモニタ、ビデオ機器など、接続するすべての機器の電源を OFF にします。

### ■ 機器の配置

メインユニット・デコーダーユニット・中間モニタ・プレビューモニタ・AV 機器を適切な位置に配置し、十分な長さの接続用ケーブルを用意します。

メインユニット・プレビューモニタは教員 PC の近くに、デコーダーユニット・中間モニタは学習者 PC の近くに配置してください。

図 3-2-1



### ⚠ 注意

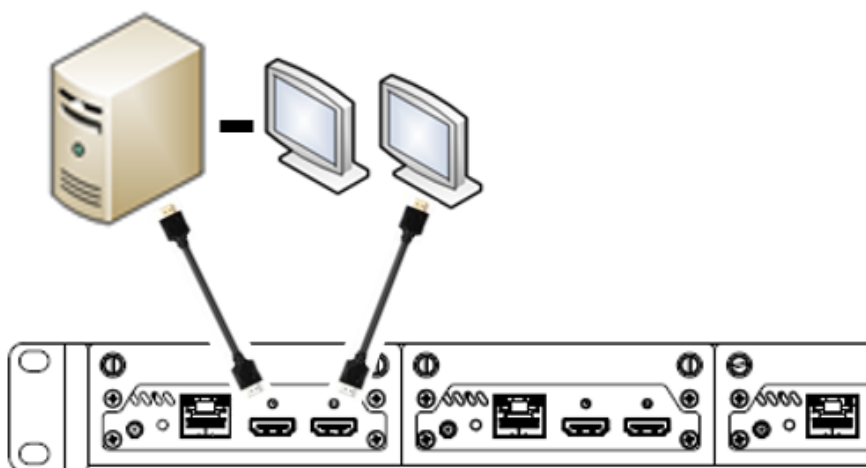
- S600-OP システムでは、グループを設定することも可能です。  
このグループは、デコーダーユニット単位に設定することができるため、デコーダーユニット設置時には、グループを考慮する必要があります。

## メインユニットと教員 PC の接続

メインユニットに、教員 PC と教員 PC 用のモニタなどを接続します。

教員 PC のデスクトップ画面出力を HDMI ケーブルでメインユニットの 1 つのエンコーダーの[HDMI IN]に接続してください。また、このエンコーダーの[Local Display]を HDMI ケーブルで教員 PC 用モニタに接続してください。

図 3-2-2



### ⑨ポイント

- CaLabo EX の教師 PC 音声をエンコーダーユニットに入力する場合、サウンドユニットの音声出力をエンコーダーユニット正面の[L-IN 音声入力端子]に接続してください。
- メインユニット(エンコーダーユニット)の RJ45 は LAN ケーブルでスイッチングハブと接続します。



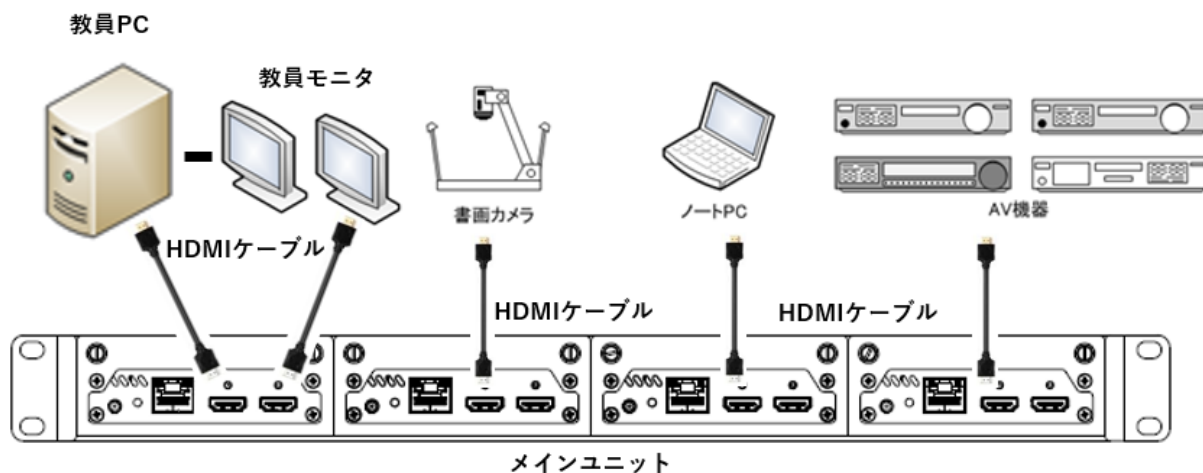
## メインユニットと AV 機器の接続

メインユニットに、ビデオデッキ・DVD プレーヤーなどの AV 機器を接続することが可能です。AV 機器の追加が必要な場合は、エンコーダーユニット(オプション)を追加購入することにより更に 6 台まで増設が可能です。(教員 PC も含めて、利用ソース最大 10 台まで可能)

AV 機器の映像・音声信号を HDMI ケーブルで接続してください。

HDMI ケーブルを使用し、ビデオ機器の映像出力端子と、メインユニットのいずれかの[HDMI IN]ポートに接続します。

図 3-2-3

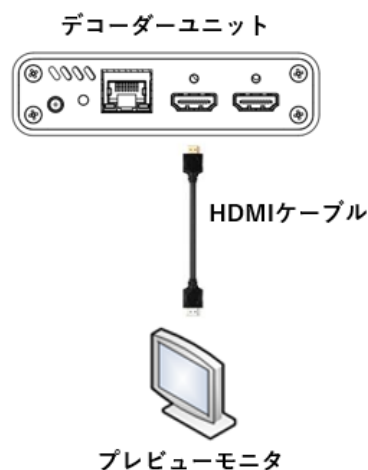


## プレビューモニタの接続

デコーダーユニットの[HDMI OUT A]に、プレビューモニタを接続します。

プレビューモニタは、現在選択されている AV 機器の映像の確認に使用します。

図 3-2-4



## ⚠注意

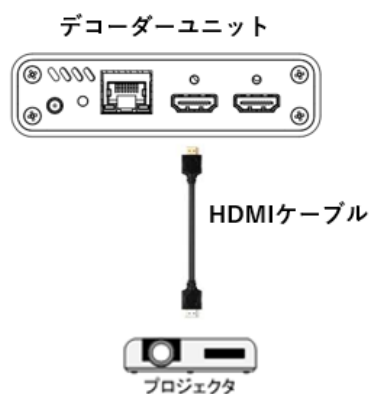
- デコーダーユニットとプレビューモニタ、プロジェクター接続用などの各 HDMI ケーブルは付属していません。

## プロジェクターの接続

デコーダーユニットの[HDMI OUT A]にプロジェクターを接続します。

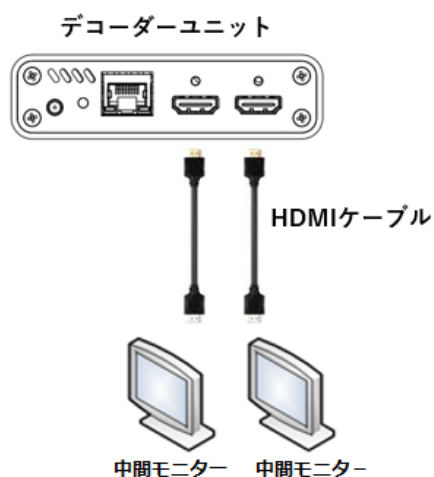
ルームスピーカーから音声を出力する場合、前面の[L-OUT](ステレオミニジャック)とルームスピーカーのアンプを接続してください。

図 3-2-5



## 中間モニタの接続

デコーダーユニットの[HDMI OUT A]と[HDMI OUT B]に中間モニタを接続します。



- ・デコーダーユニットの RJ45 は LAN ケーブルでスイッチングハブと接続します。





## 固定金具(オプション)の設置方法

ここでは、デコーダーユニット、エンコーダーユニットを固定する2種類の固定金具(オプション品)の設置手順について記載をいたします。

### ■ S600-OP 固定ラック(4個固定用)

エンコーダーユニット、デコーダーユニットを教卓側に設置できる固定ラックの取り付け方法に説明します。1つの固定ラックでは4個のユニットを固定することができます。

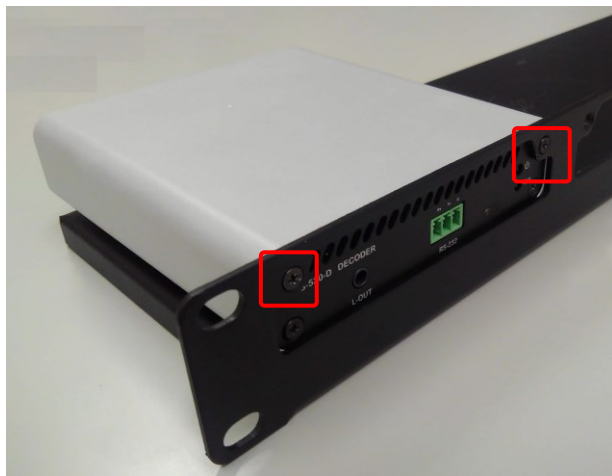
1. 固定ラックに固定するエンコーダーユニット(またはデコーダーユニット)の正面上側の2本のネジを外してください。

図 3-2-6



2. エンコーダーユニット(又はデコーダーユニット)を固定ラックに乗せてから、取り外した2本のネジで、ラックに固定してください。

図 3-2-7

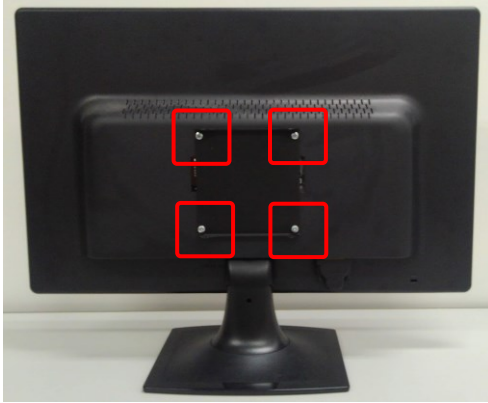


## ■ S600-OP 固定金具(VESA)

この固定金具は、モニタの背面にある VESA 固定用部分に 1 個のデコーダーユニットを設置することができる金具です。

1. モニタ背面に固定金具を配置して、金具の付属品の 4 本のネジをモニタの VESA 穴に固定してください。

図 3-2-8



2. デコーダーユニットの正面、背面にある下側の 2 本のネジ(合計 4 本)を外してください。

図 3-2-9



3. 取り外しをした正面、背面の各面 2 本のネジ(合計 4 本)を利用して、金具に固定してください。

図 3-2-10



## 3-3.制御アプリケーションのインストール

ここでは、S600-OP 制御アプリケーションのインストール方法について説明します。

### プログラムのインストール

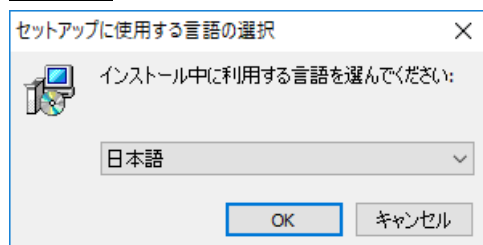
同梱の CD-ROM から以下の手順でインストールを行ってください。

#### ⚠注意

- インストールを行う際は、Administrator 権限を持つユーザでログオンしてください。

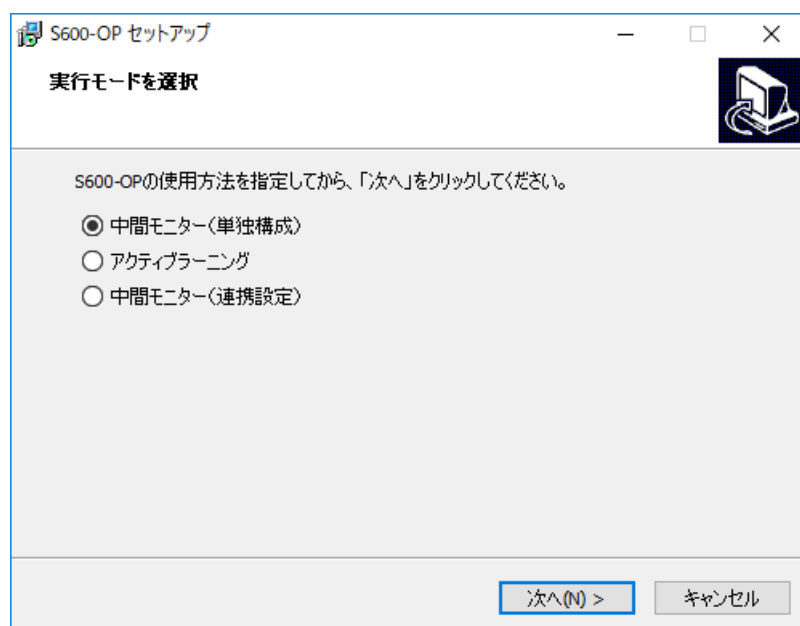
1. パソコンの電源を入れ、Windows にログオンし、CD-ROM ドライブに CD-ROM をセットします。
2. エクスプローラーでウィンドウを開きます。
3. CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックします。
4. [Tool]フォルダにある[S600-OP\_setup\_×××××\_YYYYMMDD.exe]アイコンをダブルクリックします。(XXXX にはバージョン番号、YYYYMMDD にはバージョン日付が記載されます。)
5. セットアップに使用する言語選択画面が表示されます。プルダウンより、言語を選択し、[OK]をクリックします。

図 3-3-1



6. 実行モードの選択画面が表示されます。該当のモードを選択して「次へ」をクリックします。

図 3-3-2

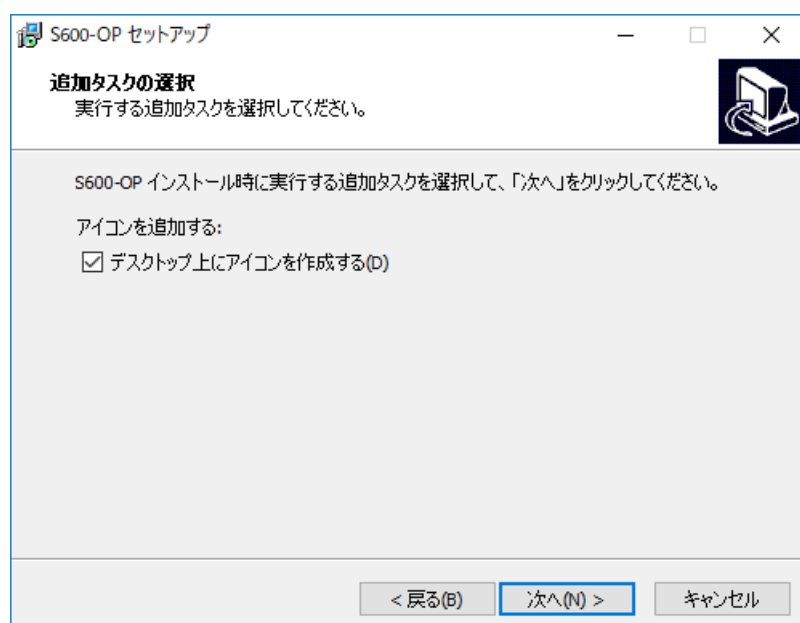


## ⑨ポイント

- [プログラムと機能]での各プログラムの表記は以下になります。
  - ・ 中間モニター（単独構成） ⇒ 中間モニタの切り換えとして運用する場合
  - ・ アクティブラーニング ⇒ アクティブラーニングで運用する場合
  - ・ 中間モニター（連携構成） ⇒ 他マトリクススイッチャーと連携し、学生側へ映像配信

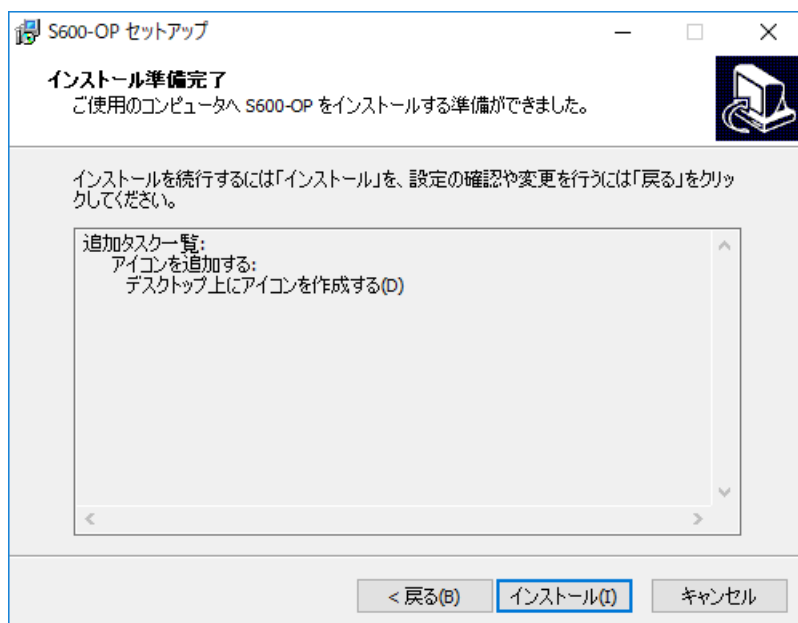
7. 追加タスクの選択画面が表示されます。デスクトップ上にアイコンを作成する場合は、チェックを入れた状態で「次へ」をクリックします。

図 3-3-3



8. インストール準備完了の画面が表示されます。[インストール] をクリックするとインストールが開始されます。

図 3-3-4



9. セットアップウィザード完了画面が表示されます。すぐに S600-OP 制御アプリケーションを起動する場合は、S600-OP を実行するにチェックを入れた状態で[完了]をクリックします。

図 3-3-5



以上で S600-OP 制御アプリケーションのインストールは完了です。

## 3-4.制御アプリケーションのアンインストール

ここでは、S600-OP 制御アプリケーションのアンインストール方法について説明します。※環境により手順が異なる場合があります。

### プログラムのアンインストール

#### ⚠注意

- アンインストールを行う際は、Administrator 権限を持つユーザでログオンしてください。

- [コントロールパネル]から[プログラムと機能]を開きます。
- [S600-OP]をクリックして[アンインストール]を選択します。

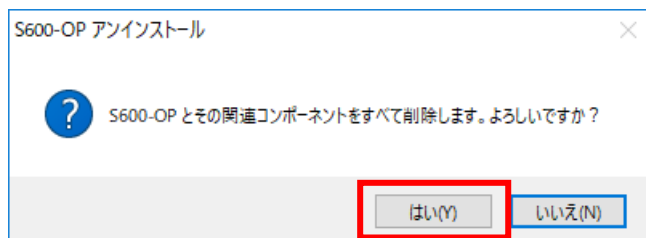
図 3-4-1



名前	発行元	インストール日	サイズ	バージョン
CaLabo EX Client	CHleru Co.,Ltd	2018/07/18	154 MB	8.10.0000
Microsoft OneDrive	Microsoft Corporation	2018/07/26	102 MB	18.111.0603.0006
Radwin Server 2.5.2	Ematech	2018/07/11	7.02 MB	2.52.1.0000
<b>S600-OP</b>	<b>CHleru Co., Ltd.</b>	<b>2018/07/26</b>	<b>2.00 MB</b>	<b>1.00.20180725</b>
Shagit 13	Technimart Corporation	2018/07/26	440 MB	13.13.7999
VodPlayer 2.00.20090112	CHleru Co., Ltd.	2018/07/18		2.00.20090112

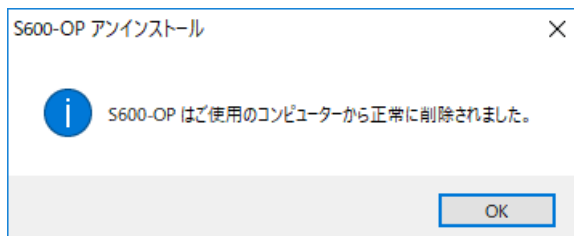
- 削除確認メッセージが表示されます。[はい]をクリックします。

図 3-4-2



- 削除完了のメッセージが表示されます。

図 3-4-3



以上で S600-OP 制御アプリケーションのアンインストールは完了です。

## 3-5.制御アプリケーションの設定

ここでは、S600-OP 制御アプリケーションの設定について説明します。

### 制御アプリケーションの設定

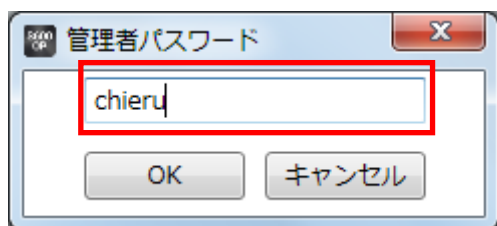
1. 操作パネルの設定ボタンを押します。

図 3-5-1



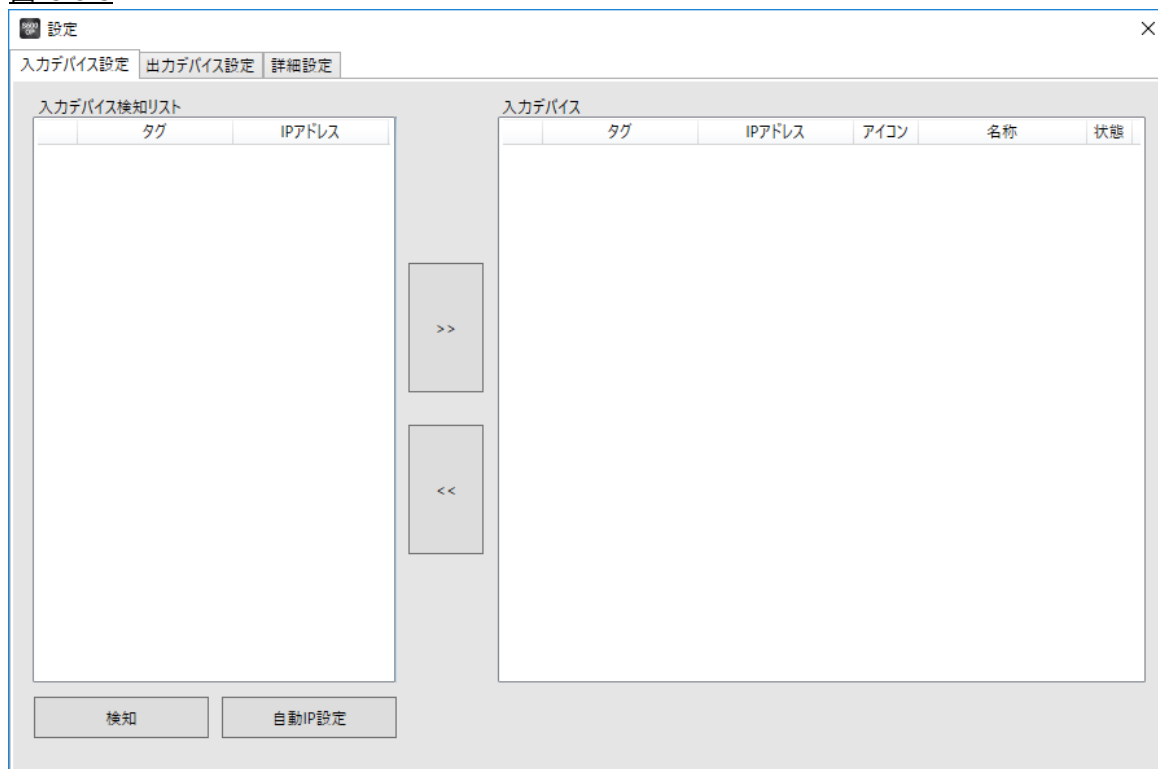
2. 管理者パスワード“chieru”を入力し、[OK]をクリックします。

図 3-5-2



3. 設定画面が表示されます。

図 3-5-3

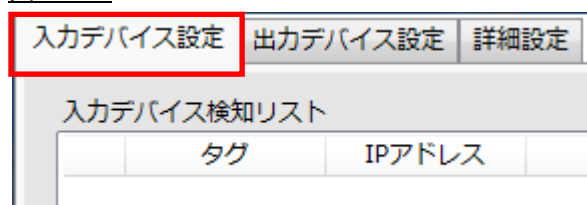


## 入力デバイス設定

中間モニタ（単独構成）、アクティブラーニングモードで S600-OP 制御アプリケーションをインストールした場合は、入力デバイスを設定する必要があります。ここでは入力デバイスの設定について説明します。

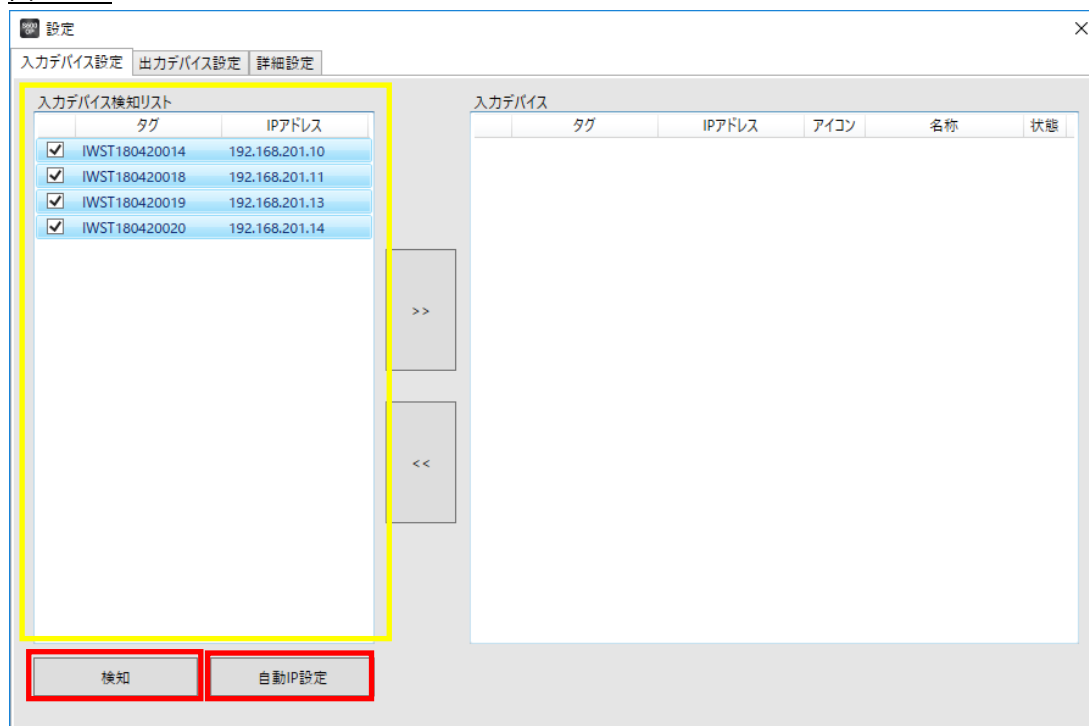
1. [入力デバイス設定]タブを選択します。

図 3-5-4



2. 入力デバイス設定画面が表示されます。
3. [検知]を選択すると、入力デバイス検知リスト欄に利用可能なデバイス情報が表示されます。そのあとに [自動 IP 設定]ボタンを選択して、検知リストに表示されたデバイスに IP アドレスを設定させます。

図 3-5-5



### ④ポイント

- 設定しようとするすべてのエンコーダーユニットが検知されていることを確認してから、[自動 IP 設定]ボタンで IP 設定を実施してください。



4. 使用するデバイスにチェックを入れて、[>>]を選択することで、入力デバイス欄にデバイスが移動します。

図 3-5-6



5. 右上[×]ボタンより、設定画面を閉じて、[INPUT]にデバイスが追加されたことを確認してください。

## ④ポイント

- 入力デバイス欄からデバイス情報を削除するには、入力デバイス欄のデバイスにチェックを入れて、[<<]を選択し、入力デバイス検知リストにデバイスを移動させてください。
- [自動 IP 設定]を選択すると、入力デバイス検知リストに認識されているデバイスの IP アドレスを自動的に[192.168.201.10]から順番にそろえることができます。

例) 192.168.201.10

192.168.201.11

:

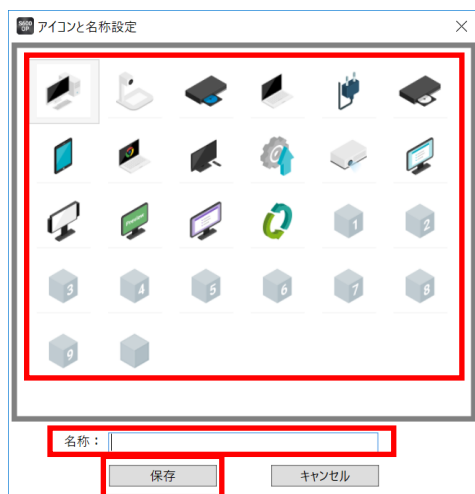
6. 入力デバイス欄のデバイスをダブルクリックします。

図 3-5-6

入力デバイス					
	タグ	IPアドレス	アイコン	名称	状態
<input type="checkbox"/>	IWST180420132	192.168.201.11			オン
<input type="checkbox"/>	IWST180420131	192.168.201.10			オン

7. アイコンと名称設定画面が表示されます。アイコンを選択および名称を入力して[保存]を選択します。

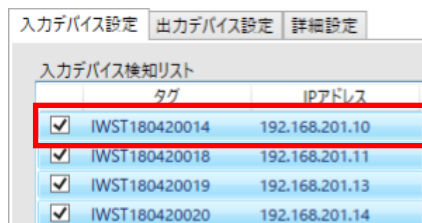
図 3-5-7



## ■ 手動で IP アドレスを変更する場合

1. 検知されたデバイスをダブルクリックします。

図 3-5-8

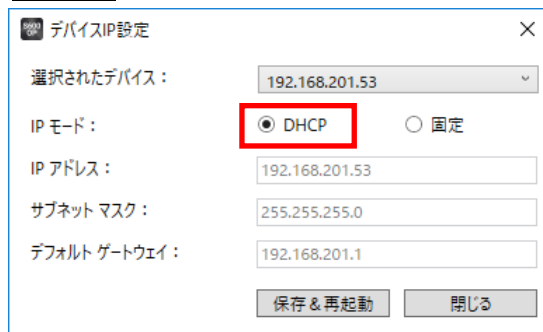


	タグ	IPアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	IWS180420014	192.168.201.10
<input checked="" type="checkbox"/>	IWS180420018	192.168.201.11
<input checked="" type="checkbox"/>	IWS180420019	192.168.201.13
<input checked="" type="checkbox"/>	IWS180420020	192.168.201.14

2. デバイス IP 設定画面が表示されます。IP モードを DHCP から固定に変更することで IP アドレスを入力できるようになります。

・ DHCP の場合

図 3-5-9



デバイスIP設定

選択されたデバイス: 192.168.201.53

IP モード: ☒ DHCP ☐ 固定

IP アドレス: 192.168.201.53

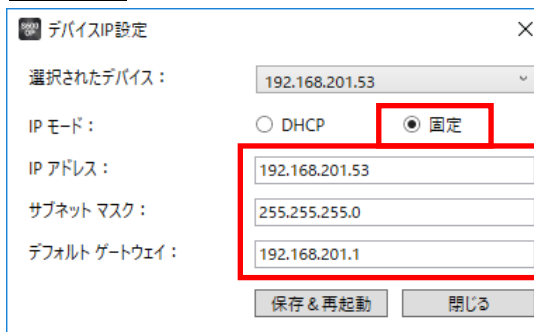
サブネット マスク: 255.255.255.0

デフォルト ゲートウェイ: 192.168.201.1

保存 & 再起動 閉じる

・ 固定の場合

図 3-5-10



デバイスIP設定

選択されたデバイス: 192.168.201.53

IP モード: ☐ DHCP ☒ 固定

IP アドレス: 192.168.201.53

サブネット マスク: 255.255.255.0

デフォルト ゲートウェイ: 192.168.201.1

保存 & 再起動 閉じる

3. IP アドレス設定後、[保存 & 再起動]を選択します。

図 3-5-11



デバイスIP設定

選択されたデバイス: 192.168.201.53

IP モード: ☐ DHCP ☒ 固定

IP アドレス: 192.168.201.53

サブネット マスク: 255.255.255.0

デフォルト ゲートウェイ: 192.168.201.1

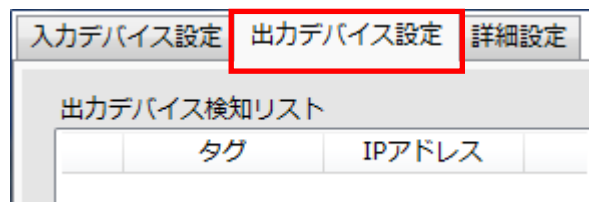
保存 & 再起動 閉じる

## 出力デバイス設定

中間モニタ（単独構成）、アクティブラーニングモードで S600-OP 制御アプリケーションをインストールした場合は、出力デバイス設定をする必要があります。ここでは出力デバイスの設定について説明します。

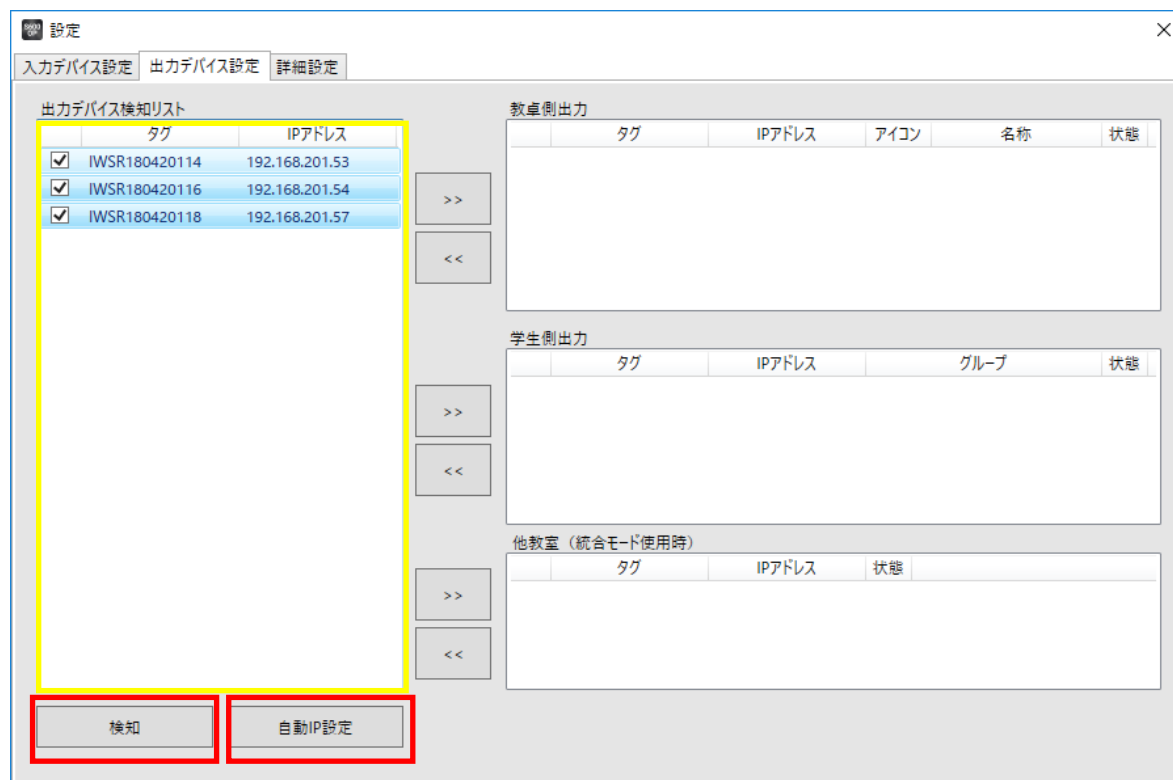
1. [出力デバイス設定]タブを選択します。

図 3-5-12



2. 出力デバイス設定画面が表示されます。
3. [検知]を選択すると、出力デバイス検知リスト欄に利用可能なデバイス情報が表示されます。そのあとに [自動 IP 設定]ボタンを選択して、検知リストに表示されたデバイスに IP アドレスを設定させます。

図 3-5-13



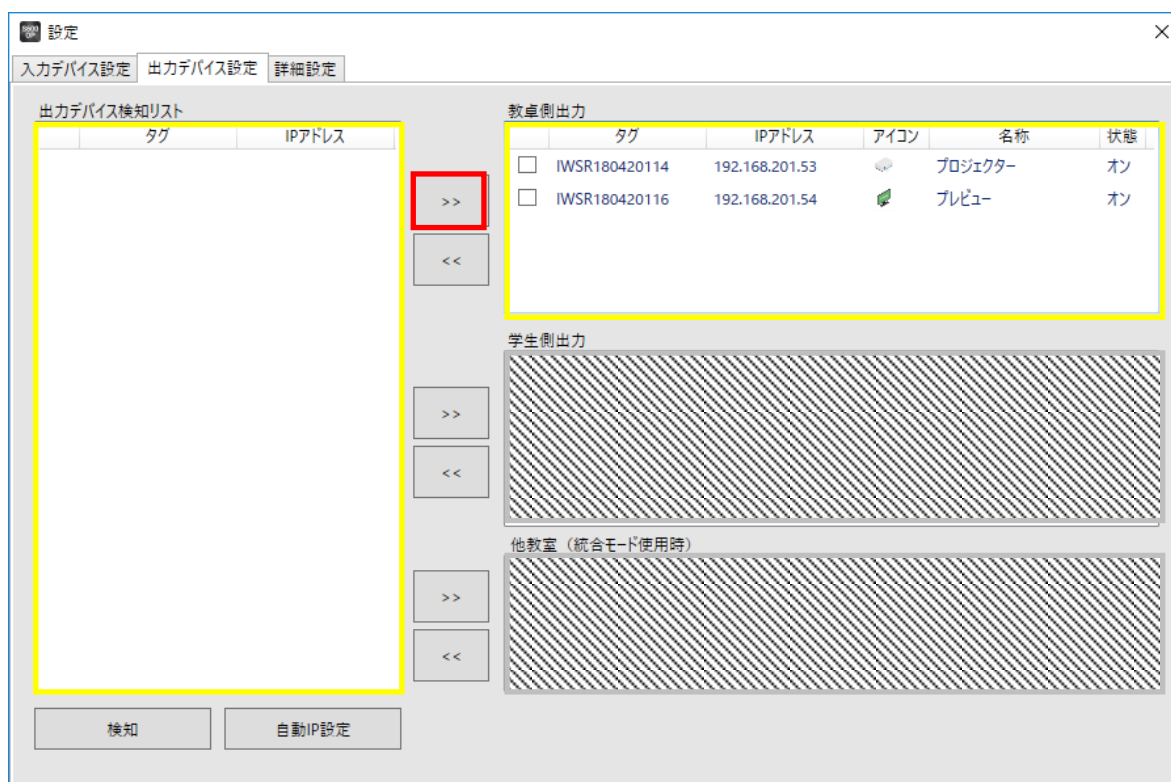
### ④ポイント

- 設定しようとするすべてのデコーダーユニットが検知されていることを確認してから、[自動 IP 設定]ボタンで IP 設定を実施してください。

6. 使用するデバイスにチェックを入れて、[>>]を選択することで、教卓側出力欄または、学生側出力欄または、他教室（統合モード使用時）欄にデバイスが移動します。

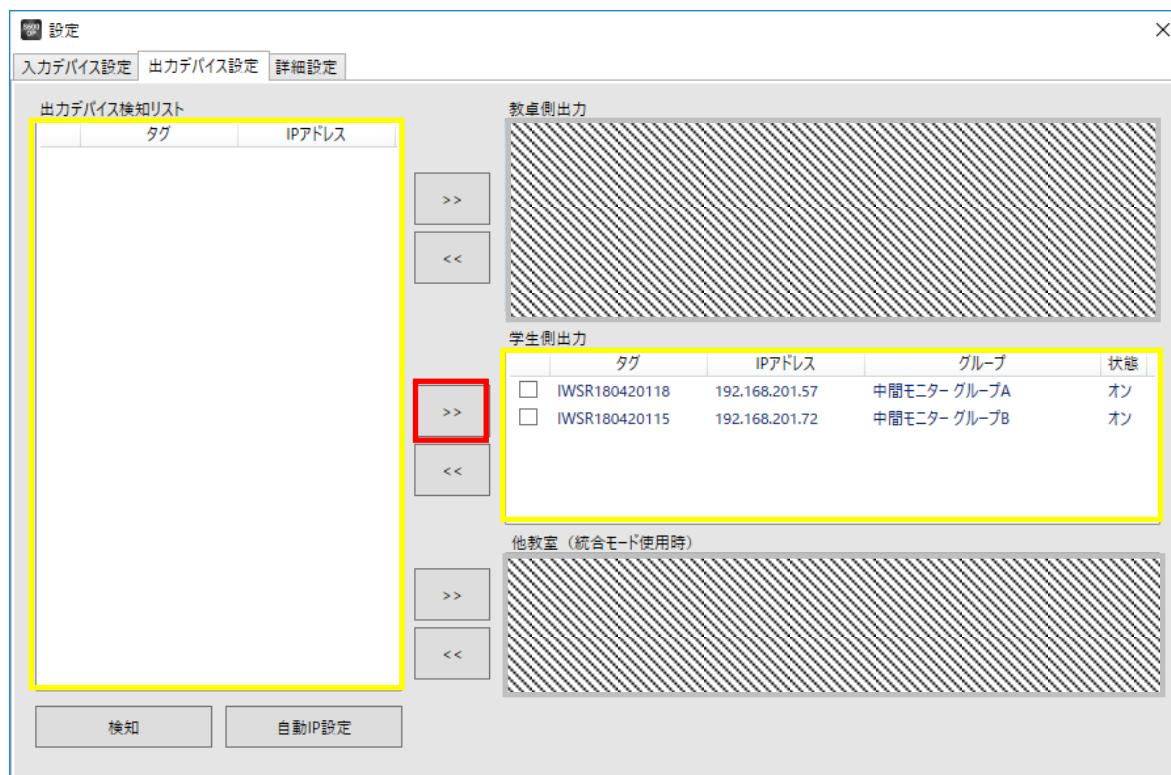
●教卓側出力欄に登録する場合

図 3-5-14



●学生側出力に登録する場合

図 3-5-15



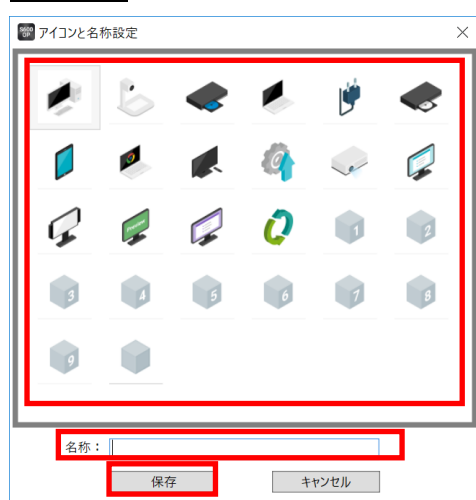
7. 教卓側出力デバイス欄のデバイスをダブルクリックします。

図 3-5-16

教卓側出力					
	タグ	IPアドレス	アイコン	名称	状態
<input type="checkbox"/>	IWSR180420114	192.168.201.53			オン
<input type="checkbox"/>	IWSR180420116	192.168.201.54			オン

8. アイコンと名称設定画面が表示されます。アイコンを選択および名称を入力して[保存]を選択します。

図 3-5-17



【学生側出力のグループを指定する場合】

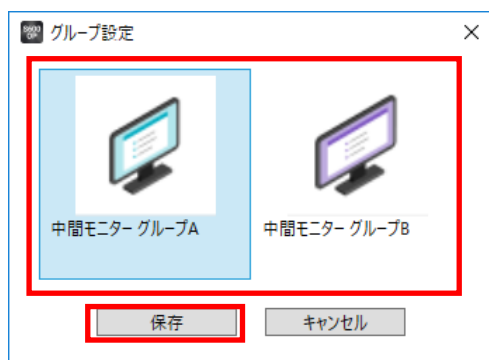
1. 学生側出力欄のデバイスをダブルクリックします。

図 3-5-18

学生側出力				
	タグ	IPアドレス	グループ	状態
<input type="checkbox"/>	IWSR180420118	192.168.201.57	中間モニターグループA	オン
<input type="checkbox"/>	IWSR180420115	192.168.201.72	中間モニターグループB	オン

2. グループ設定画面が表示されます。該当のグループを選択し、[保存]を選択します。

図 3-5-19



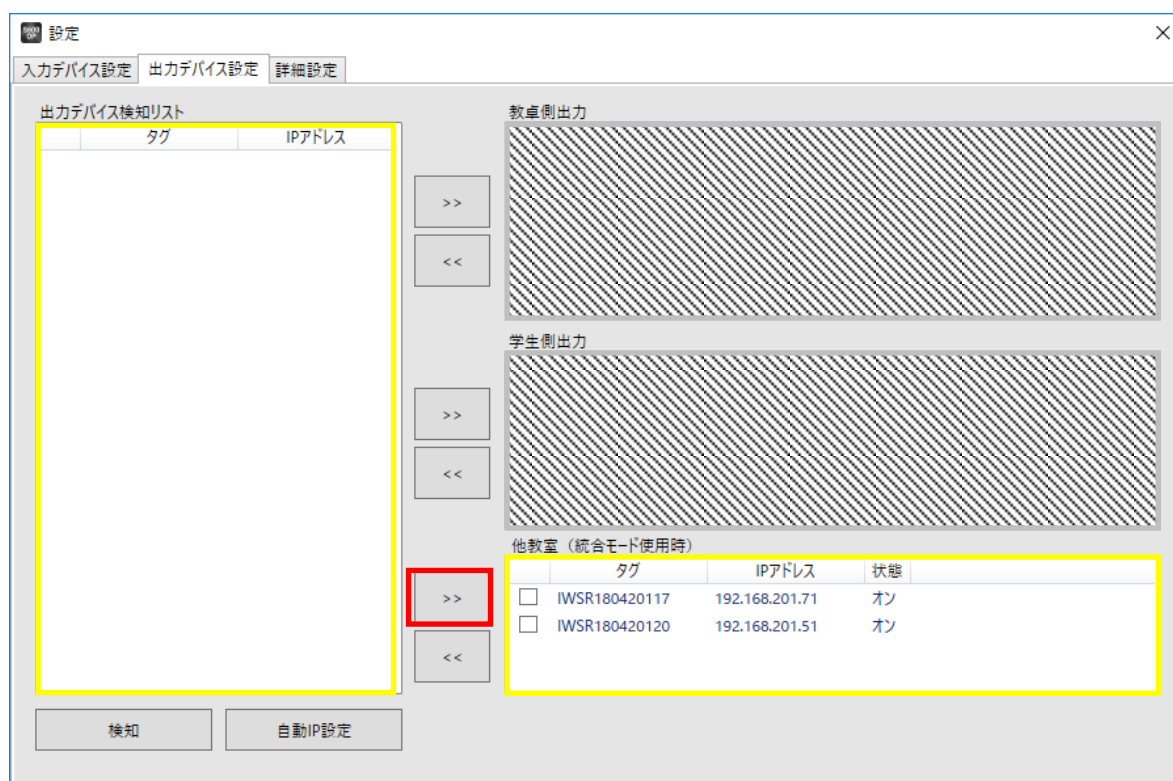
3. 操作パネル画面上で中間モニタがグループに分かれて表示されます。

図 3-5-20



●他教室（統合モード使用時）欄に登録する場合

図 3-5-21



[分離、統合モードの切り換え方法]

出力デバイス設定の他教室（統合モード使用時）の設定後、パネル操作にて分離モードから統合モードに切り換えます。

・分離モード

図 3-5-22



・統合モード

図 3-5-23



⑨ポイント

- 統合モード利用時、操作パネル画面上にて中間モニタがグループに分かれていた場合、グループに分かれていない状態で表示されるようになります。



4. 右上[×]ボタンより設定画面を閉じて下さい。

OUTPUT にデバイスが追加されたことを確認してください。

## ④ポイント

- 教卓側出力または、学生側出力または、他教室（統合モード使用時）欄からデバイス情報を削除するには、各デバイス欄のデバイスにチェックを入れて、[<<]を選択し、出力デバイス検知リストにデバイスを移動させてください。
- [自動 IP 設定]を選択すると、出力デバイス検知リストに認識されているデバイスの IP アドレスを自動的に「192.168.201.50」から順番にそろえることができます。

例) 192.168.201.50

192.168.201.51

:

## ■ 手動で IP アドレスを変更する場合

1. 検知されたデバイスをダブルクリックします。

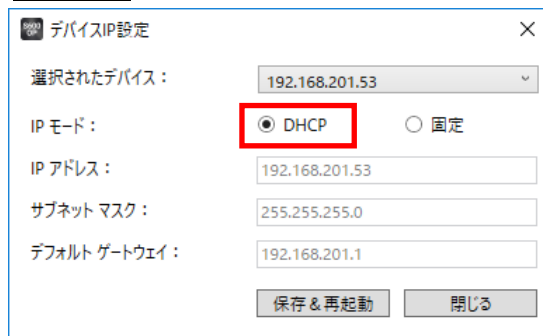
図 3-5-24



2. デバイス IP 設定画面が表示されます。IP モードを DHCP から固定に変更することで IP アドレスを入力できるようになります。

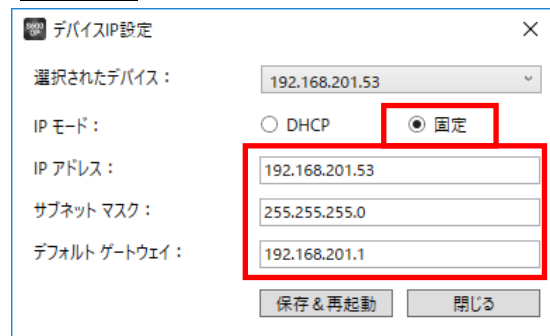
・ DHCP の場合

図 3-5-25



・ 固定の場合

図 3-5-26



3. IP アドレス設定後、[保存 & 再起動]を選択します。

図 3-5-27

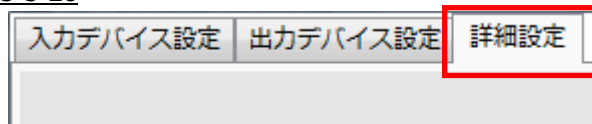


## 詳細設定

ここでは、詳細設定について説明します。

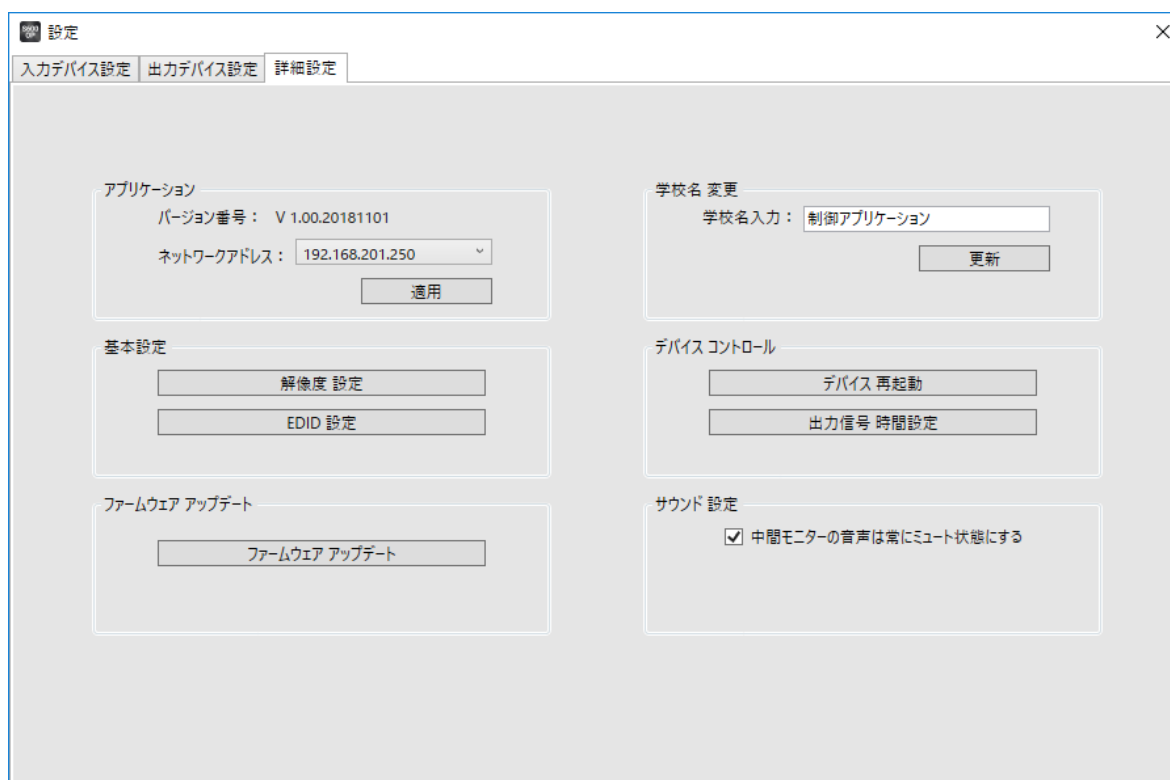
1. [詳細設定]タブを選択します。

図 3-5-28



2. 詳細設定画面が表示されます。

図 3-5-29



### ■ アプリケーション

制御アプリケーションがエンコーダーユニット、デコーダーユニットを制御するネットワークセグメントの IP アドレスを指定します。

### ④ポイント

- 複数ネットワークアダプターが存在する場合、アプリケーションを制御する為の該当の IP アドレスをプルダウンより選択します。

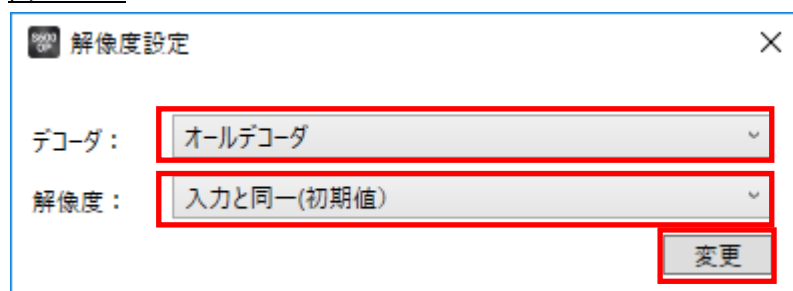
## ■ 基本設定

### ○解像度設定

各デコーダーユニットおよびオールデコーダーに対して、設定解像度を変更することが可能です。

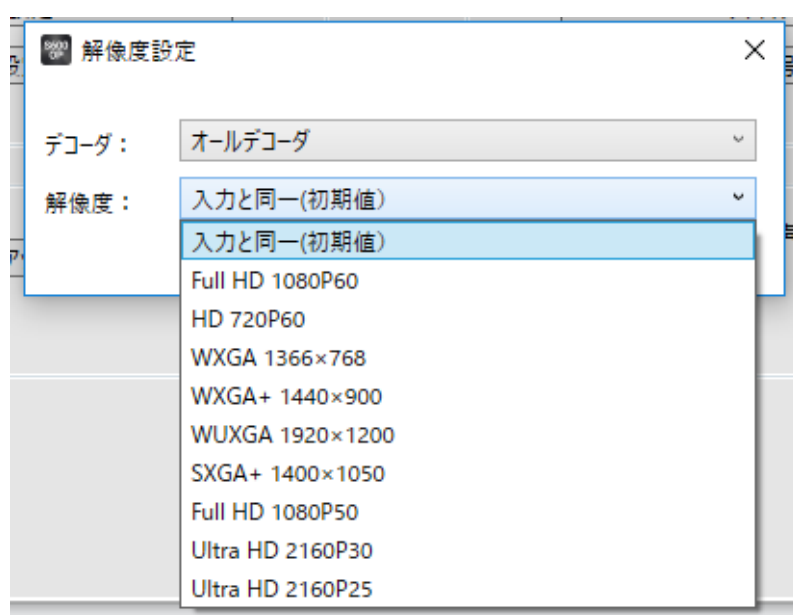
1. [デコーダー]プルダウンより、設定対象のデコーダーユニットを選択する。
2. [解像度]のプルダウンより、任意の解像度を選択する。
3. [変更]ボタンを選択する。

図 3-5-30



下記の解像度が選択可能です。

図 3-5-31



## ○EDID 設定

各エンコーダーユニットに対して、EDID を学習させることができます。また、すべての園医オーダーユニットを一括で学習させることもできます。

1. EDID を学習させたいデコーダーユニットを[デコーダー]プルダウンより選択します。

図 3-5-32

EDID設定

デコーダ: [D]192.168.201.51/プロジェクト2 /IWSR180420133

読み込

☐ 初期値2K ☐ 初期値4K ☒ EDID学習

オールエンコーダ

書き込

2. [読み込]より、EDID を読み込ませます。

図 3-5-33

EDID設定

デコーダ: [D]192.168.201.51/プロジェクト2 /IWSR180420133

読み込

00 ff ff ff ff 00 1e 6d 20 5a c4 fc 02 00 04 18 01 03 80 33 1d 78 ea 62 75 a3 55 4f a0 27 12 50 54 21 08 00 71  
40 81 c0 81 00 81 80 95 00 90 40 a9 c0 b3 00 02 3a 80 18 71 38 2d 40 58 2c 45 00 fe 22 11 00 00 1e 00 00 fd  
00 38 3d 1e 53 0f 00 0a 20 20 20 20 20 00 00 fc 00 32 34 4d 50 35 35 0a 20 20 20 20 20 00 00 ff 00  
0a 20 20 20 20 20 20 20 20 20 01 b9 02 03 1d f1 4a 90 04 03 01 14 12 05 1f 10 13 23 09 07 07 83 01 00  
00 65 03 0c 00 10 00 02 3a 80 18 71 38 2d 40 58 2c 45 00 fe 22 11 00 00 1e 01 1d 80 18 71 1c 16 20 58 2c 25 00  
fe 22 11 00 00 9e 01 1d 00 72 51 d0 1e 20 6e 28 55 00 fe 22 11 00 00 1e 8c 0a d0 8a 20 e0 2d 10 10 3e 96 00 fe  
22 11 00 00 18 00 e6

☐ 初期値2K ☐ 初期値4K ☒ EDID学習

オールエンコーダ

書き込

3. 下部プルダウンより、EDID を学習するエンコーダーユニットを選択します。

図 3-5-34

EDID設定

デコーダ: [D]192.168.201.51/プロジェクト2 /IWSR180420133

読み込

00 ff ff ff ff 00 1e 6d 20 5a c4 fc 02 00 04 18 01 03 80 33 1d 78 ea 62 75 a3 55 4f a0 27 12 50 54 21 08 00 71  
40 81 c0 81 00 81 80 95 00 90 40 a9 c0 b3 00 02 3a 80 18 71 38 2d 40 58 2c 45 00 fe 22 11 00 00 1e 00 00 fd  
00 38 3d 1e 53 0f 00 0a 20 20 20 20 20 00 00 fc 00 32 34 4d 50 35 35 0a 20 20 20 20 20 00 00 ff 00  
0a 20 20 20 20 20 20 20 20 20 01 b9 02 03 1d f1 4a 90 04 03 01 14 12 05 1f 10 13 23 09 07 07 83 01 00  
00 65 03 0c 00 10 00 02 3a 80 18 71 38 2d 40 58 2c 45 00 fe 22 11 00 00 1e 01 1d 80 18 71 1c 16 20 58 2c 25 00  
fe 22 11 00 00 9e 01 1d 00 72 51 d0 1e 20 6e 28 55 00 fe 22 11 00 00 1e 8c 0a d0 8a 20 e0 2d 10 10 3e 96 00 fe  
22 11 00 00 18 00 e6

☐ 初期値2K ☐ 初期値4K ☒ EDID学習

オールエンコーダ

書き込

4. [EDID 学習]を選択して、[書き込]を選択します。

図 3-5-35

EDID設定

デコーダ: [D]192.168.201.51/プロジェクト2 /IWSR180420133

読み込

00 ff ff ff ff 00 1e 6d 20 5a c4 fc 02 00 04 18 01 03 80 33 1d 78 ea 62 75 a3 55 4f a0 27 12 50 54 21 08 00 71  
40 81 c0 81 00 81 80 95 00 90 40 a9 c0 b3 00 02 3a 80 18 71 38 2d 40 58 2c 45 00 fe 22 11 00 00 1e 00 00 fd  
00 38 3d 1e 53 0f 00 0a 20 20 20 20 20 00 00 fc 00 32 34 4d 50 35 35 0a 20 20 20 20 20 00 00 ff 00  
0a 20 20 20 20 20 20 20 20 20 01 b9 02 03 1d f1 4a 90 04 03 01 14 12 05 1f 10 13 23 09 07 07 83 01 00  
00 65 03 0c 00 10 00 02 3a 80 18 71 38 2d 40 58 2c 45 00 fe 22 11 00 00 1e 01 1d 80 18 71 1c 16 20 58 2c 25 00  
fe 22 11 00 00 9e 01 1d 00 72 51 d0 1e 20 6e 28 55 00 fe 22 11 00 00 1e 8c 0a d0 8a 20 e0 2d 10 10 3e 96 00 fe  
22 11 00 00 18 00 e6

☐ 初期値2K ☐ 初期値4K ☒ EDID学習

オールエンコーダ

書き込

## ④ポイント

- 4Kの環境で使用する場合は、「初期値 4K」に設定変更する必要があります。  
「初期値 4K」を選択して、[書込]ボタンを押します。  
(デフォルト値は 2K)
- EDID 学習などいろいろ EDID の変更を行ってから初期値に戻したい場合は、「初期値 2K」にします。  
「初期値 2K」を選択して、[書込]ボタンを押します。

## ■ ファームウェア アップデート

S600-OP のファームウェアをアップデートすることができます。

1. デバイスプルダウンより、デバイスを選択する。
2. デバイスが選択されると、[選択されたデバイス]と[バージョン情報]にデバイス名と現在のバージョンが表示されます。
3. [開く]から、ファームウェアのデータを選択し、[アップロード]を選択します。

図 3-5-36

ファームウェア アップデート

デバイス: [D]192.168.201.51/中間モニター グループA/IWSR180800C

選択されたデバイス: [D]192.168.201.51/中間モニター グループA/IWSR180800056

バージョン情報: S600-OP-DV10\_20181019

開く

アップロード

## ■ 学校名 変更

学校名入力欄を変更し、[更新]を選択することで、学校名を変更することができます。

※デフォルト：制御アプリケーション

図 3-5-37

学校名 変更

学校名入力: 制御アプリケーション

更新

## ■ デバイスコントロール

### ○デバイス再起動

プルダウンよりデバイスおよびエンコーダーやデコーダーを選択し、[再起動]を押すことで、プルダウン上で選択した機器の再起動をおこなうことができます。

図 3-5-38

デバイスコントロール

デバイス: オールデバイス

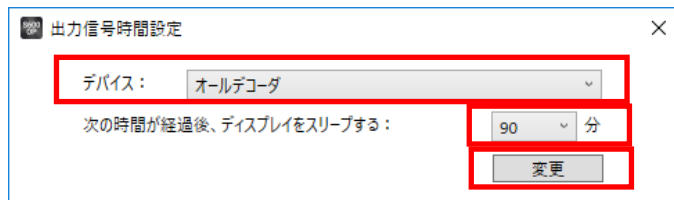
再起動

### ○出力信号時間設定

出力信号時間設定を変更し、[更新]を選択することで、入力信号がない状態になってから一定時間が経過後、ディスプレイがスリープ状態に入る時間を変更することができます。

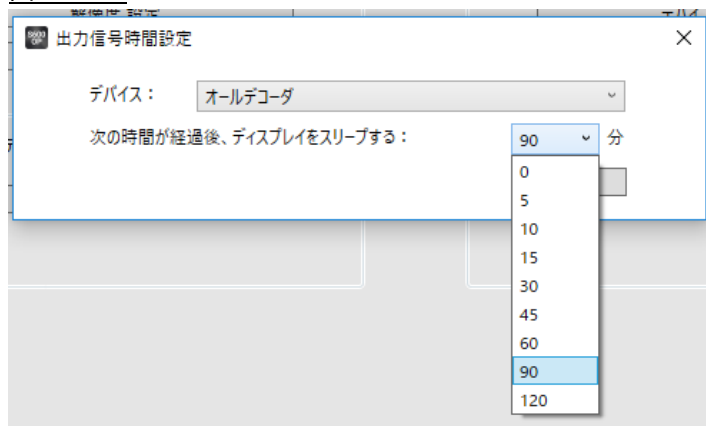
※デフォルト：90 分

図 3-5-39



下記の時間が選択可能です。

図 3-5-40

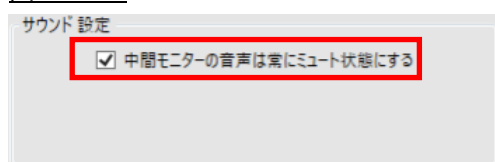


### ■ サウンド設定

[中間モニターの音声は常にミュート状態にする]にチェックを外すと、学習者側に送出しているすべての音声を出力することができます。

※デフォルト：チェックを入れた状態

図 3-5-41

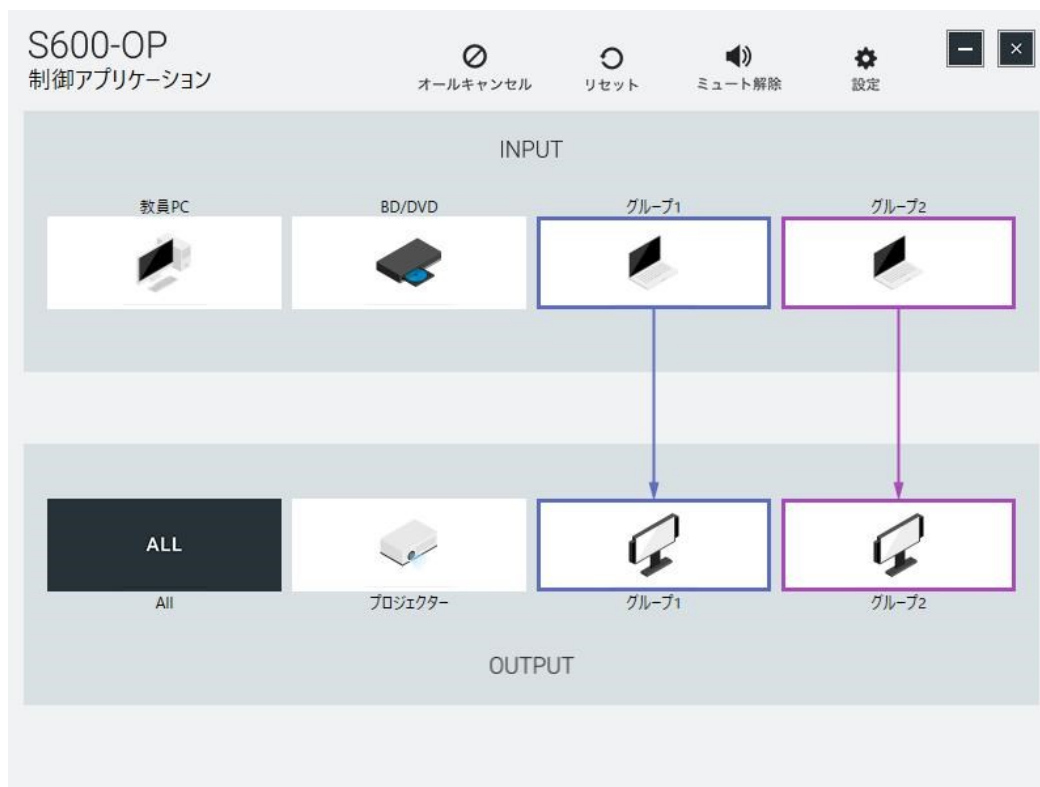


## 初期値の入出力機器の自動選択設定：アクティブラーニングモードのみ

S600-OP では、初期値の入力機器と出力機器の組み合わせを設定しておくことができます。ここでは設定保存について説明します。

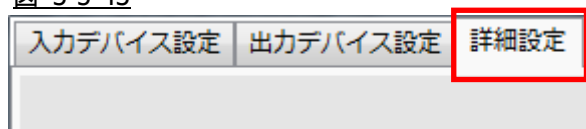
1. 操作パネル画面を開き、システムの電源投入直後に出力したい入力機器と出力機器を選択します。

図 3-5-42



2. [設定]ボタンの[詳細設定]タブを選択します。

図 3-5-43



3. 初期設定の[現在の状態を保存する]を選択すると、設定完了とウィンドウが表示されますので[閉じる]を選択します。

図 3-5-44

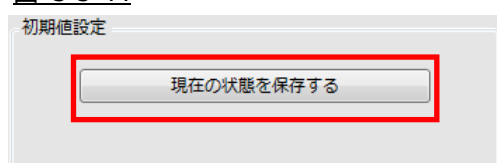
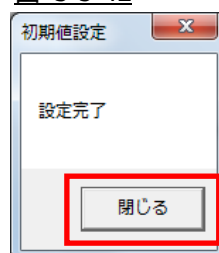


図 3-5-42



4. 次回のシステムの電源投入直後から、設定した入力機器/出力機器の組み合わせで出力されるようになります。[リセット]ボタンを選択したときも同様の組み合わせで表示されます。

## 初期値のパネル選択状態に戻す：アクティブラーニングモードのみ

初期値の入出力機器の選択状態に復帰する手順について説明します。

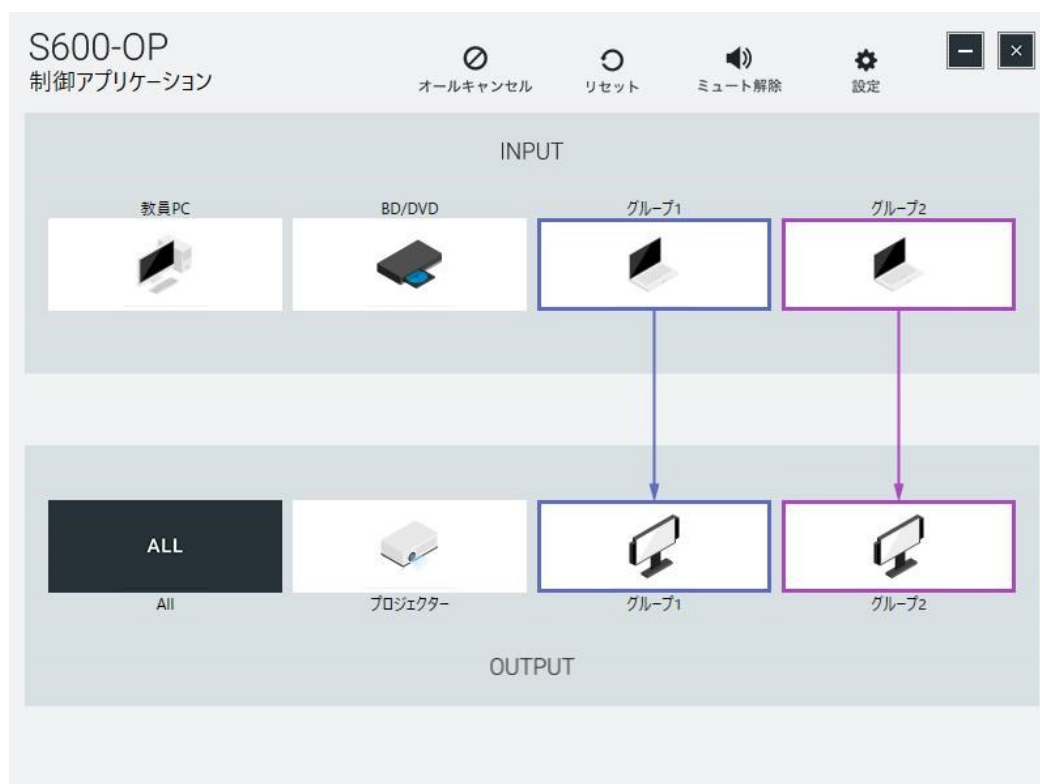
1. [リセット]ボタンを選択します。

図 3-5-45



2. 初期値の入出力機器の選択状態に復帰します。

図 3-5-46



### ⑨ポイント

- ワンタッチで、スムーズに初期値の入出力機器の選択状態に戻すことができます。

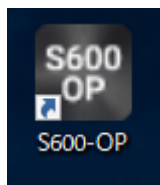


## 入力デバイス設定：中間モニタ連携モードの場合

中間モニタ連携モードの場合、中間モニタには垂れ流しモードとなり、スイッチャーとの連携により、切り換える動作になります。ここでは入力デバイス（スイッチャー）の設定方法について説明します。

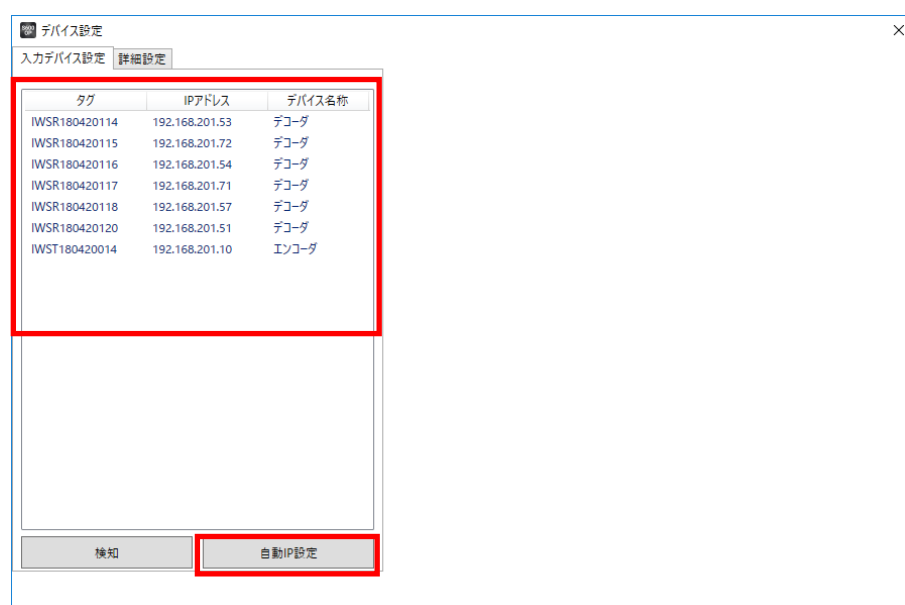
1. 下記のアイコンをダブルクリックします。

図 3-5-47



2. 入力デバイス設定に接続されているデバイスが表示されます。[自動IP設定]ボタンを押して設定完了です。

図 3-5-48



※中間モニタ（連携モード）の場合、詳細設定の内容は以下になります。

各設定については、中間モニタ（単独モード）の詳細設定(P.49)の説明をご参照ください。

図 3-5-49



## 3-6.スイッチングハブの設定

ここでは、推奨スイッチングハブの設定について説明します。

S600-OP の映像転送には、1G スwitchングハブが必要となります。「対応製品」として、以下のメーカー製のハブから選定して頂く必要があります。

対象製品メーカー名：パナソニック LS ネットワークス社、アライドテレシス社

### [通常構成]

スイッチングハブには、以下の設定を行ってください。

- ・IGMP スヌーピング設定（GA-MS16T と AT-GS950/24）
- ・ジャンボフレームの有効設定（GA-MS16T）

メーカー	型番	ポート数	IGMP スヌーピング設定	ジャンボ フレーム設定
パナソニック LS ネットワークス	GA-MS16T	18(*)	必要	必要
アライドテレシス(株)	AT-GS950/24	24	必要	-

### [HDMI マトリクススイッチャーとの連携構成]

スイッチングハブには、以下の設定を行ってください。

- ・ジャンボフレームの有効設定（Switch-M16eG）

メーカー	型番	ポート数	IGMP スヌーピング	ジャンボ フレーム設定
パナソニック LS ネットワークス	Switch-M16eG	16	-	必要
アライドテレシス(株)	AT-GS910/16	16	-	-

## パナソニック LS ネットワークス社製

### ■ 型番：パナソニック製 GA-MS16T（単独構成用）

#### 【設定準備】

1. パソコンとスイッチングハブをコンソールケーブルで接続します。
2. パソコン上でターミナルソフトを起動し、スイッチハブに接続します。

#### ④ポイント

- ターミナルソフトは TeraTerm 等をご利用ください。

3. ログイン情報を入力します。

UserName:           manager

Password:           manager

4. 以下のコマンドで、各ポートのパケットサイズ(9216byte)を指定します。

GA-MS16T>

GA-MS16T>enable

GA-MS16T#configure

GA-MS16T(config)#interface range gi1/0/1-18

※ここで機種が GA-MS8T の場合は gi1/0/1-10、GA-MS24T の場合は gi1/0/1-26 になります。

GA-MS16T(config-if-range)#max-rcv-frame-size 9216

GA-MS16T(config-if-range)#exit

GA-MS16T(config)#exit

#### ④ポイント

- 以下のコマンドで設定した内容を確認することができます。

GA-MS16T#show interface

結果表示：

Gi1/0/1 is enabled link status is down

Interface type: 1000BASE-T

Interface description:

MAC Address: 00-50-40-3E-7F-20

Auto-duplex, auto-speed, normal-mdix

Send flow-control: off, receive flow-control: off

Send flow-control oper: off, receive flow-control oper: off

Down

Maximum transmit unit: 9216 bytes

RX rate: 0 bytes/sec, TX rate: 0 bytes/sec

RX bytes: 0, TX bytes: 0

RX rate: 0 packets/sec, TX rate: 0 packets/sec

RX packets: 0, TX packets: 0

RX multicast: 0, RX broadcast: 0

RX CRC error: 0, RX undersize: 0

RX oversize: 0, RX fragment: 0

RX jabber: 0, RX dropped Pkts: 0

RX MTU exceeded: 0

TX CRC error: 0, TX excessive deferral: 0

```
TX single collision: 0, TX excessive collision: 0  
TX late collision: 0, TX collision: 0
```

6. 以下のコマンドで、IGMP スヌーピングを設定します。

```
GA-MS16T#configure terminal  
GA-MS16T(config)#ip igmp snooping  
GA-MS16T(config)#exit
```

7. 以下のコマンドで、設定を保存します。

```
GA-MS16T#copy running-config startup-config  
Destination filename startup-config? [y/n]: y  
Saving all configurations to NV-RAM..... Done.
```

## ④ポイント

- 以下のコマンドにて設定した内容を確認することができます。  
スイッチングハブの電源再起動を実施後、設定の変更が正しく保存されたことを確認します。

```
GA-MS16T#show ip igmp snooping
```

結果表示：

```
IGMP snooping global state: Enabled  
Unknown data limit: 128
```

## ⚠注意

- 統合構成で、スイッチングハブをカスケード接続して利用する場合は、17番と18番ポートでカスケード接続をしてください。

## ■ 型番：パナソニック製 Switch-M16eG（連携構成用）

### 【設定準備】

1. パソコンとスイッチングハブをコンソールケーブルで接続します。
2. パソコン上でターミナルソフトを起動し、スイッチハブに接続します。

### ④ポイント

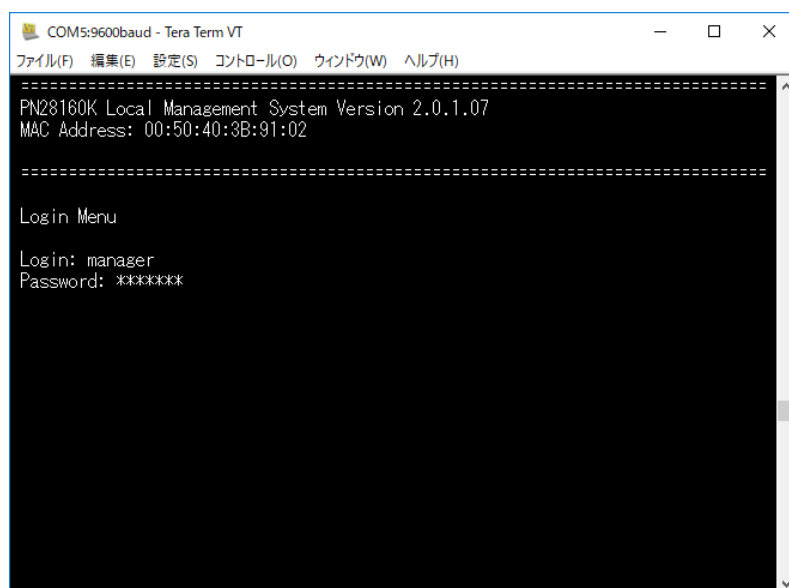
- ターミナルソフトはTeraTerm 等をご利用ください。

3. ログイン情報を入力します。

Login: manager

Password: manager

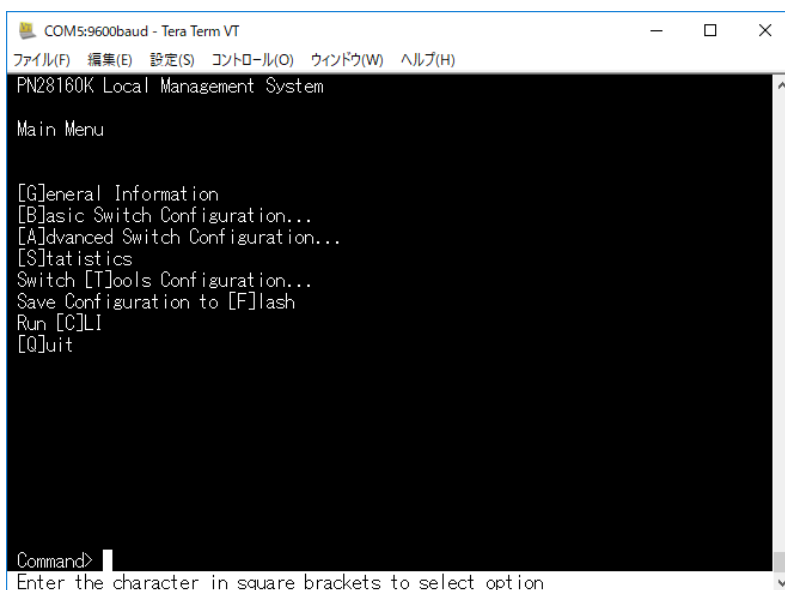
図 3-6-1



### 【ジャンボフレームの設定方法】

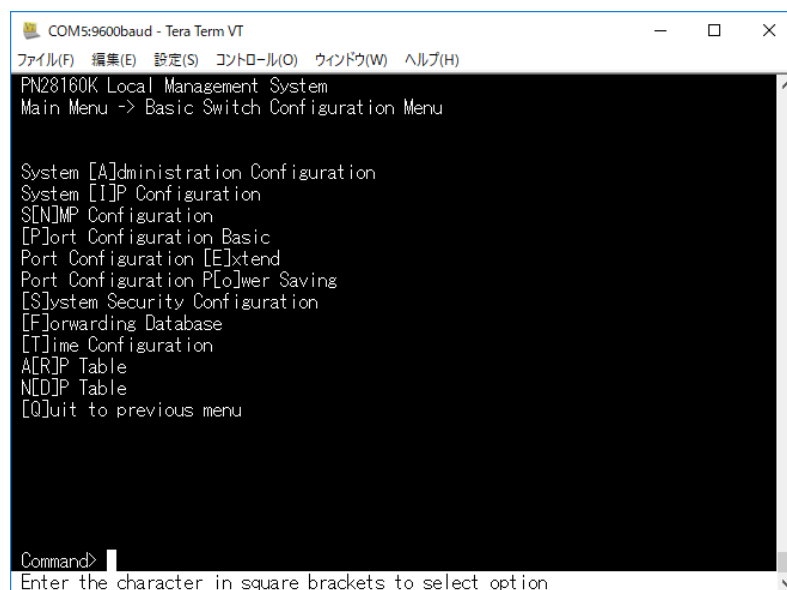
1. [Main Menu]画面が表示されます。

図 3-6-2



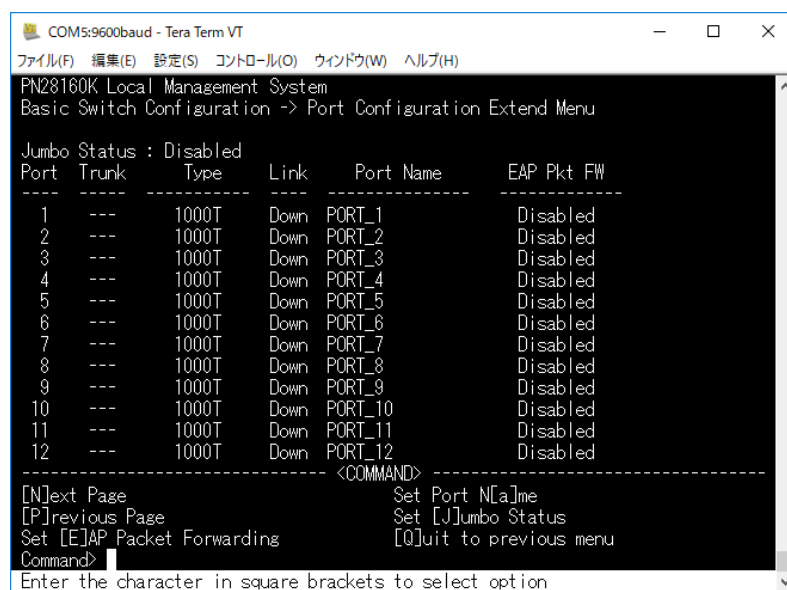
2. [Main Menu]から[B]をキーボードで押すと[Basic Switch Configuration Menu]の画面になります。

図 3-6-3



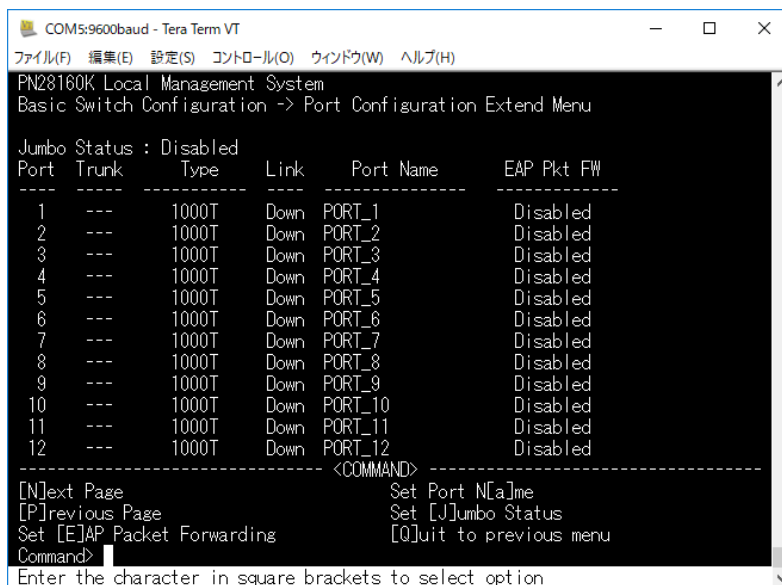
3. [Basic Switch Configuration Menu]でコマンド[E]をキーボードで押します。

図 3-6-4



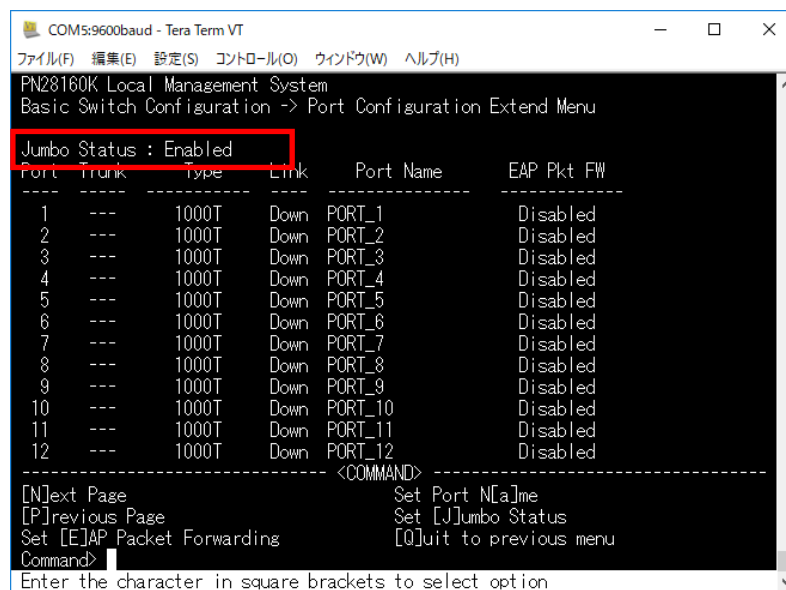
4. [J]をキーボードで押します。

図 3-6-5



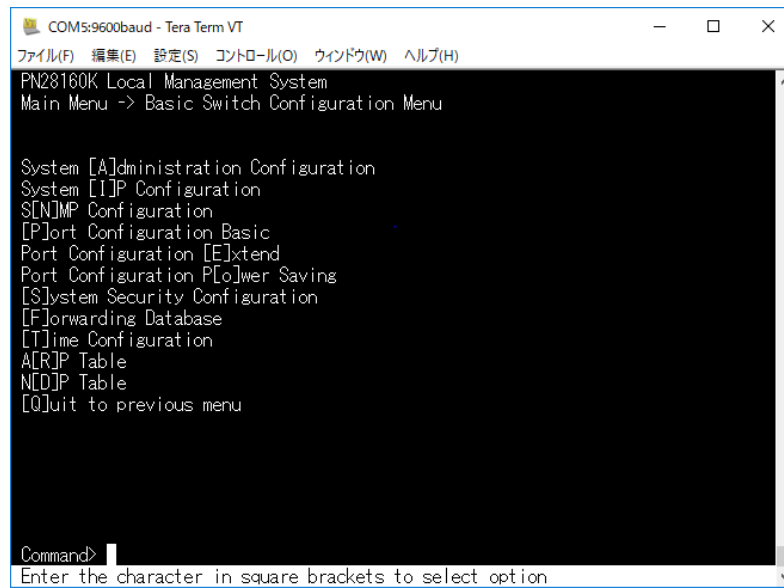
5. プロンプトが[Enable or Disable jumbo status (E/D)>]となりますので、有効 (Enabled) にする[E]を、キーボードで押します。

図 3-6-6



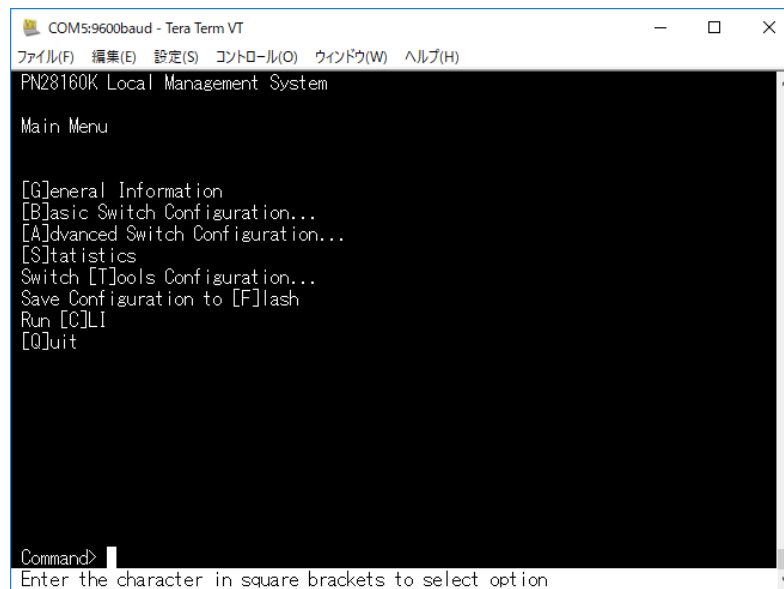
6. [Q]をキーボードで押して[Local Managermet System]に戻ります。

図 3-6-7



7. [Q]をキーボードで押して[Main Menu]に戻ります。

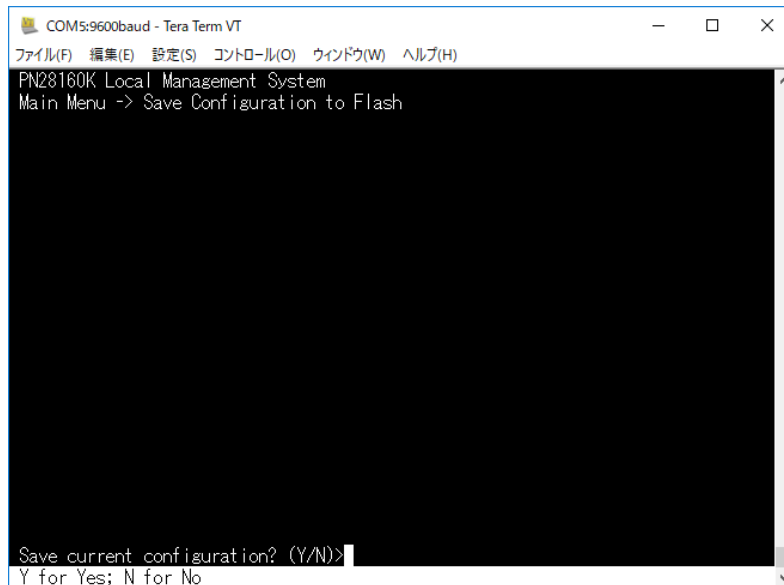
図 3-6-8





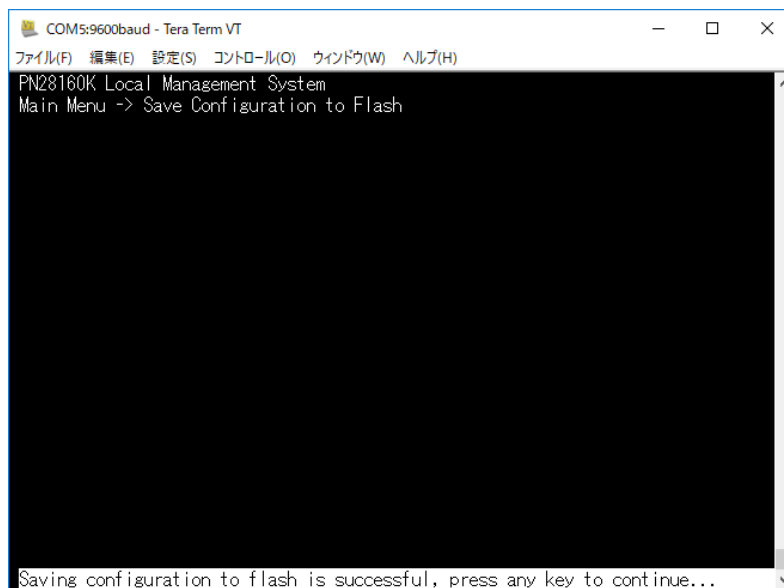
8. [Main Menu]から[F]をキーボードで押します。

図 3-6-9



9. この画面でプロンプトが[Save current configuration?(Y/N)]に変わりますので、保存を行う[Y]をキーボードで押します。

図 3-6-10



10. 設定の変更が正しく保存されたことを確認します。

スイッチングハブの電源再起動を実施後、再度手順 1 ～ 3 まで進んで、Jumbo Status が Enabled になっていることを確認します。

#### ⚠注意

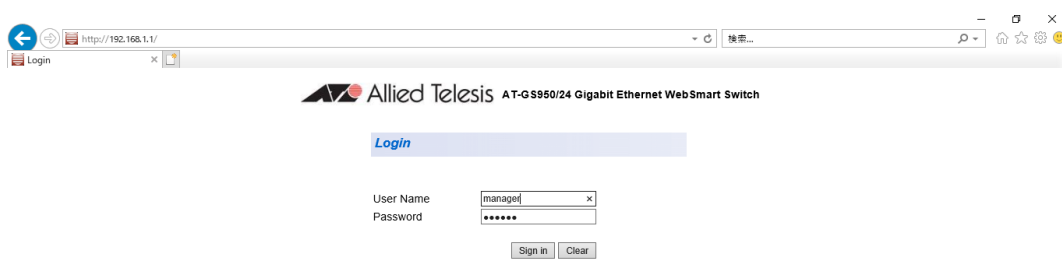
- 統合構成で、スイッチングハブをカスケード接続して利用する場合は、15 番と 16 番ポートでカスケード接続をしてください。

■ 型番 : AT-GS950/24 (単独構成用)

【IGMP スヌーピング設定方法】

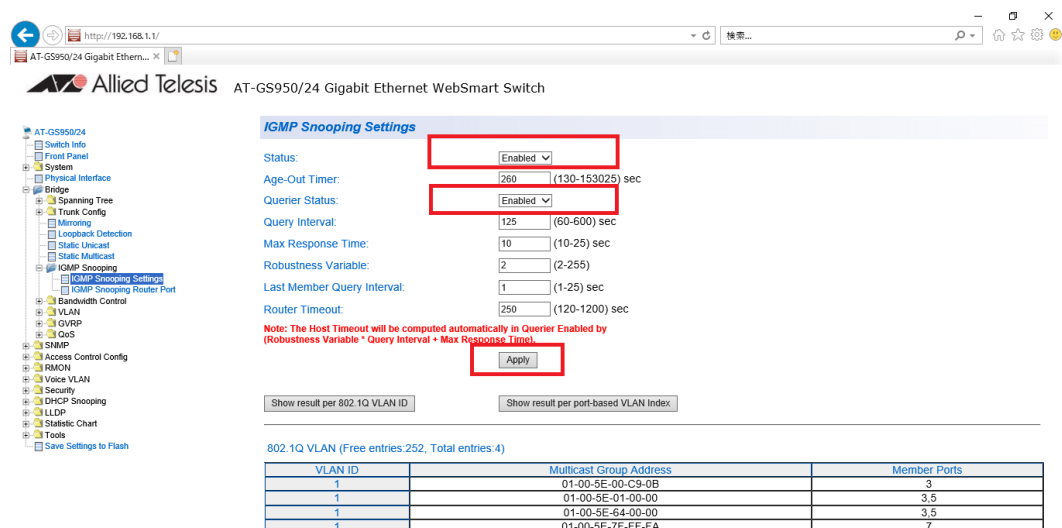
1. 設定はWebブラウザから行います。下記のWebブラウザがインストールされたコンピュータを用意してください。
  - ・Internet Explorer 8、9、10、11
  - ・Mozilla Firefox 38
  - ・Google Chrome 42
  - ・Safari 7.1.6
2. 設定用PCのIPを[192.168.1.200]に設定します。
3. ご購入時のIPアドレス、管理者の初期のUser NameとPasswordは下記のとおりです。
  - ・IPアドレス : 192.168.1.1
  - ・User Name : manager
  - ・Password : friend
4. Web ブラウザーを起動して、上記の情報を入力してログインします。

図 3-6-11



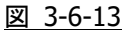
5. 下記のように、IGMP snooping Settings の Status と Query Status を Enabled に変更して、[Apply] ボタンを押します。

図 3-6-12



⚠注意

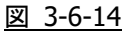
- ・分離統合構成などで、スイッチングハブをカスケード接続して利用する場合は、IGMP snooping Settings の Query Status は Disable にしてください。

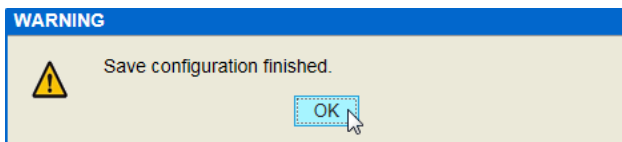
6. ナビゲーションメニューの「Save Settings to Flash」をクリックしてください。
7. Save Settings to Flash ページが表示されます。「Save Settings to Flash」ボタンをクリックしてください。  


## Save Settings to Flash

Save Settings to Flash

**Warning: The switch will stop responding while saving the current configuration to flash.**

8. 保存が成功したことを伝えるメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。  




### ■ 型番 : AT-GS910/16 (連携構成用)

設定は必要ありません。

## 3-7.ハードウェア制御パネルの設定(オプション)

ここでは、オプションのハードウェア制御パネルの設定方法について記載をいたします。設定方法は、教師パソコンにある制御アプリケーションで登録を行ったあと、この設定内容をツールによりハードウェア制御パネル本体に登録する手順となります。

### ⚠注意

- ハードウェア制御パネル「プロジェクター・プレビュー・拡張出力」の登録は、PC 制御アプリケーションの[教卓側出力]で、登録したデバイスの順番により決まります。順番は、1. プロジェクター 2. プレビュー 3. 拡張出力 になります。  
[教卓側出力]の登録手順は(P.44 教卓側出力欄に登録する場合)を参照ください。

- [制御アプリケーション]の設定を完了したあと、教師パソコンと[ハードウェア制御パネル]本体を同梱の[USBケーブル]で接続してください。
- [ハードウェア制御パネル]と[スイッチングハブ]をLANケーブルで接続してください。  
\* 書込み時のエラーチェックを実施するため、必ず事前にLANケーブルで接続をしてください。
- [ハードウェア制御パネル]の[電源]ボタンより、本体の電源をONしてください。
- 同梱 CD あるハードウェア制御パネルの[設定ツール]を教師パソコンの任意のフォルダ(例 c:\¥chieru¥S600-OP¥)にコピーして、この[設定ツール]を起動してください。
- [設定ツール]起動して、ダイアログの[COM ポート]に[USB ケーブル]に割り当てられた COM ポート番号を選択してください。



- ダイアログにある[設置書き込み]ボタンを押下してください。設定内容を[ハードウェア制御パネル]本体へ転送されます。  
[ハードウェア制御パネル]への書き込み処理中、[ハードウェア制御パネル]の各ボタンが点灯して、処理完了後にボタンは消灯をします。



- [ハードウェア制御パネル]の[電源]ボタンより電源 OFF を行って、再起動をしてください。

## ④ポイント

- 分離・統合構成の場合、[ハードウェア制御パネル]も同一システムで複数設置する場合もあります。それぞれの[ハードウェア制御パネル]の IP アドレスが重複しないように設定が必要です。  
初期値：192.168.201.251  
対象の[ハードウェア制御パネル]設定ファイルを以下の設定(例として 192.168.201.252 を指定)を追加することにより、[ハードウェア制御パネル]の IP アドレスを指定することができます。  
設定ファイル： c:\¥chieru¥S600-OP¥DetailSetting.ini  
設定セクション： [Setting]  
設定キー： HWPanel\_IpAddress=192.168.201.252
- ハードウェア制御パネルを利用する場合、入力系統数は7個が上限となります。
- [ハードウェア制御パネル]の[設定読み込み]機能より、設定内容を確認することができます。[ツール]の[設定読み込み]ボタンからファイルへ出力することができます。
- ボタンに貼付されている名称は、ボタンキャップを外して任意の文字に変更することができます。導入する教室環境にあわせて変更を行ってください。
- [ハードウェア制御パネル]での LAN ケーブル接続ができなくなると、全ての操作ボタンを点灯して、お知らせをします。LAN ケーブルを接続後、数秒で操作利用できる状態に復帰します。

---

## 3-8.機器を交換時の手順

ここでは、機器の故障が発生した時に交換する方法を記載いたします。

1. 交換対象機器の本体のタグ番号を確認します。
2. PC の制御アプリケーションで、機器が登録されてあるデバイス設定のリストから交換対象のデバイスを削除します。(「<<」ボタンで移動させる)
  - ・エンコーダーユニットの場合：入力デバイスリスト
  - ・デコーダーユニットの場合：教卓側出力、学生側出力、他教室(統合モード使用時)のリスト
3. PC の制御アプリケーションで、デバイス検知リストで表示された新デバイス IP を設定します。
  - ・エンコーダーユニットの場合：入力デバイス検知リスト
  - ・デコーダーユニットの場合：出力デバイス検知リスト
4. 検知リストで表示された新デバイスをダブルクリックして手動で IP を設定します。(P48 参照)

### 注意

- ほかのデバイスと IP が重複しないように、ご注意ください。

5. 新デバイスを「2」で削除した場所に登録します。
  - ・エンコーダーユニットの場合：入力デバイスリスト
  - ・デコーダーユニットの場合：教卓側出力、学生側出力、他教室(統合モード使用時)のリスト

### ポイント

- 交換される機器と同じ IP を設定する場合は、再度 HW 制御パネルに対して、登録を行う必要はありません。

### ポイント

- HW 制御パネルの場合、上記の手順に従って設定を完了してから、再度 HW 制御パネルに書き込み設定を実施します。

---

## 3-9.FAQ(よくあるお問い合わせ)

ここでは、設置と設定の時にトラブルシューティングの切り分け方法を記載いたします。

### ■画面が表示されない(全部のデコーダー)

1. エンコーダーの Local Display（分配出力端子）にモニタを接続し、映像が表示されるかどうか、ご確認ください。
2. 制御アプリケーションの設定（出力デバイス）にて、デコーダーのタグが表示されるかどうか、ご確認ください。
3. 制御アプリケーションの設定（出力デバイス）にて、デコーダーの IP アドレスが自動 IP 設定（192.168.201.×××）形式になっているかどうか、ご確認ください。
4. 制御アプリケーションの設定（出力デバイス）にて、デコーダーの IP アドレスがその他デコーダーと重複していないかどうか、ご確認ください。
5. 制御アプリケーションの設定（詳細設定）にて、オールデコーダーを再起動して改善するかどうか、ご確認ください。
6. デコーダーの解像度設定にて、解像度を 1080P 以下に変更して改善するかどうか、ご確認ください。
7. 制御アプリケーションの設定（詳細設定）にて、EDID 学習機能を使用して改善するかどうか、ご確認ください。

### ⑨ポイント

- アクティブ光ケーブルの場合は、接続方向を誤っていないか確認してください。

### ■画面が表示されない(一部のデコーダー)

1. スイッチから該当デコーダー経由でモニタまでの、結線ケーブルの状態をご確認ください。
2. 制御アプリケーションの設定（出力デバイス）にて、デコーダーのタグが表示されるかどうか、ご確認ください。
3. 制御アプリケーションの設定（出力デバイス）にて、デコーダーの IP アドレスが自動 IP 設定（192.168.201.×××）形式になっているかどうか、ご確認ください。
4. モニタの電源ボタンを、OFF ⇒ ON することで改善するかどうか、ご確認ください。
5. 該当のデコーダーとモニタまでの HDMI ケーブルを抜き差しして、改善するかどうか、ご確認ください。
6. 該当のデコーダーとスイッチまでの LAN ケーブルを抜き差しして、改善するかどうか、ご確認ください。

7. 該当デコーダー本体の電源を再起動(抜き差し)して改善するかどうか、ご確認ください。

## ④ポイント

- アクティブ光ケーブルの場合は、接続方向を誤っていないか確認してください。

### ■画面が表示されない(エンコーダー)

1. エンコーダーの Local Display（分配出力端子）に別のモニタを接続して、映像が表示されるかどうか、ご確認ください。
2. 制御アプリケーションの設定（入力デバイス）にて、エンコーダーのタグが表示されるかどうか、ご確認ください。
3. 制御アプリケーションの設定（入力デバイス）にて、エンコーダーの IP アドレスが自動 IP 設定（192.168.201.×××）形式になっているかどうか、ご確認ください。
4. 制御アプリケーションの設定（入力デバイス）にて、エンコーダーの IP アドレスがその他エンコーダーと重複していないかどうか、ご確認ください。
5. 該当デコーダー本体の電源を再起動(抜き差し)して改善するかどうか、ご確認ください。
6. 該当の入力機器を別のエンコーダー、もしくは正常に動作しているエンコーダーに接続して、映像が表示されるかどうか、ご確認ください。
7. 該当の入力機器ソースの解像度を 1080P 以下に変更して改善するかどうか、ご確認ください。
8. 制御アプリケーションの設定（詳細設定）にて、EDID 学習機能を使用して改善するかどうか、ご確認ください。

### ■制御アプリケーションで機器が認識されない(エンコーダー/デコーダー)

1. スイッチと該当機器が LAN ケーブル接続されているかどうか、ご確認ください。
2. 制御アプリケーションがインストールされた PC にて、IP アドレスが「192.168.201.250」で設定されているかどうか、ご確認ください。
3. 制御アプリケーションを再起動して改善するかどうか、ご確認ください。
4. エンコーダー/デコーダーを再起動して改善するかどうか、ご確認ください。
5. スイッチングハブを再起動して改善するかどうか、ご確認ください。

## ④ポイント

- 一部の機器で発生している場合は、制御アプリケーションがインストールされた PC と、該当機器を直接 LAN ケーブル接続し、認識されるかどうかご確認ください。



#### ■ハードウェア制御パネルのボタンが効かない

1. ハードウェア制御パネルの電源を落として、LAN ケーブルの接続を確認（抜き差し）して、ハードウェア制御パネルの電源を再度投入し、動作をご確認ください。
2. ハードウェア制御パネルの電源を落として、LAN ケーブルを交換して、ハードウェア制御パネルの電源を再度投入し、動作をご確認ください。

#### ④ポイント

- ハードウェア制御パネルに対して、設定の登録が終わっていない場合は、「3-7.ハードウェア制御パネルの設定(オプション)P.67」を実施ください。

#### ■ハードウェア制御パネルの設定時に USB ケーブル（USB Serial Port）が認識されない

ハードウェア制御パネルの設定時に、PC から USB ケーブル（USB Serial Port）が認識されない場合、以下 URL をご参照ください。

<https://support.chieru.net/i/a/566>

# 4

## 4.システム操作

---

ここでは、S600-OP 制御アプリケーションやスイッチングハブの設定方法について説明します。

- 制御アプリケーションの各ボタン概要
- 制御アプリケーションの操作方法

## 4-1.制御アプリケーションの各ボタン概要



ここでは、S600-OP システムの制御に使用する制御アプリケーションの各ボタン概要について説明します。

### 各ボタンの概要-中間モニタ(単独)構成の場合

図 4-1-1



表 4-1-1

No.	名 称	説 明
①	学校名	学校名を表示します。 デフォルト：制御アプリケーション
②	オールキャンセルボタン	すべての選択状態をキャンセルします。
③	分離 / 統合ボタン	分離モード、統合モードの切り換えを行います。
④	ミュートボタン	全出力機器の音声出力を停止します。
⑤	設定ボタン	操作パネルの各種設定画面を表示します。
⑥	縮小 / 閉じるボタン	<div> ：制御アプリケーションのウィンドウを縮小します。 </div> <div> ：制御アプリケーションのウィンドウを閉じます。 </div>
⑦	オール投影ボタン	選択した入力機器をすべての出力機器に表示させます。
⑧	INPUT	[入力機器の選択]ボタンを表示します。
⑨	OUTPUT	[出力機器の選択]ボタンを表示します。

## 各ボタンの概要-アクティブラーニング構成の場合

図 4-1-2

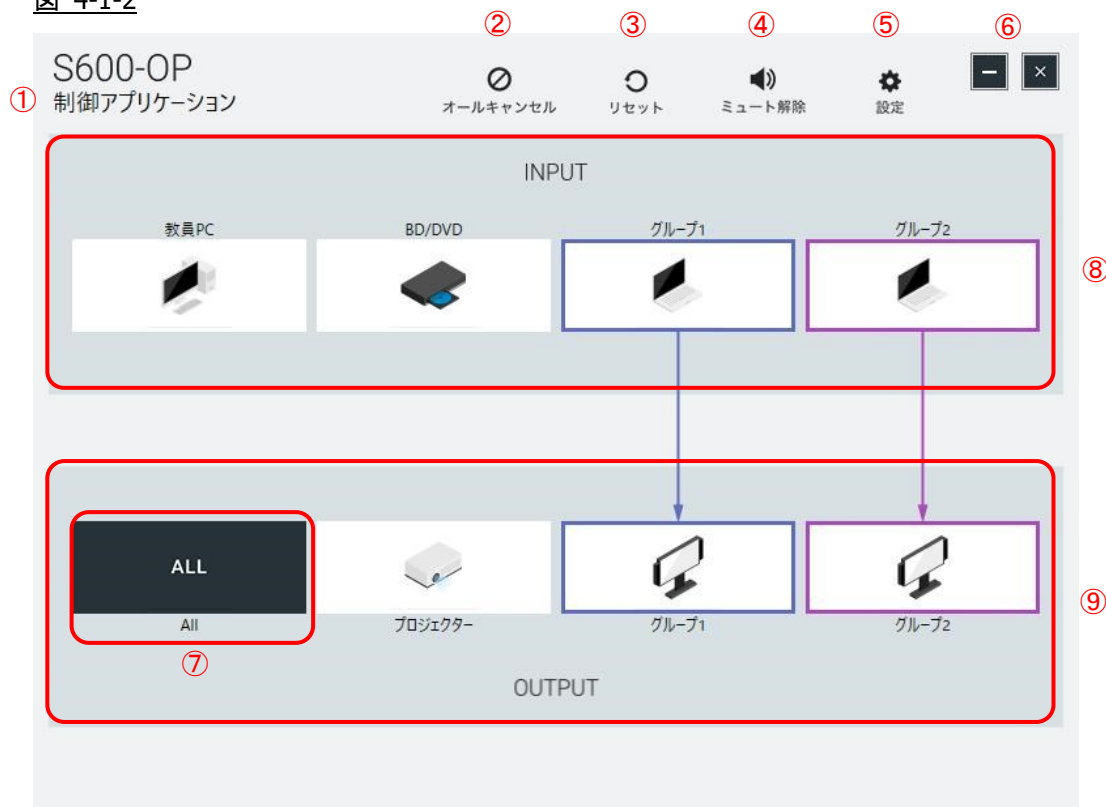


表 4-1-2

No.	名 称	説 明
①	学校名	学校名を表示します。 デフォルト：制御アプリケーション
②	オールキャンセルボタン	すべての選択状態をキャンセルします。
③	リセットボタン	初期値への切り換えを行います。
④	ミュートボタン	全出力機器の音声出力を停止します。
⑤	設定ボタン	操作パネルの各種設定画面を表示します。
⑥	縮小 / 閉じるボタン	<div> ：制御アプリケーションのウィンドウを縮小します。 </div> <div> ：制御アプリケーションのウィンドウを閉じます。 </div>
⑦	オール投影ボタン	選択した入力機器をすべての出力機器に表示させます。
⑧	INPUT	[入力機器の選択]ボタンを表示します。
⑨	OUTPUT	[出力機器の選択]ボタンを表示します。

## 4-2.制御アプリケーションの操作方法

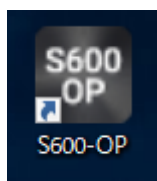
ここでは、操作パネルを使用した実際の操作方法について説明します。

### S600-OP 制御アプリケーションの起動

S600-OP 制御アプリケーションの起動方法を説明します。

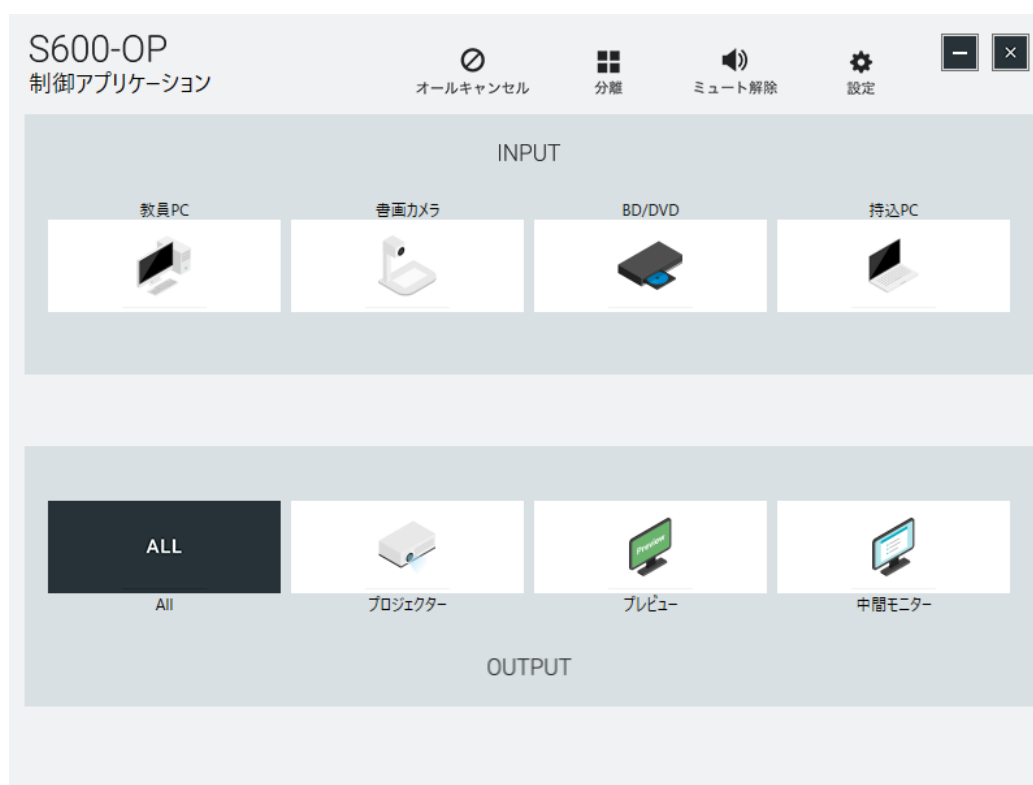
1. S600-OP 制御アプリケーションをインストール後、下記のアイコンをダブルクリックします。

図 4-2-1



2. S600-OP 制御アプリケーションが起動します。

図 4-2-2



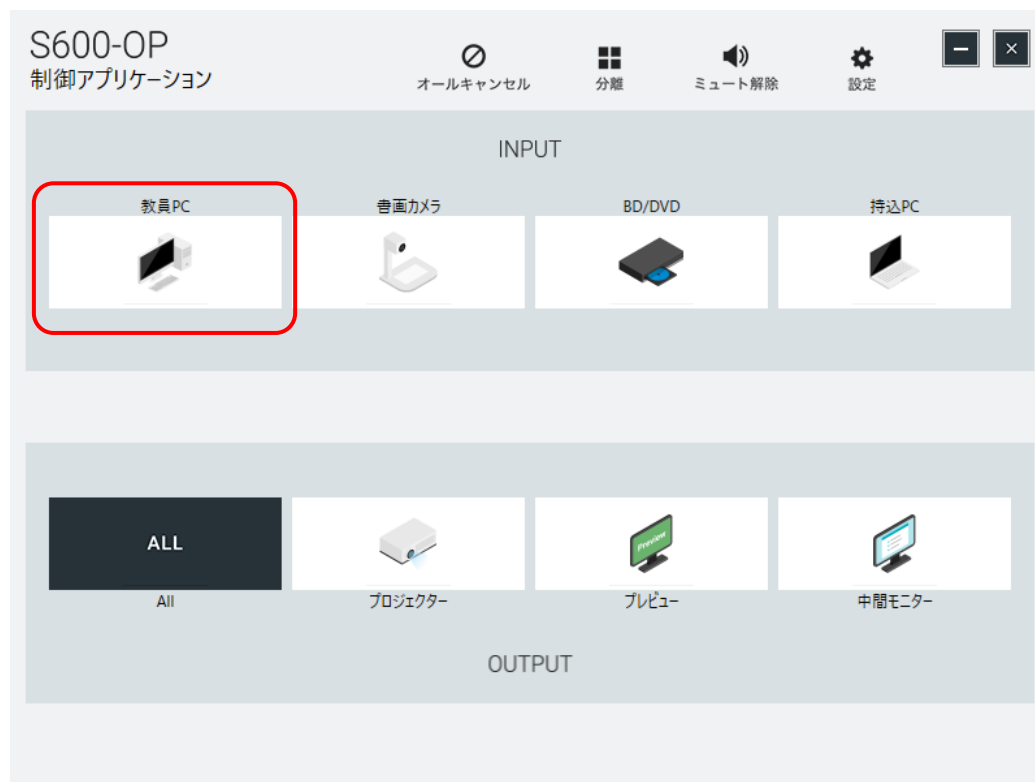
## 基本操作：映像および音声の送出

映像・音声の送出の手順について説明します。ここでは、「再生機器を単体に投影する」、「再生機器を複数に投影する」、「再生機器を別々の OUTPUT 側機器に投影する」手順について説明します。

### 【再生機器を単体に投影する】

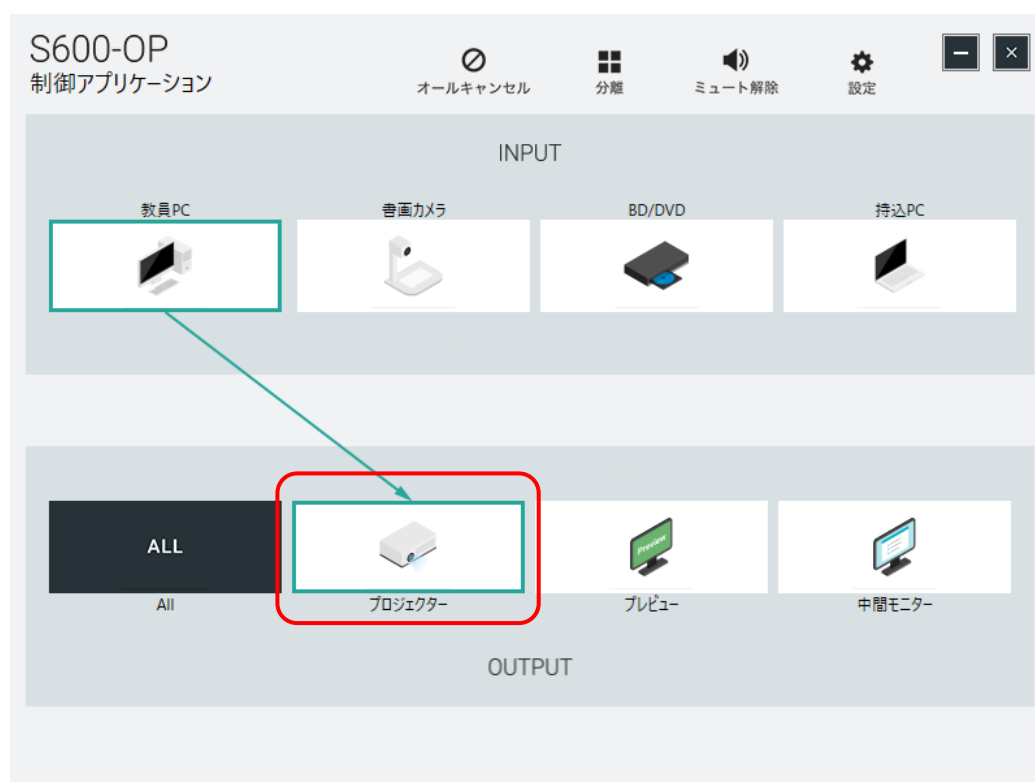
1. 利用したい INPUT 側再生機器ボタンを選択します。

図 4-2-3



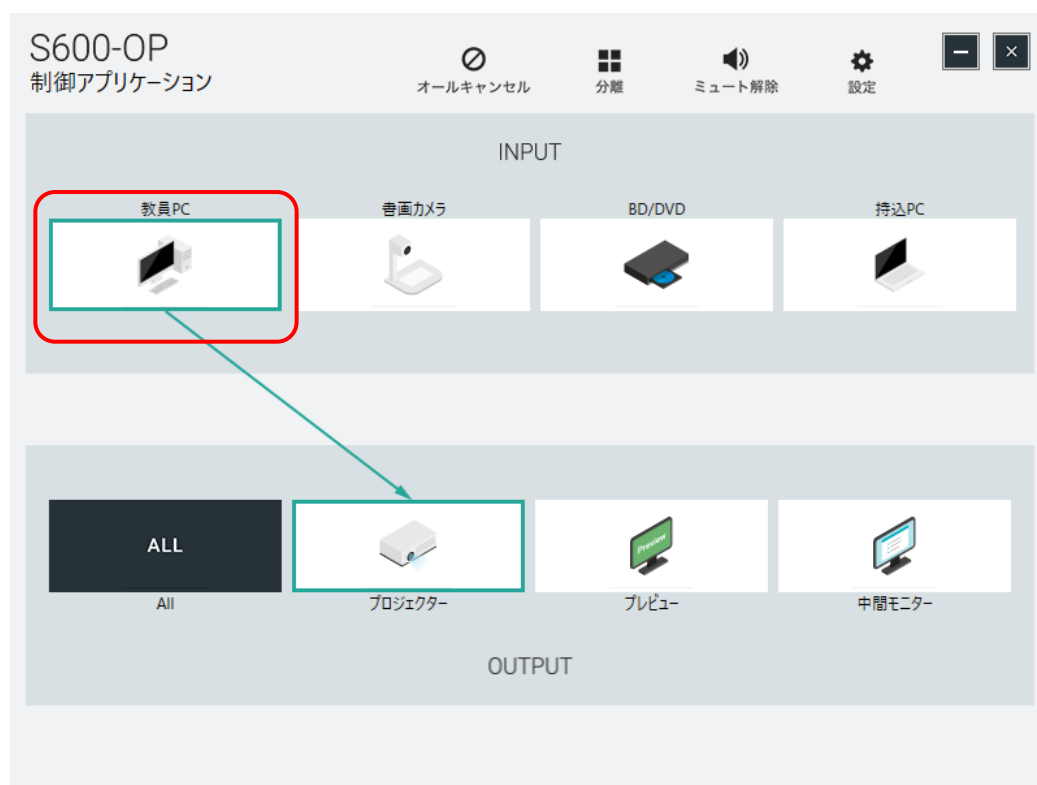
2. 表示させたい OUTPUT 側機器のボタンを選択します。

図 4-2-4



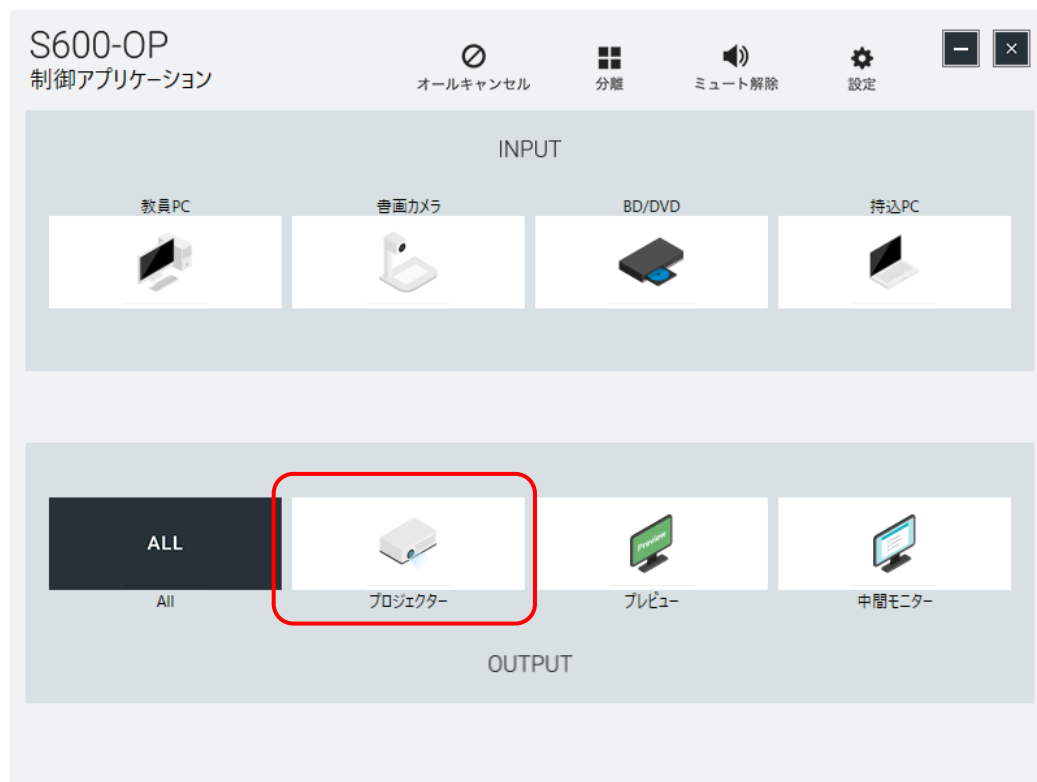
3. 結線を解除するには、選択している再生機器ボタンを選択します。

図 4-2-5



4. OUTPUT 側機器のボタンを選択します。

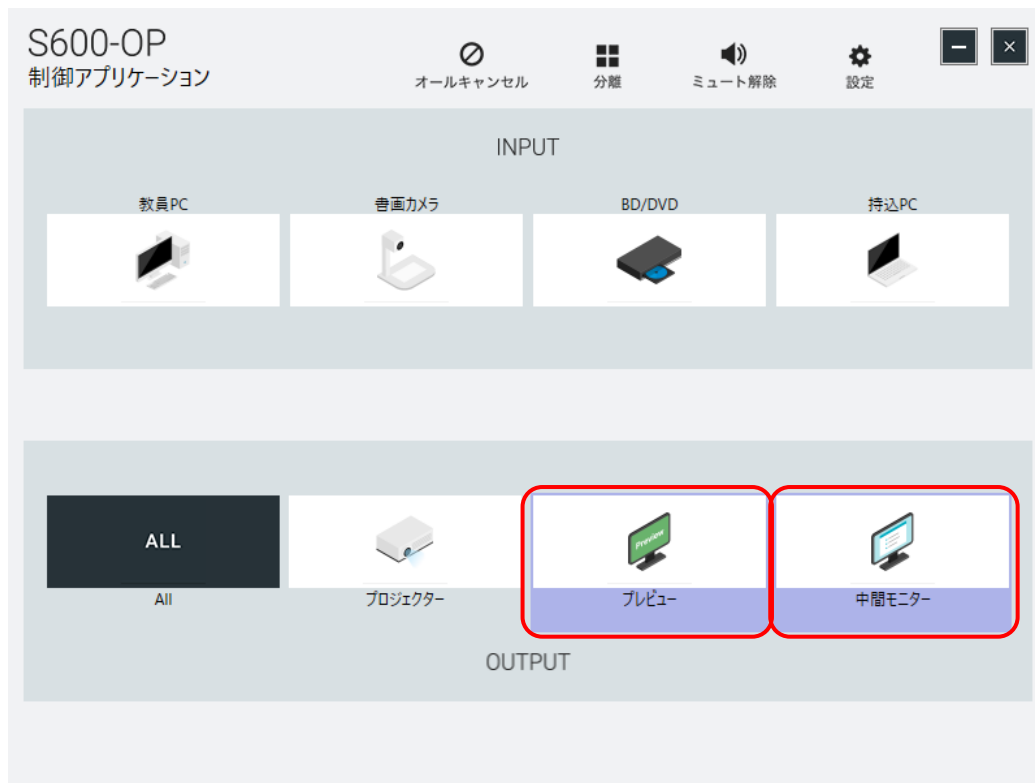
図 4-2-6



【再生機器を複数に投影する】

1. 表示させたい OUTPUT 側機器のボタンを複数選択します。

図 4-2-7



2. 利用したい INPUT 側再生機器ボタンを選択します。

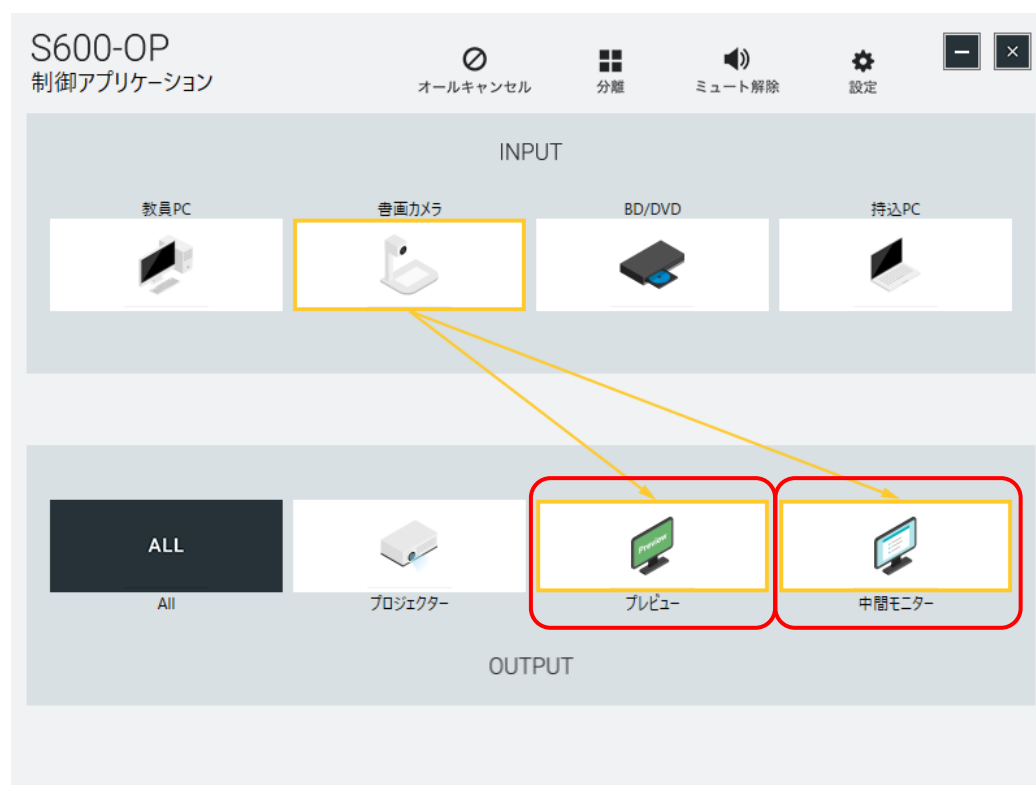
図 4-2-8





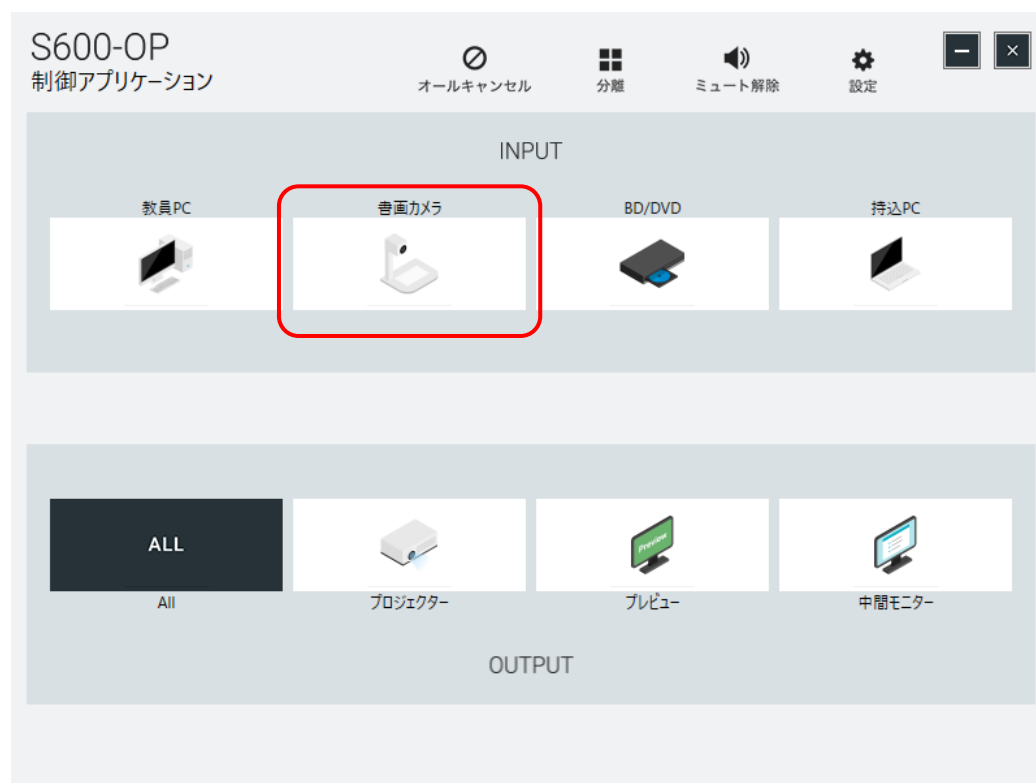
3. 結線を解除するには、OUTPUT 側機器のボタン（複数）を選択します。

図 4-2-9



4. 選択している再生機器ボタンを選択します。

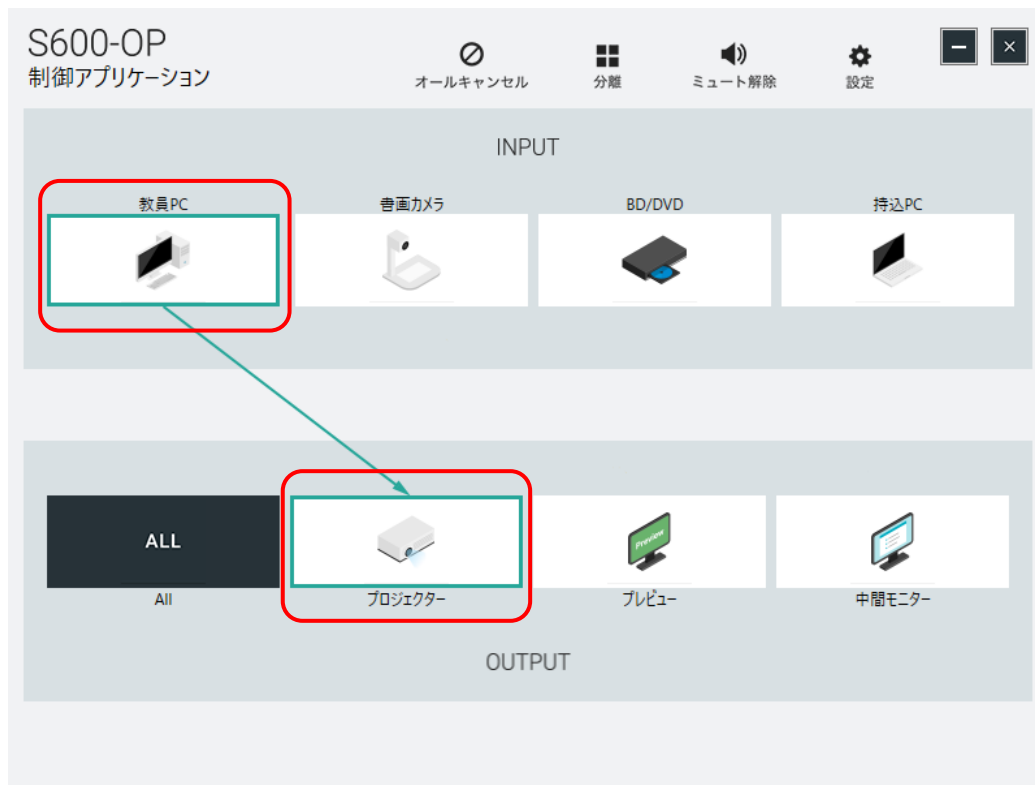
図 4-2-10



【再生機器を別々の OUTPUT 側機器に投影する】

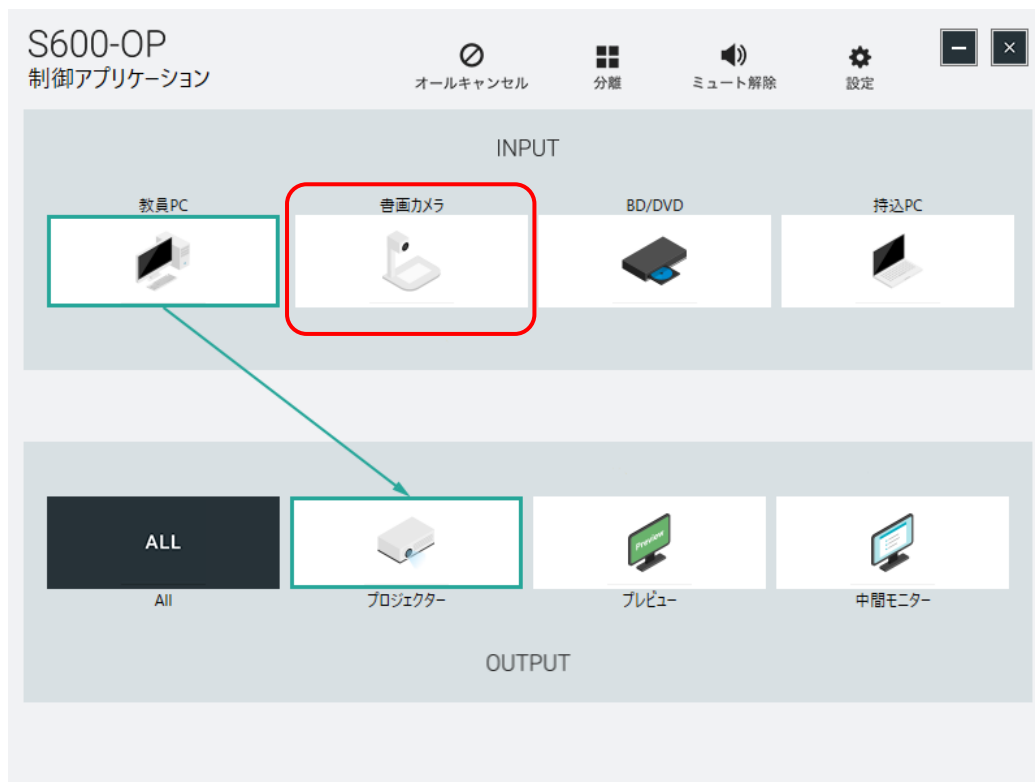
1. 任意の再生機器を投影した状態にします。

図 4-2-11



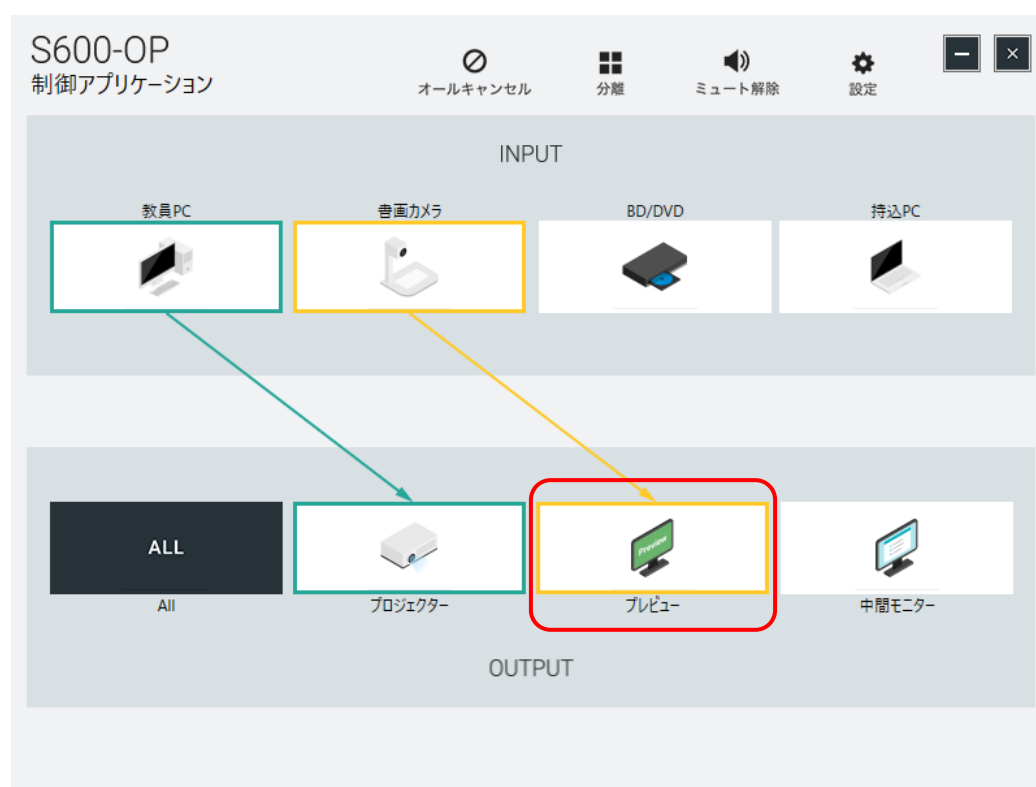
2. 選択されていない INPUT 側再生機器ボタンを選択します。

図 4-2-12



3. 選択されていない、表示させたい OUTPUT 側機器のボタンを選択します。

図 4-2-13



### ⑨ポイント

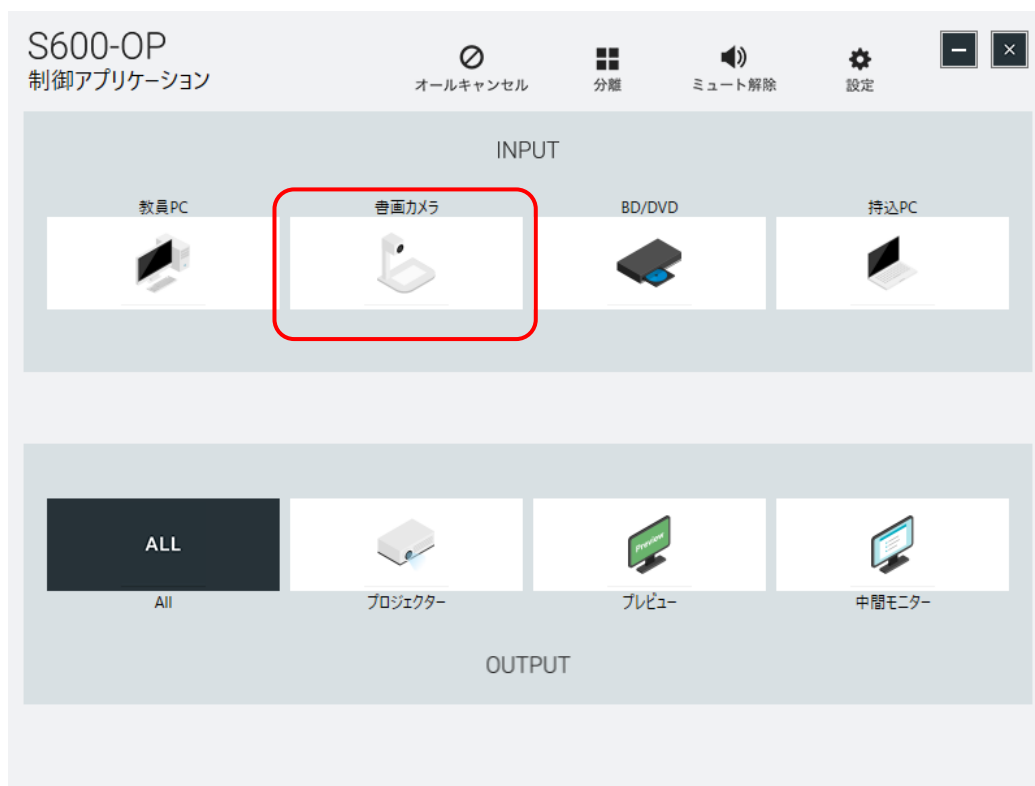
- 結線の解除手順は、【再生機器を単体に投影する】と同様の手順になります。

## 選択したソースを全ての機器に投影する

ここでは、選択した再生機器の映像を全ての機器に投影する手順について説明します。

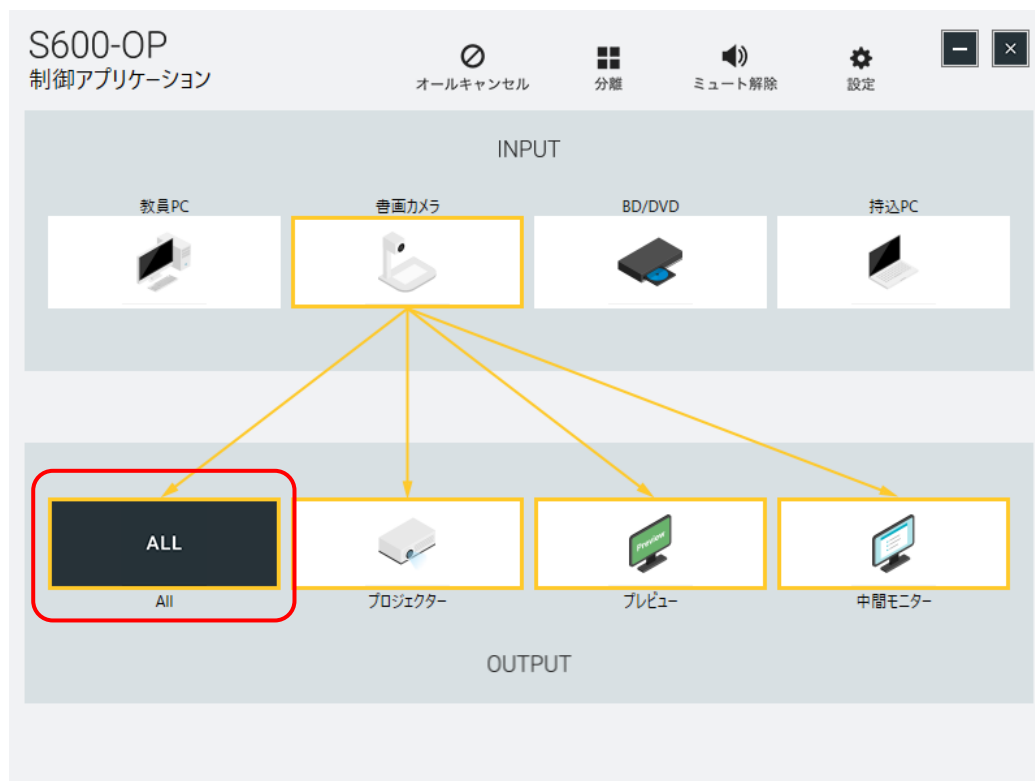
1. 利用したい INPUT 側再生機器ボタンを選択します。

図 4-2-14



2. [ALL]ボタンを選択します。

図 4-2-15



## 映像・音声の送出を停止する

ここでは、送出している映像・音声を停止する手順について説明します。

### ■ すべての映像・音声の送出を停止する場合

図 4-2-16



[オールキャンセル]ボタンを押すと、すべての入出力選択状態が解除されます。

### ■ 送出する音声すべてを停止する場合

図 4-2-17



[ミュート解除]ボタンを押すと、[ミュート]表示になり、送出しているすべての音声の音が停止します。

### ■ 中間モニタの音声を利用したい場合

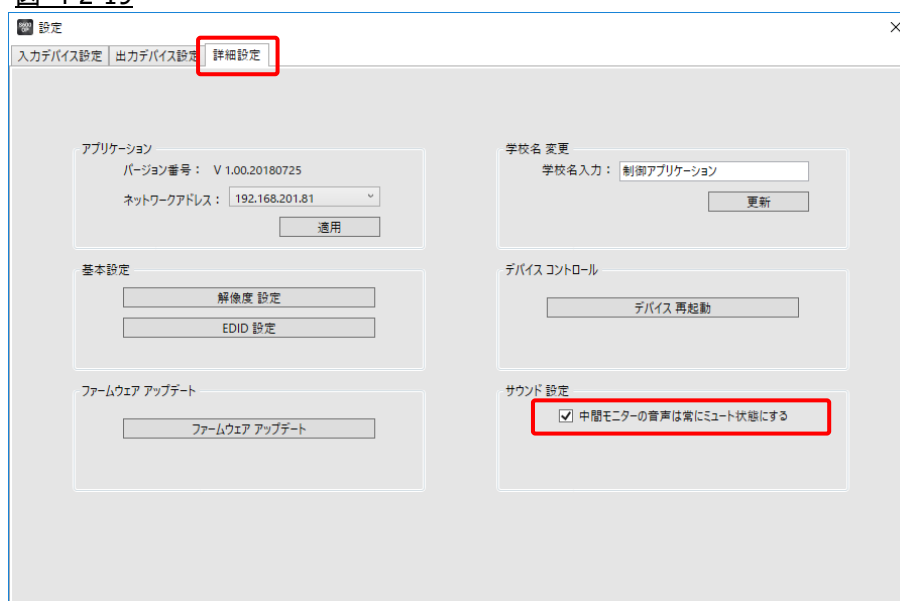
図 4-2-18

1.[設定]ボタンを選択します。



2.[詳細設定]タブ選択し、サウンド設定の[中間モニターの音声は常にミュート状態にする]にチェックを外します。

図 4-2-19



[中間モニターの音声は常にミュート状態にする]にチェックを外しますと、学生側出力の音声状態はパネルのミュートボタンの動作と連動します。

## 4-3.ハードウェア制御パネル(オプション)の操作方法

ここでは、操作パネルを使用した実際の操作方法について説明します。

### 各ボタンの概要

図 4-3-1

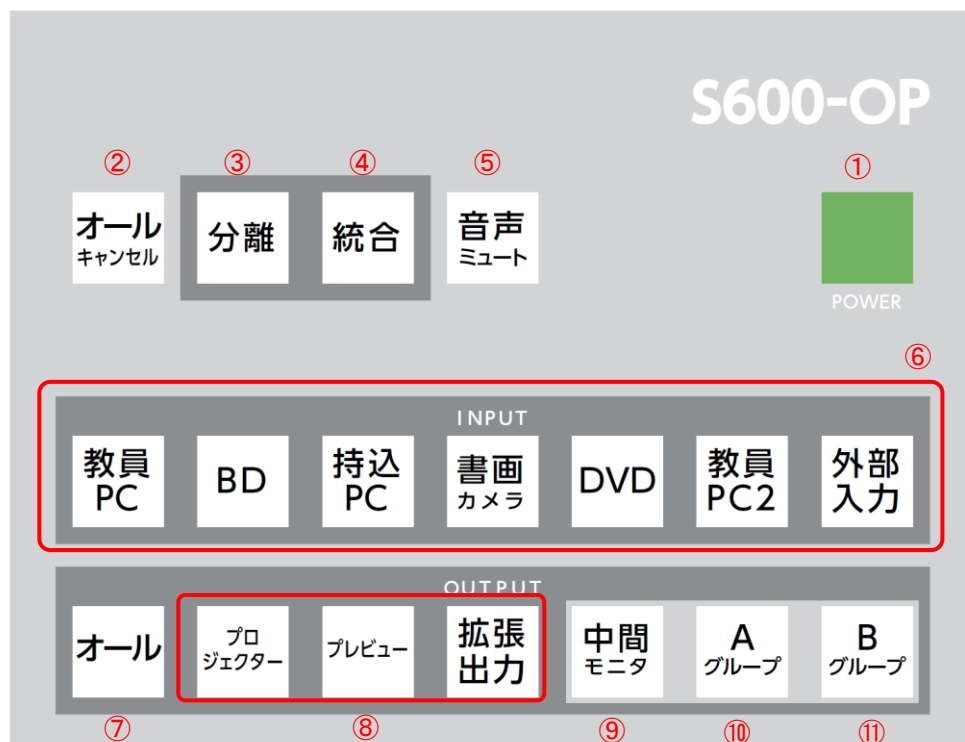


表 4-3-1

No.	名 称	説 明
①	電源ボタン	[ハードウェア制御パネル]本体の電源の制御を行います。
②	オールキャンセルボタン	すべての選択状態をキャンセルします。
③	分離ボタン	分離モードへの切り換えを行います。
④	統合ボタン	統合モードへの切り換えを行います。
⑤	音声ミュートボタン	音声ミュートを行います。
⑥	INPUT	[入力機器の選択]を行うことができます。
⑦	オール投影ボタン	選択した入力機器をすべての出力機器に表示させます。
⑧	OUTPUT	[出力機器の選択]ボタンを表示します。
⑨	中間モニタボタン	出力機器として「中間モニタ」を選択します。
⑩	Aグループボタン	出力機器として「中間モニタ」のAグループを選択します。
⑪	Bグループボタン	出力機器として「中間モニタ」のBグループを選択します。

## 注意

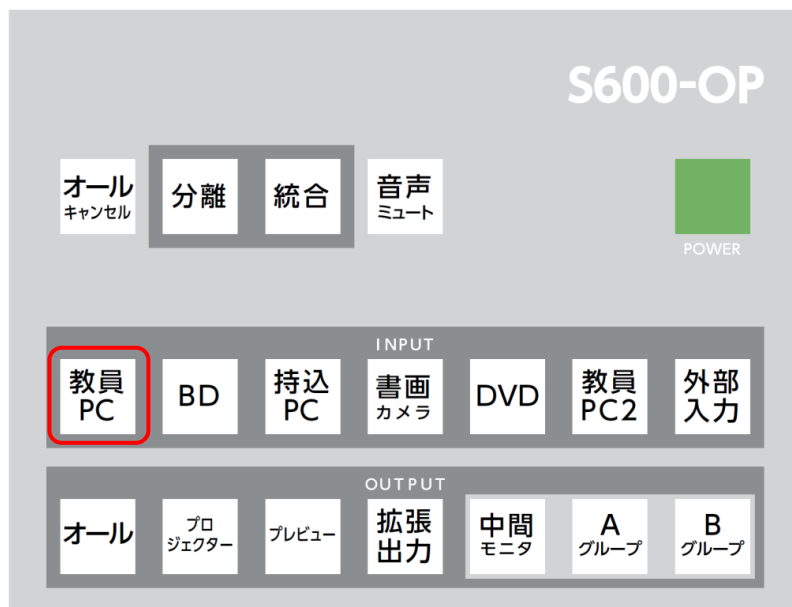
- [ハードウェア制御パネル]の電源 ON 時直後、初期化処理のため全ての操作ボタンがしばらく点灯します。操作ボタンが消灯してから操作を行うことができます。
- [ハードウェア制御パネル]を利用しないときには、電源ボタンにより電源を切ってください。
- [制御アプリケーション]と[ハードウェア制御パネル]を同時に操作することはできません。授業利用では、どちらか一方で操作するようにしてください。
- 利用できないボタン（登録されていない入力機器、出力機器、分離・統合）を押下したときには、ビープ音で通知します。
- A グループボタン、B グループボタンは、中間モニタのグループ登録があるときのみ、有効となります。なお、これらのボタンを連続操作した場合には、一部、ボタン状態表示に制限が生じます。

## 基本操作：映像および音声の送出

映像・音声の送出の手順について説明します。ここでは、「再生機器を単体に投影する」、「再生機器を別々の OUTPUT 側機器に投影する」手順について説明します。

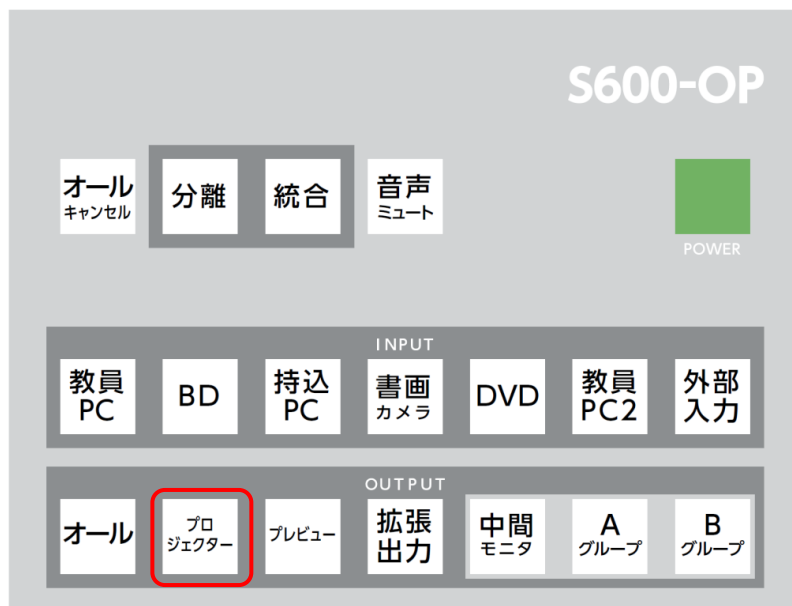
1. 利用したい INPUT 側再生機器ボタンを選択します。

図 4-3-2



2. 表示させたい OUTPUT 側機器のボタンを選択します。

図 4-3-3



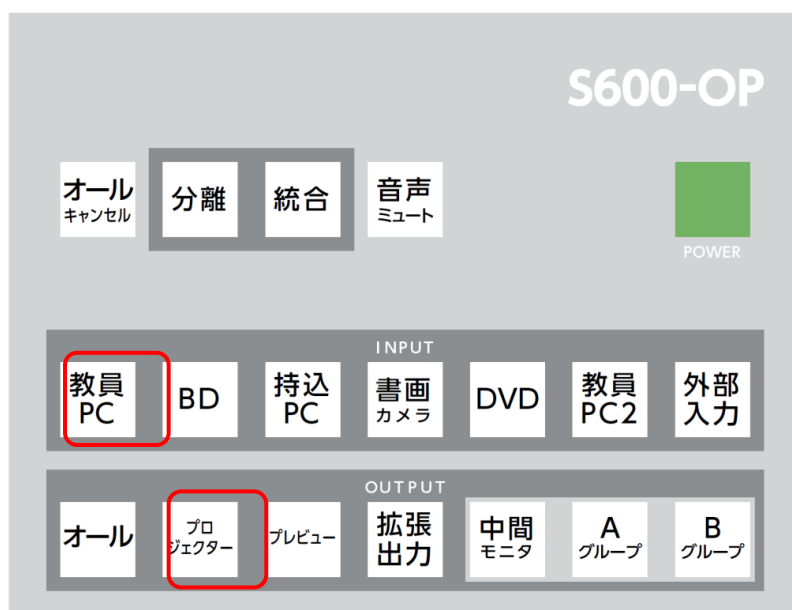
3. 結線を解除するには、もう一度、対象の OUTPUT 側機器ボタンを選択します。



【再生機器を別々の OUTPUT 側機器に投影する】

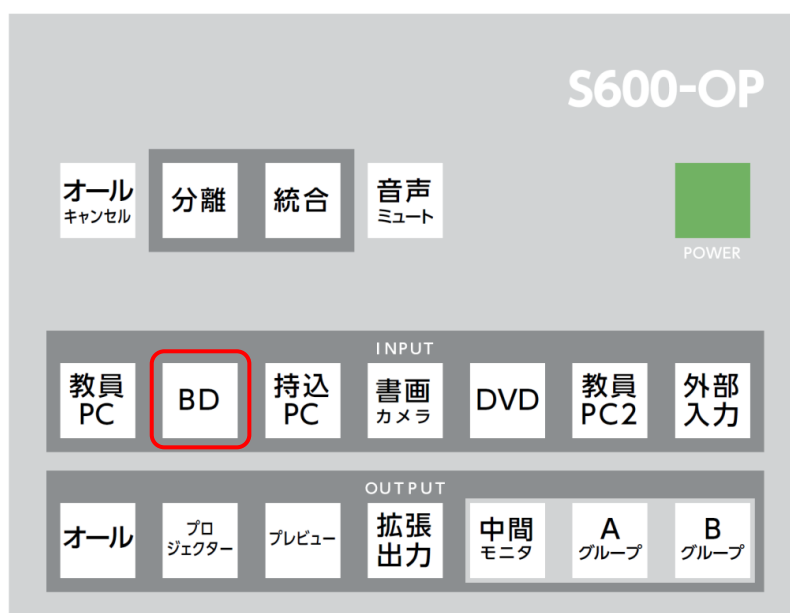
1. 任意の再生機器を投影した状態にします。

図 4-3-4



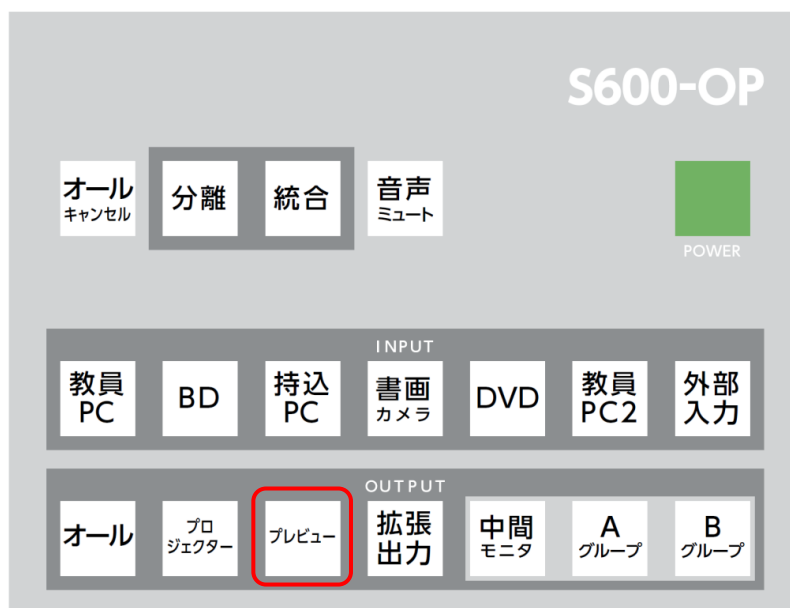
2. 選択されていない INPUT 側再生機器ボタンを選択します。

図 4-3-5



3. 選択されていない、表示させたい OUTPUT 側機器のボタンを選択します。

図 4-3-6



#### ④ポイント

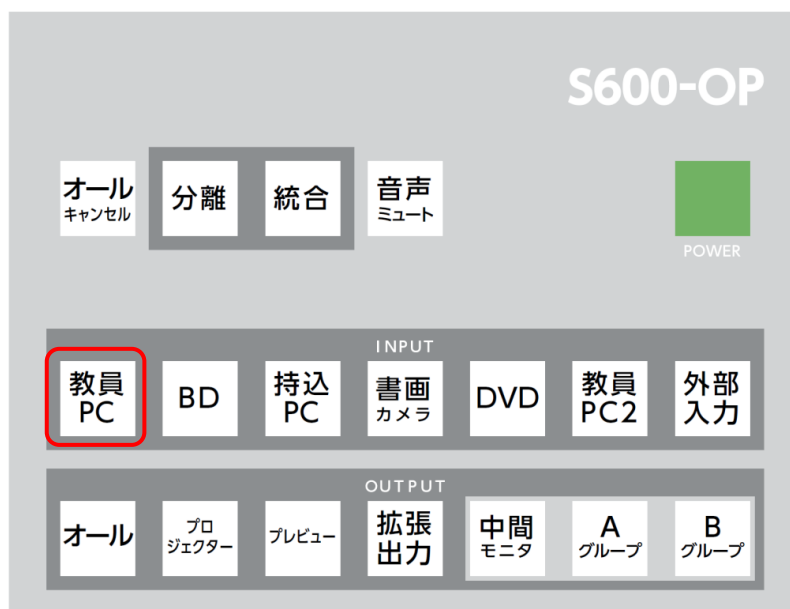
- 結線の解除手順は、点灯している【再生機器】ボタンを長押しすることにより解除できます。

## 選択したソースを全ての機器に投影する

ここでは、選択した再生機器の映像を全ての機器に投影する手順について説明します。

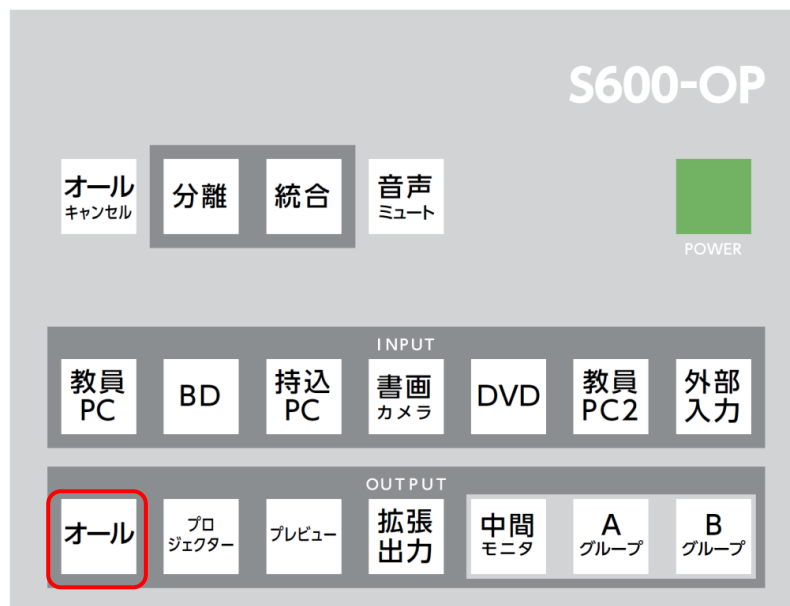
1. 利用したい INPUT 側再生機器ボタンを選択します。

図 4-3-7



2. [ALL]ボタンを選択します。

図 4-3-8

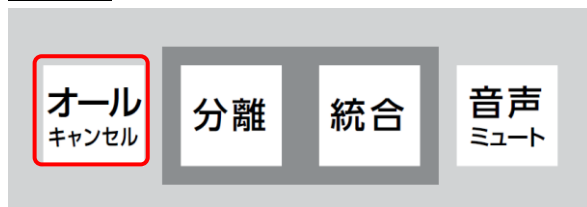


## 映像・音声の送出を停止する

ここでは、送出している映像・音声を停止する手順について説明します。

### ■ すべての映像・音声の送出を停止する場合

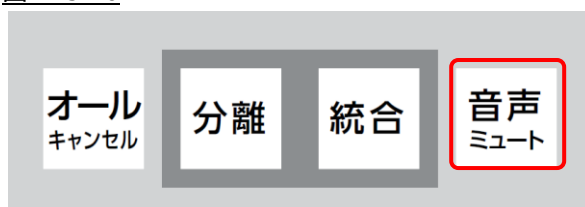
図 4-3-9



[オールキャンセル]ボタンを押すと、すべての入出力選択状態が解除されます。

### ■ 送出する音声すべてを停止する場合

図 4-3-10



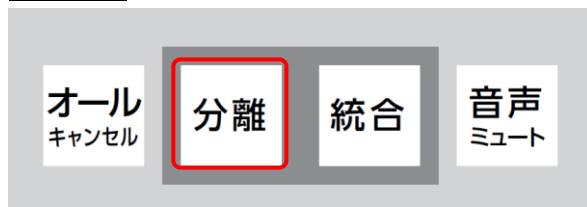
[ミュート解除]ボタンを押すと、[ミュート]表示になり、送出しているすべての音声停止します。

## 分離・統合モードの切替方法

ここでは、2つの教室を統合利用する場合での分離・統合モードの切替の手順について説明します。

### ■ 分離モードへモード切替をする場合

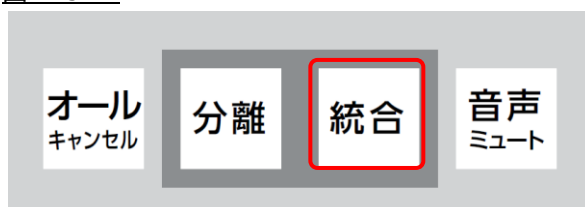
図 4-3-11



[分離]ボタンを押すと、分離モードへの切替えが行われます。

### ■ 統合モードへモード切替をする場合

図 4-3-12



[統合]ボタンを押すと、統合モードへの切替えが行われます。

### ㊟ポイント

- 統合ボタンを押したときには、最後に選択された INPUT のソースをメイン教室とサブ教室の中間モニタへ出力します。

# CHieru サポートについて

---

下記サポートセンターまでお問い合わせください。

**URL** <http://technical.chieru.co.jp/>

**E-Mail** [support@chieru.co.jp](mailto:support@chieru.co.jp)

**TEL** 03-5781-8110

**FAX** 03-6712-9461

**【受付時間】**

午前 10 時～正午、午後 1 時～午後 5 時

土曜日、日曜日、祝祭日および弊社指定休日は休業させていただきます。

---

## S600-OP マニュアル

2021 年 12 月

作成/発行/企画 チエル 株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F

※ 記載されている会社名及び商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

---

\*本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

\*本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複写することを禁じます。

\*本書の内容については万全を期して制作致しましたが、万一記載に誤りや不完全点がありましたらご容赦ください。

## CHieru チエル 株式会社

- 本 社 〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F  
TEL: (03)6712-9721 FAX: (03)6712-9461
- 札幌営業所 〒060-0062 北海道札幌市中央区南 2 条西 9 丁目 1-2 サンケン札幌ビル 6F  
TEL: (011) 804-7170 FAX: (011) 804-7171
- 仙台営業所 〒980-0013 宮城県仙台市青葉区大町 1-4-1 明治安田生命仙台ビル 3F  
TEL: (022)217-2888 FAX: (022)206-5222
- 首都圏営業所 〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F  
TEL: (03) 6712-9471 FAX: (03)6712-9461
- 名古屋営業所 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 1-18-11 CK21広小路伏見ビル 3F  
TEL: (052)857-0082 FAX: (052)857-0083
- 大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 7-1-29 新大阪 SONE ビル 5F  
TEL: (06)6838-3077 FAX: (06)4806-7056
- 広島営業所 〒732-0828 広島県広島市南区京橋町 1-7 アスティ広島京橋ビルディング 2F  
TEL: (082)236-6077 FAX: (082)236-6078
- 福岡営業所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅東 2-4-17 第 6 岡部ビル 5F  
TEL: (092)483-1603 FAX: (092)483-1604
- 沖縄営業所 〒901-2127 沖縄県浦添市屋富祖一丁目 6 番 3 号 森ビル  
TEL: (098)943-0511 FAX: (098)943-0669

<http://www.chieru.co.jp>